

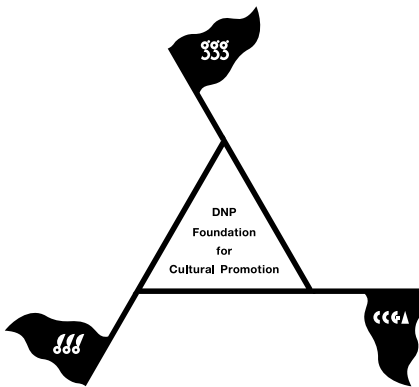
Graphic Art & Design Annual

The background of the entire page is a complex, abstract geometric pattern. It consists of numerous overlapping, irregular shapes in black, white, and various shades of gray. These shapes include triangles, polygons, and elongated forms, some of which contain small white dots. The overall effect is a dense, dynamic, and somewhat chaotic visual texture that resembles a stylized, high-contrast image of a natural phenomenon like a starburst or a microscopic view of a material.

2019

DNP Foundation for Cultural Promotion

Graphic Art & Design Annual



[表紙デザイン]

「破片」

「わたしたちはなぜ今ここに、この自分として（中略）存在するのかわ

そしてやがてある日ある時どこへ去るのか、あるいは帰るのか？ あるいは永遠にさまようのか？（中略）

そしてこのわたし、それはたれなのか？ このわたしはわたしなのか？」

（『人間のあらし』／トリスタン・ツアラ著／宮原庸太郎訳）より

矢萩喜從郎

[Cover Design]

“Fragment”

“Why do we exist as ourselves here, now?

And where eventually, someday, sometime, do we go or return to? Or do we wander forever?

And this *me*, who am I? Am I me?”

(English paraphrase of excerpt from Tristan Tzara's epic poem “The Approximate Man”)

Kijuro Yahagi

Graphic Art & Design Annual 2019 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion

DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,

Chuo-ku, Tokyo 104-0061

Phone: +81 3 5568 8224

Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion

Art Direction: Shin Matsunaga

Design: Shinjiro Matsunaga

Design Assistance: Moemi Kiyokawa, Tomoko Takagawa

Cover Design: Kijuro Yahagi

Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg),

Ryota Sakai, Kyosuke Kawanami (ggg gallery talk)

Akihito Yoshida, Masuhiro Machida (ddd / ddd gallery talk)

Translation: Rei Muroji

Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Contents

目次

はじめに ————— 5

北島 義俊 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)

序文:

異文化間コミュニケーションとグラフィックデザイン
アムステルダム市立美術館と日本 ————— 6
カロリン・フラーゼンブルグ (アムステルダム市立美術館 元グラフィックデザイン・キュレーター)

1 展示事業 ————— 11

ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2019-20 ————— 12
京都 ddd ギャラリー (ddd) 2019-20 ————— 28
CCGA 現代グラフィックアートセンター 2019-20 ————— 40

2 教育・普及事業 ————— 49

ggg, ddd ギャラリートーク ————— 50
CCGA 版画工房ワークショップ ————— 54
出版活動 2019-20 ————— 55

3 アーカイブ事業 ————— 57

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ ————— 58

4 国際交流事業 ————— 63

AGI 総会 ロッテルダム 2019 ————— 64
企画展「カラフル・ジャパン」協力
オランダ アムステルダム市立美術館 ————— 65
企画展「メイド・イン・ジャパニーズ・松永真: ポスター」協力
ドイツ・エッセン フォルクヴァンク美術館 ————— 66
企画展「ハロー! 田中一光」協力 香港 ギャラリー Space 27 ————— 68

5 研究助成事業 ————— 71

バウハウス 100 周年記念講演会
アフター・ザ・バウハウス: ニュー・バウハウスとブラック・マウンテン・カレッジ — 72
グラフィック文化に関する学術研究助成 ————— 73
2019-20 年度 助成実績 ————— 76

展覧会概要 2019-20 ————— 77

展覧会一覧 1986-2020 ————— 82

ギャラリー概要 ————— 92

Foreword ————— 5

Yoshitoshi Kitajima (Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)

Introduction:

Intercultural communication and graphic design
Japan and the Stedelijk Museum Amsterdam ————— 6
Carolien Glazenburg (former curator of graphic design Stedelijk Museum Amsterdam)

1 Exhibitions ————— 11

ginza graphic gallery (ggg) 2019-20 ————— 12
kyoto ddd gallery (ddd) 2019-20 ————— 28
Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) 2019-20 ————— 40

2 Education & Enlightenment ————— 49

ggg, ddd Gallery Talk ————— 50
CCGA Print Studio Workshops ————— 54
Publications 2019-20 ————— 55

3 Archiving ————— 57

DNP Graphic Design Archives ————— 58

4 International Exchange ————— 63

AGI Congress Rotterdam 2019 ————— 64
Support of "Colorful Japan - 226 Posters from the Collection" Exhibition
at Stedelijk Museum Amsterdam, The Netherlands ————— 65
Support of "Shin Matsunaga Made in Japan - Plakate" Exhibition
at Museum Folkwang / German Poster Museum in Essen, Germany — 66
Support of "Hello! Ikko Tanaka" Exhibition at Space 27 in Hong Kong, China — 68

5 Research Grants ————— 71

Bauhaus 100th Anniversary Lecture
After the Bauhaus: The New Bauhaus and Black Mountain College — 72
Graphic Culture Research Grants ————— 73
2019-20 Financial Support Activities ————— 76

Review of ggg, ddd and CCGA 2019-20 ————— 77

List of Exhibitions 1986-2020 ————— 82

Galleries' General Information ————— 92

Foreword

はじめに

新型コロナウイルス感染症によって失われた多くの尊い命に深い哀悼の意を捧げますとともに、感染された方々に心からお見舞い申し上げます。

2020年は、新型コロナウイルスが全世界に広がり、当財団では予定されていた展覧会のほとんどが延期となり、予断を許さない状況は続きそうですが、今年3月までの2019年度の展示事業は、当初予定の会期通り開催することができました。

2019年度のギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) では、7回の企画展を開催しました。また、京都dddギャラリーでは5回、現代グラフィックアートセンター (CCGA) では、3回の企画展を開催しました。なかでも、CCGAと京都dddギャラリーで開催されたDNPグラフィックデザイン・アーカイブの所蔵品展「ヘイセイ・グラフィックス」は、平成から令和に移るタイミングの企画展としてTVや新聞に取り上げられ話題となりました。さらに、gggでこの春開催された「河口洋一郎」展は、環境に適応して命を繋いできた生物へのリスペクトに溢れていて、まるで今の困難な時代状況を予知していたかのようなエネルギーを秘めたものになりました。

教育・普及事業としては、バウハウス100周年記念イベントとして、4人の講師を招いて、講演会「アフター・ザ・バウハウス：ニュー・バウハウスとブラック・マウンテン・カレッジ」を開催いたしました。バウハウスの活動に興味ある専門性の高い方々が多数参加され、好評を得ました。

国際交流事業では、オランダのアムステルダム市立美術館で「カラフル・ジャパン」展が開催され、当財団から寄贈した日本のポスターを中心に226点が展示されました。この展覧会は、同館他企画展と合わせて入館者数315,630人を記録し、オランダと日本のグラフィック文化交流の大きな懸け橋となりました。

新型コロナウイルス感染の影響により、これまで常識だと思われていたことや当たりまえのことが大きく変わり、新しい日常が訪れつつあります。2020年東京オリンピック・パラリンピックも延期になりました。こうした困難な状況にあればこそ、DNPが文化的事業で貢献できることは何かを真摯に問い直し、これまで以上に積極的に発信していきたいと考えています。今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

On behalf of the DNP Foundation for Cultural Promotion, I offer our sincere condolences to all those who have lost loved ones to COVID-19, and our best wishes for a full recovery by everyone who has been infected by the novel coronavirus.

In 2020, amid the continuing spread of the global pandemic, almost all of our exhibitions planned for this year were postponed, and today the situation remains unpredictable. Fortunately, we were able to undertake our exhibition activities of the 2019 fiscal year – April 2019 through March 2020 – on schedule.

In fiscal 2019 a total of seven regular exhibitions were mounted at ginza graphic gallery (ggg). Five exhibitions took place at kyoto ddd gallery (ddd), and three at the Center for Contemporary Graphic Art (CCGA). Especially notable among them was “Heisei Graphics,” our exhibition, first held at CCGA and then ddd, focused on works in the DNP Graphic Design Archives that were created during the Heisei Period, which started in January 1989 and drew to a close in April 2019. The exhibition attracted significant media attention as an event timed with the transition to the new Reiwa Period, which commenced on May 1. In the spring of 2020, “The Intelligence of Life,” our exhibition at ggg of works by Yoichiro Kawaguchi, paid homage to life forms that have survived by adapting to their environments. The exhibition was replete with energy in a way that, in retrospect, seemed to portend the difficult days lying ahead.

In our Education & Enlightenment activities this past year, in celebration of the centennial anniversary of the founding of the Bauhaus we organized “After The Bauhaus: New Bauhaus and Black Mountain College.” We invited four speakers for this event, which was well attended – and well received – by many individuals with special interest in the activities of the Bauhaus.

In the area of International Exchange during the past year, an exhibition titled “Colorful Japan” was held at the Stedelijk Museum in Amsterdam featuring 226 Japanese posters, including many that had been donated to the museum by our Foundation. During its run this exhibition, together with simultaneously held events, attracted a total of 315,630 visitors, thereby building a strong cultural bridge between Japan and the Netherlands through graphic design.

Impacted by the global pandemic, so much of what we always took for granted, everything that was normal, has changed greatly, ushering in a “new normal.” The pandemic also took a toll in necessitating postponement of the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games. At the DNP Foundation for Cultural Promotion, we have asked ourselves how, especially in these difficult times, we can best make positive social contributions through cultural activities. Our answer is to strive to contribute ever more meaningfully, through culture, going forward. We sincerely ask for your continued support and understanding in the years ahead.

公益財団法人 DNP文化振興財団 理事長
北島義俊

Yoshitoshi Kitajima
Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

アムステルダム市立美術館と日本

カロリン・フラーゼンブルグ

アムステルダム市立美術館 元グラフィックデザイン・キュレーター

世界でコロナウイルスに感染している国を地球儀上に赤く塗ることを思い浮かべてください。赤く染まらない地域がほんの一握りしかないことに気づくでしょう。2020年になり、世界全体でこのパンデミックにどう対処すべきかを明確かつ正確に指示できるリーダーが必要とされていますが、現実には、一般市民に出される指示も、多くが混乱しているようです。グラフィックデザインは、容易に理解できる一貫したサインを生み出せておらず、ウイルスとの戦いに貢献できていません。ウイルスが瞬く間に世界中に広がったこともその一因ですが、私たちが生きている時代のせいでもあります。現代は大勢の人が祖国を脱出し、移住しているために、文化が広く混じり合っています。人種の垣塙と化した世界において、グラフィックデザインは、不可逆的に変化した複雑な社会に生きるすべての人を尊重しつつ、情報を正しく伝える異文化間コミュニケーションの手段となる使命を担っています。

現代のデザイナーはメッセージを伝える際に、性別、人種、宗教の影響を受けています。デザイナーは、デザインに取りかかる前に入念なリサーチをできなければ、適切に伝えることはできません。情報がかつての西洋社会で支配的だった考えで捉えていては、デザイナーと名乗ることはできません。戦争や貧困、さまざまな紛争によって、多くの人々が祖国を離れ、安住の地を求めて、他の文化の中に移住することを余儀なくされています。彼らは自分の祖先とは異なる、自分が生まれた土地の文化や宗教のバックグラウンドとは異なる文化の中で生きているのです。多文化社会においては、西洋の固定観念を排除し、男女の役割も均等化しなければなりません、また、性的少数者のコミュニティーを受け入れるために新たなデザインのアプローチも必要です。

現在、私たちはさまざまな仕組みを使って、地球の反対側の人々とも交流できますが、デザインに用いられる言語は、デザインが生まれた土地の文化に根ざしています。そのため、あらゆる言語や文字が、混乱や誤解の種になりかねません。現代のデジタル化社会に生きるグラフィックデザイナーにとっての今世紀の課題は、人々の結びつきを強め、相互理解を深めることに役立つ方法を見出すことです。グラフィックデザイナーは、自らが多文化社会に

生き、あらゆる文化に細心の注意を払って行動すべきであることを自覚して初めて、混乱を避け、世界で相互理解を促進する重要な役割を果たせるのです。

アムステルダム市立美術館の館長兼デザイナーであったウィレム・サンドバーグ氏(在任期間:1945~1962年)は、世界中からグラフィックデザインを蒐集しました。サンドバーグ氏は、モダンアートのコレクションと同等に、グラフィックデザインを市立美術館に収蔵しました。1950年代、世界は現在のように繋がっていませんでしたが、市立美術館は19世紀中頃から現代までのグラフィックデザインを、52カ国から集めることができました。サンドバーグ氏以降、グラフィックデザインのキュレーターたちは彼に倣って広く世界に目を向けるようになりました。本コレクションには多様なデザインの手法がありますが、主流は白人男性デザイナーが多く用いているモダニストの原則に基づくものでしょう。さまざまな国が注目された中で、アムステルダム市立美術館は、日本に関心を持ち続け、オランダ在住の日本人デザイナー、綿野茂氏の支援を受けてきました。綿野氏は日本のデザイナーとアムステルダム市立美術館のかけがえのない架け橋となってくださいました。日本人が手がけるポスターは西洋のポスターとは非常に異なっています。日本人は、論理とは異なる原則に基づいたメッセージを発しています。西洋がまだ印刷の術を持っていなかった文明の黎明期の頃から続く、版画の長い歴史に育まれた感性によってデザインしているのです。使用されている趣のある美しい文字は、西洋の誰もが読めるものではありませんが、そのことは、市立美術館が日本や韓国、中国からの蒐集をためらう理由にはなりません。文字を組み込むアジアのデザインの手法は、ローマン体だけを学んできた人々に大変人気があります。一方、アジアの文字は、形が複雑であるだけでなく、一文字に何層もの意味が含まれています。そのためこの分野では、そうした意味を理解しない限り、すべての人が異文化間コミュニケーションを成立させられるわけではありません。

市立美術館は近年、いくつかの出来事を通して、DNP文化振興財団(以下:財団)とさまざまな方法で協力してきました。世界の

グラフィックデザイン界で重要な役割を果たしている財団のギャラリーは、オランダ人グラフィックデザイナーとして世界中で名を知られたウィム・クロウエル(1928～2019年)の展覧会の開催を望みました。また、日本のポスターの秀逸なアーカイブを有するこの財団は、以前からアムステルダム市立美術館にコレクションの一部の寄贈を申し出ていました。こうしたことから、一連の面白いイベントが生まれました。2017年12月、初の個展「ウィム・クロウエル——グリッドに魅せられて」が京都dddギャラリーで開催されました。アムステルダム市立美術館はクロウエルのもっとも重要なサポーターで、彼の作品と資料を多数収蔵しています。クロウエルは1967年、世界中の誰もが理解できるユニバーサルな書体をデザインすべく、「New Alphabet」を発表しました。この極めてモダンな書体の発表は、国内外のデザイン界や出版界で物議を醸しました。クロウエルはその後、「New Alphabet」を解説するために世界を飛び回ります。クロウエルは探究心だけでなく、先見の明も兼ね備えていました。

2018年、私は財団のコレクションから最終的に92点の優れたポスターを選び、寄贈を受けました。それらを含むアムステルダム市立美術館の800点の日本のポスターの中から226点を厳選して、2019年に美術館を去る前の最後の展覧会を企画しました。当美術館のコレクションの国際性と財団からの寄贈品を広く公開したこの展覧会「カラフル・ジャパン」は、2012年に他界した綿野茂氏を追悼する回顧展でもありました(P.65)。

2018年5月には、クロウエルの展覧会が京都から東京のgggへ巡回されました。アムステルダム市立美術館は、「カラフル・ジャパン」が開幕した同じ月に、gggでの展覧会をそのまま引き継いで開催することにしました。9月28日の開幕式で、財団の北沢永志氏は、市立美術館に展示されている日本のポスターデザインの「黄金時代」についてスピーチを行いました。この展覧会では年代を追う形式ではなく、フォルムと色彩に基づいてポスターが美しく展示されました。

北沢氏はまた、日本とオランダのデザインの関連性についても語

りました。コミュニケーションは文化に根ざしたものです。文化によって阻害されることはない信じ、私たちは今も協力し合っています。

常に時代の先端にいたウィム・クロウエルなら、今日グラフィックデザイナーが置かれている状況を率先して探求したことでしょう。グラフィックデザインは、現代社会を形成している多彩な文化にうまく対応しなければならないという新たな任務を背負っています。入念なリサーチに基づいてデザインするだけでなく、他分野との協働もできる新しいデザイナーが求められているのです。コロナウイルスのようなグローバル化の負の面は一刻も早い終息が望まれますが、多文化が混じり合う世界の発展は、デジタル化に伴って最も関心を引く大事な進化ですので、育まなければなりません。今は誰もが容易にデジタルや印刷媒体を利用して自分の意見を発信できる時代です。グラフィックデザインにおける異文化間コミュニケーションは、これから取り組むべき課題ではなく、今すでに必要とされているスキルです。ウイルスの拡散にも負けない猛スピードで対応することが求められているのです。

2020年6月10日

Intercultural communication and graphic design

Japan and the Stedelijk Museum Amsterdam

Carolien Glazenburg

former curator of graphic design Stedelijk Museum Amsterdam

Imagine the world on a globe on which you have to color red the countries which do not suffer from Corona... And you will notice that only a very few isolated areas don't become red. In 2020 the whole world needs leaders who will give clear and correct information how to handle this pandemic and in reality we see a lot of confusion about the guidelines given to citizens. Graphic design has not been able to lighten this burden of handling the virus with understandable uniform signage. This is partly due to the rapid scattering of the virus all over the world but also due to the era we live in; so many people are on the run-away and with mass migrations the mixing of cultures has become enormous. The world as melting pot forces graphic design to become intercultural to be able to communicate in the way it informs everyone respectfully and correctly in this confusing and forever changed societies.

Gender, race and religion are of influence on the way the designer nowadays has to bring the message. If the designer will not be able to become a thorough researcher, he or she will no longer be capable to inform properly. You cannot define yourself as a designer to the previous dominance of the western ideas about information. Wars, poverty and numerous conflicts forced people in great numbers to leave their countries to seek safety in other cultures, different from where they originated from and which do not have the same cultural and religious background from where they were born. Western stereotypes will have to be avoided in the multicultural societies; the role of men and women has to be equalized and the acceptance of the LGBT community needs another approach of design.

Today we use systems providing us with the opportunity to communicate with people at the other side of the globe but the language used when they were designed, found their roots in the cultural place where they were invented. This means all kind of languages and type can result in a source of confusion and misunderstanding. The challenge of this century for graphic designers is to find solutions in their digital world that will help us to unite and understand each other better. Only when graphic designers become aware of

their intercultural position in which they have to behave culturally sensible this discipline can play an important role in avoiding confusion and let mutual understanding grow worldwide.

The director/designer Willem Sandberg (director 1945-1962) of the Stedelijk Museum in Amsterdam wanted graphic design in the collection from all over the world. He treated it the same way he handled the collection of modern art for his museum. In the fifties the world was not within reach as it is today, but the Stedelijk managed to include from 52 countries, dating from mid 19th century till nowadays. After Sandberg the curators of graphic design followed up his international oriented intentions. Although you will find many different approaches to design in this collection, the mainstream will be based on modernist principles used by primarily male white designers. Different countries became focus-points; the Stedelijk Museum has always been very interested in Japan, supported by the intervention of a Japanese designer, Shigeru Watano, living in the Netherlands. He was an invaluable link between designers in Japan and the Stedelijk. Japanese posters are after all so intriguingly different from those of the West. They bring their message based on other principles, not the logic, but design based on sensibilities which date from a long history of printing, from when Europe was still at the beginning of its civilization and could not yet print anything. The use of the intriguing and beautiful characters cannot be read by everybody in the Western world but this was for the Stedelijk Museum never a reason not to collect from Japan, Korea and China. The way characters are incorporated in the Asian design is greatly admired by those who are only educated with the roman type only. There is no way for the last ones to be able to perform intercultural communication here, due not only to the complexity of the form but also of a lack of knowledge of all the layers in one character.

A combination of factors made that the Stedelijk Museum cooperated in different ways with DNP Foundation for Cultural Promotion, in the recent years. The galleries organized by the Foundation, which are so vital to

international graphic design, wanted to exhibit the internationally most well-known Dutch graphic designer: Wim Crouwel (1928-2019). And furthermore, the Foundation taking care of a fantastic archive of Japanese posters had been proposing to donate from their collection to the Stedelijk Museum already for a long time. These factors combined resulted in an interesting series of activities. In December 2017 the first exhibition Wim Crouwel, fascinated by the grid opened at kyoto ddd gallery. The Stedelijk Museum has been Crouwel's most important principal and the museum owns a massive collection of his work and also keeps his archive. Crouwel published in 1967 the New Alphabet with which he wanted to design a universal type understandable for everyone in the world. The publication of this extremely modern type caused an uproar at home and abroad, in both the design world and the press. Crouwel then traveled the world to explain his New Alphabet. Crouwel was a researcher and a visionary.

In 2018 at last, I had chosen 92 posters from the Foundation collection and I decided to compile my farewell exhibition in 2019 to a selection of 226 of the eight hundred Japanese posters from our collection including these 92 wonderful gifts. Apart from showing the international character of our collection and the gift from the Foundation, this exhibition, Colorful Japan was dedicated to the remembrance of Shigeru Watano who passed in 2012 (P.65).

In May 2018, Crouwel's exhibition toured from Kyoto to ggg in Tokyo. The Stedelijk decided to keep the exhibition intact to show it in Amsterdam. It opened in the same month as Colorful Japan. On September 28th Mr Eishi Kitazawa from the Foundation held a speech at the opening event, about 'the Golden Age' of Japanese poster design shown at the Stedelijk. The exhibition was not presented in a chronological order but I organized the rows of posters in an esthetic way, based on forms and color.

Mr Kitazawa also spoke about the relationship between Japanese and Dutch design. That we still cooperate is hopeful for the idea that however communication might be

culture related it is no obstacle to stay in touch.

Wim Crouwel, always in the frontline, would have loved to research the position to be taken by the graphic designer today. The new responsibilities this profession has to handle in dealing with the colorful multicultural form the current society has adapted, needs a new designer who has to be researcher and who will have to cooperate with more disciplines than graphic design only. The Corona virus is a negative global aspect which hopefully will be defeated as soon as possible. Global intercultural developments are - with the help of digitalization - most interesting and positive evolvments to be cherished. Nowadays everybody can use easily available media of digital and printing to voice their position, so the matter of intercultural communication skills in graphic design is not a matter of when: the challenge is here now. It has to be coped with as fast as a virus can spread around the world.

June 10th, 2020

展示事業

Exhibitions

ginza graphic gallery 2019–20

April 3 – 27, 2019

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2019

May 14 – June 26, 2019

Tsuguya Inoue: Beginnings

July 5 – August 21, 2019

Keiichi Tanaami Great Journey

August 30 – October 12, 2019

Sculptural Type: Kontrapunkt

October 23 – November 16, 2019

Art Direction Japan 2019 Exhibition

November 28, 2019 – January 18, 2020

What's Karl Gerstner? Thinking in Motion

January 30 – March 19, 2020

Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life

ggg
333



Tokyo Type Directors Club Exhibition 2019

April 3 – 27, 2019

TDC 2019

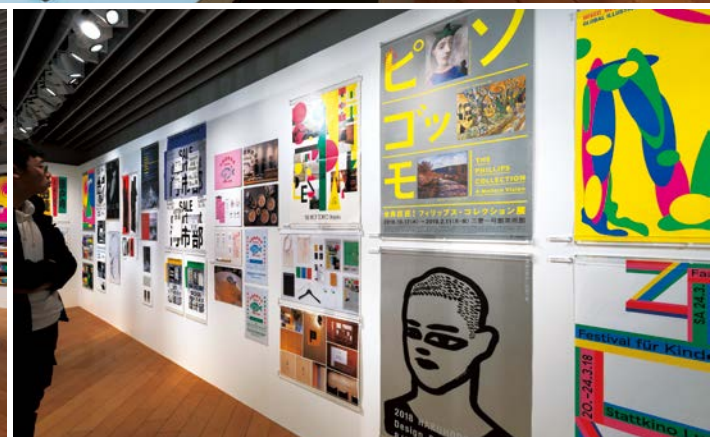


「東京TDC賞2019」グランプリは英国ノリッジ美術大学学生マイケル・ケリーが自身の卒論の見出し用に制作したタイプデザイン。粘土に刻まれた古代文字とコンピュータの回路基板の未来イメージが融合した文字は、変数を与え変化する。未知なイメージに惹きこまれた。いっぽうニューヨーク・タイムス・マガジン冬季五輪特集用の、欧文を縦に積み重ねる見出しフォントを手がけたヘンリック・クベル。技と感性のタイプデザイン界重鎮が、授賞式に参加したケリー青年のプレゼンテーションを興味深そうにやさしく見守る。クリエイティブ＝フラットな地平が東京TDCの本質であると考えるが、今年も創造力あふれる多様なデザインを展示することができた。

東京TDC 照沼太佳子

The Tokyo TDC's 2019 Grand Prix was awarded to Michael Kelly, a student at Norwich University of the Arts in the UK, for the typeface he designed for the headings on his BA dissertation. It was created as a fusion of the ancient writing carved onto clay tablets and his image of futuristic computer circuit boards, with variables added to make the typeface change. I found the unknown images captivating. Henrik Kubel designed a font, for use in the titles of a special feature in the New York Times Magazine on the Winter Olympics, consisting of words spelled out vertically. The heavyweights in the realm of font design, masters of both skill and artistry, listened to the young Kelly's presentation at the awards ceremony with great

interest. I believe the quintessence of the Tokyo TDC is the equation "creativity = flat horizon," and again this year we achieved a show of diverse designs overflowing with creative strength. Takako Terunuma, Tokyo TDC



Tsuguya Inoue: Beginnings

May 14 – June 26, 2019

Beginnings 井上嗣也展



写真を扱う仕事を続けている。近年、国内外の若い写真家たちとの仕事が多くなった。個性、分野の異なる写真家との仕事は、新たな発見と期待の気持ちを抱かせてくれる。ggg 個展「Beginnings」の動植物、天体、物質、光などの動くイメージは、旧来より持続する興味の領域と重なる。制作機会の稀少なテーマでもある。写真表現の持つ強度、速度、イメージの喚起力といった流動する画像の特性を消すことがないように気を配る。レイアウトやタイポグラフィなど写真と文字（言葉）の関係は、すべて写真が導いてくれるような気がする。「Beginnings展」で、グラフィックデザインにおける写真の新たな表現の可能性を再確認した貴重な機会だった。

井上嗣也

I continue to work with photos. In recent years I have been working more with young photographers, both Japanese and foreign. Working with photographers of different individual traits and from different fields leads me to make new discoveries and fills me with hope. The moving images in my solo show “Beginnings” at ggg – animals, plants, celestial bodies, physical matter, light and so on – overlap with the areas I have long been interested in. This is also a theme I rarely have an opportunity to create for. I exercise care not to obliterate the special features of fluid images: the strength and speed of photographic expression, the evocative power of images, and so on. To me, it seems that the relationship between photos and words

– layout and typography – derives entirely from the photographs. “Beginnings” was a precious opportunity enabling me to reaffirm the possibilities for new photographic expression within the realm of graphic design.

Tsuguya Inoue



Keiichi Tanaami Great Journey

July 5 – August 21, 2019

田名網敬一の観光展



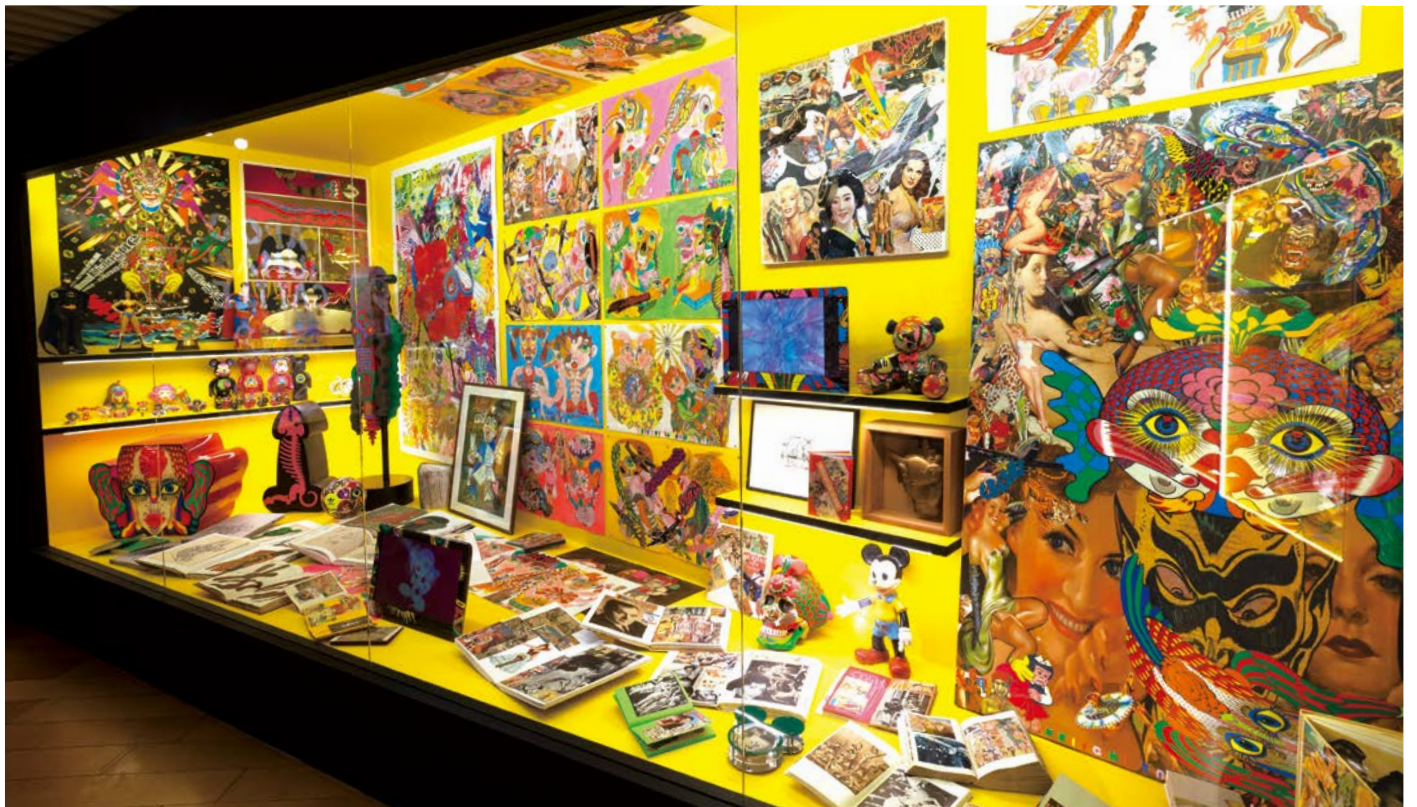
2018年8月、京都dddギャラリーで開催された「田名網敬一の現在展」を解体し、再構成したのが今回gggでの「田名網敬一の観光展」です。前回と同じように会場構成は中沢仁美さんですが、今回も黒と黄を基調に演劇的ともいえるドラマティックな空間を演出してくれました。アートワーク、立体、アニメーション、著作物、それとアディダスオリジナルスとのコラボレーションの展示に加えて、近年の私のアート表現の主題である「記憶」を封じ込めた小部屋を設置しました。日記、写真、ドローイング、コラージュ、それと大量のスクラップブックなどが配置された空間は、私自身を振り返る絶好の機会になりました。

田名網敬一

This exhibition at ggg was reworked from my “Keiichi Tanaami Dialogue” exhibition held at kyoto ddd gallery from August to October 2018. As in Kyoto, this show’s layout was designed by Hitomi Nakazawa, and again this time she produced a dramatic space whose key colors were black and yellow. Besides my artwork, installations, animations, publications, and exhibits created in collaboration with Adidas Originals, the exhibition also featured a small room enclosing “recollections,” a theme of my art endeavors of recent years. The space contained my diaries, photographs, drawings, collages, and numerous scrapbooks, providing an ideal opportunity for me myself to reflect back on the past.

Keiichi Tanaami





Sculptural Type: Kontrapunkt

August 30 – October 12, 2019

Sculptural Type コントラプンクト

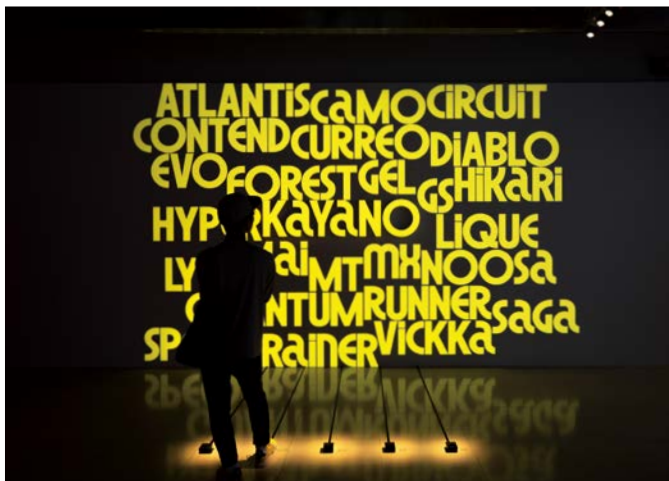


gggは、あらゆる点で唯一のギャラリーと言えます。ここは世界中のデザイナーにとって最も人気のある場所の一つで、プロのコミュニティをはるかに超えており、グラフィックデザインの重要性を多くの人に伝えることが出来ます。ギャラリーの壁には、今までも国際的なトップデザイナーの作品が収められており、ここに展示することで、新しい魅力的なクラブのメンバーになったように思えました。コントラプンクトは、カスタム書体がブランドをどれだけ変えることができるかを伝える機会をもらい、この象徴的なギャラリーで私たちの視点とストーリーを伝えることができ光栄に思っております。

ボー・リネマン コントラプンクト共同創設者
兼 エグゼクティブデザインディレクター

ggg is the only gallery of its kind! It's one of the most sought-after windows for graphic designers from all over the world. The reach of ggg goes far beyond the professional community. It branches out to the man on the street - conveying the importance of graphic design and communicating it to the many. The walls of the gallery have carried the work of the most top international designers and to exhibit here changes your self-perception as you're suddenly a member of a new attractive club and league. Exhibiting at ggg has given Kontrapunkt a chance to tell the audience how much a custom typeface can change a brand. It has been an honour to convey our perspective and our story in this iconic gallery.

Bo Linnemann,
Co-founder and
Executive Design Director of Kontrapunkt



Art Direction Japan 2019 Exhibition

October 23 – November 16, 2019

日本のアートディレクション展2019



東京ADCは、つねに動いている。ADC年鑑も生まれかわって2年目になった。大判(A4→B4サイズ)のADC年鑑は、内容も作者のコメントが入ったり、より充実したものになった。ADC賞は10点とかわらないが、会員賞はひとつとなり、会員作品の審査が厳格になった。そして2019年のグランプリは、井上嗣也さんの大胆なカラスの作品に。難関をへた会員賞には、キギのおふたりと宮田識さんの作品、地方再生の意欲作が受賞。会員のベテランたちの堂々たる仕事ぶりにたいして、今年は新しい才能が顔を出しはじめた。なかでも三澤選さんの作品には、ADC会員が感嘆の声をあげた。そして三作品がADC賞を受賞した。こうして新・旧まじえて、ADCは進化している。 ADC展委員 副田高行

The Tokyo ADC is constantly on the move. We are also now in our second year since changing the format of the ADC yearbook. Besides scaling back its size, the content has been enriched: comments by the artists have been newly added, for example. While the number of ADC Awards has stayed at 10, the number of Members Awards has been reduced to one, making judging of members' works more severe than before. The 2019 Grand Prize was awarded to Tsuguya Inoue for his bold works featuring crows. The increasingly difficult-to-win Members Award went to the two partners of KIGI and Satoru Miyata for their ambitiously conceived work to promote regional revitalization. While the ADC's members of long

standing are thus achieving imposing work these days, this year new talent began to emerge as well. Members were especially impressed by the work of Haruka Misawa, who captured three ADC Awards. In this way, the ADC is evolving in terms of both the old and the new.

Takayuki Soeda,
ADC Exhibition Committee Member



What's Karl Gerstner? Thinking in Motion

November 28, 2019 – January 18, 2020

カール・ゲルストナー 動きの中の思索



本展覧会は、スイスを代表するデザイナー、カール・ゲルストナーの多面性とインタラクションを、大変興味深く体験できるように工夫されていました。日本初となった彼のこの個展で、キュレーターの矢萩喜徳氏は、ゲルストナーの「コンクリートアート」の分野におけるアート活動が、彼のデザイン、特に代表作「デザイン・プログラム」にどのように影響を及ぼしたかを探求しました。その中で矢萩氏は、ゲルストナーが参加した伝説的な日本のグループ展「ペルソナ 1965」で見出した彼のタイポグラフィの魅力だけでなく、アマチュアとシーンエキスパートとのイメージの内なる繋がりもはっきりと伝えていきます。本展では、スイス国立図書館とミュリエル・ゲルストナー氏の個人コレクションから厳選された作品が展示されました。

スザンヌ・ビエリ

スイス国立図書館 プリント&ドローイング部門長



The exhibition made the various facets and interactions of this epoch-making Swiss designer a highly attractive experience. In this first solo show of Karl Gerstner's work in Japan, curator Kijuro Yahagi explored the extent to which Gerstner's artistic activities in the field of Concrete Art have influenced his design and in particular his main work Designing Programmes. In doing so, he succeeded in convincingly conveying not only the fascination for Gerstner's typography, which he discovered during Gerstner's participation in the legendary Japanese group exhibition Persona 1965, but also the inner connection to the image, to both the amateur and the scene expert. The carefully selected exhibits came both from the archives of the Swiss National Library and from the private collection of Mrs. Muriel Gerstner.

Susanne Bieri

Head of Prints and Drawings Department,
Swiss National Library NL



photograph by Kijuro Yahagi (1F)

Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life

January 30 – March 19, 2020

河口洋一郎 生命のインテリジェンス



コロナがもたらした新しい日常の節目の展示。オープニングや2/14のトークショーは大勢のお客様。一転、2/24からは主要美術館は閉鎖に。

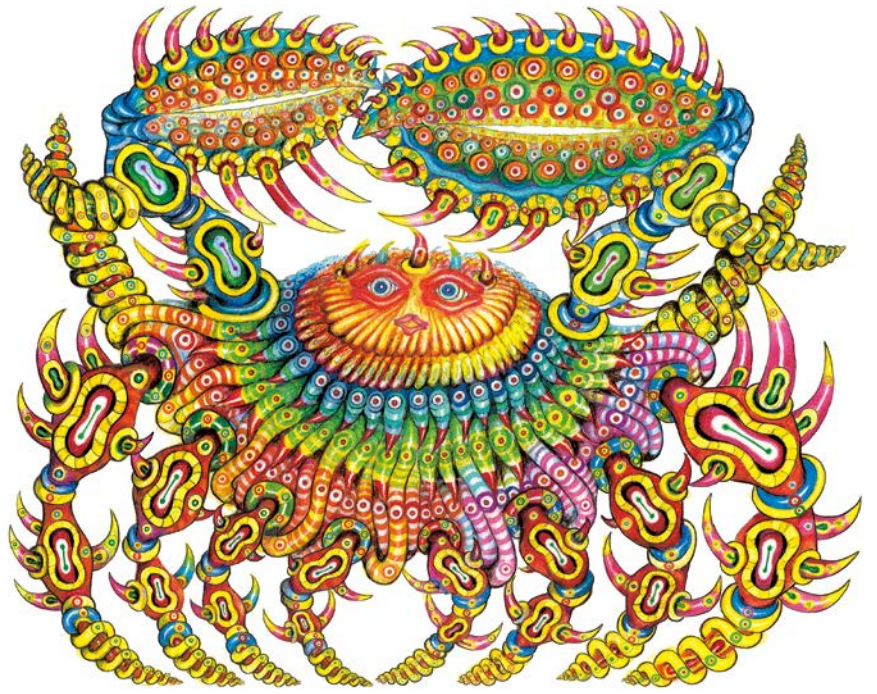
生命のインテリジェンスをテーマにサスティナブルな未来惑星を考えるが僕のテーマ。理想の楽園は5億年を生き延びた生物から学ぶ。一階の直筆ドローイングは、初公開の作品群。CG映像を一作品、ソプラノの歌声と共に流して不思議な未来の生き物の生命力を新鮮に展示出来た。地下はCG映像を1975年から俯瞰的に見て頂く、映像に囲まれた異世界。深海の色の中に浮かぶ色彩の氾濫と浮かび上がる自己増殖するフォルム。先駆者として面目躍如を果たせたか。

河口洋一郎

This exhibition took place just as the coronavirus was creating a new normal. The opening and the talk show on February 14 attracted many guests. Then, starting February 24, the major art museums all shut down. The theme of my exhibition was "The Intelligence of Life," a theme by which I mull a sustainable planet of the future. The ideal paradise will come from studying the life forms that have survived 500 million years. My hand-drawn works on display on the ground level were drawings being shown for the very first time. In my only computer-generated video here, I was able to present a fresh view of the vitality of the strange creatures of the future, all to the accompaniment of a soprano. In the

basement level, visitors were offered a retrospective overview of my computer graphics created since 1975, in an alternative world surrounded by videos. A plethora of hues floating in the colors of the deep sea, and self-propagating forms floating to the surface. I hope I served well as a pioneer.

Yoichiro Kawaguchi



kyoto ddd gallery 2019–20

March 30 – June 19, 2019

Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda

June 29 – August 17, 2019

Heisei Graphics

August 28 – October 23, 2019

deValence – Systems as Playgrounds

November 9 – December 21, 2019

Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011–2019 “Quibble”

January 18 – March 21, 2020

Design ZOO – Life meets design



Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda

March 30 – June 19, 2019

本の縁側 矢萩多聞と本づくり展



これまで装丁した本500冊以上を並べ、すべて手にとって見れる。見れるならば、ベンチがあって、縁側のようになるといい。縁側ならば、大きな木があるといい。ぼくが毎日に廊でできないので、音声ガイドがあるといい。思いつきで話したことがぜんぶ実現しました。木は紙管を幹に、角材を枝に、本のやれ紙を葉にしました。余った角材は手作りのブックスタンドに早変わり。現場のライブ感がある、あたたかい縁側になって、お客さんもゆっくり展示を楽しんだのではないのでしょうか。会期中いく度となく再訪される方も少なくありませんでした。「本のまわりにはちょこんと腰をおろせる場所がある」まさにそんな原風景が作り出せたと思います。

矢萩多聞

The more than 500 books I have designed were all on view, and visitors could pick them up and browse through them. For those doing so, it would be nice if there were benches, like an open veranda. If there were an open veranda, it would be nice if there were a big tree. Since I couldn't be at the gallery every day, it would be nice if there were an audio guide. All of these things that I mentioned at random came to pass. The tree trunk was made from a large paper tube; the branches, from pieces of wood; the leaves, from scraps of paper. Leftover wood was quickly converted into hand-made book stands. The result was a cozy open veranda, a "living" space that succeeded, I think, in letting visitors enjoy the exhibition. Not a few came

back several times while the show was on. "There's a place where you can sit and be surrounded by books."

I think we created precisely such a landscape.

Tamon Yahagi



Heisei Graphics

June 29 – August 17, 2019

ヘイセイ・グラフィックス



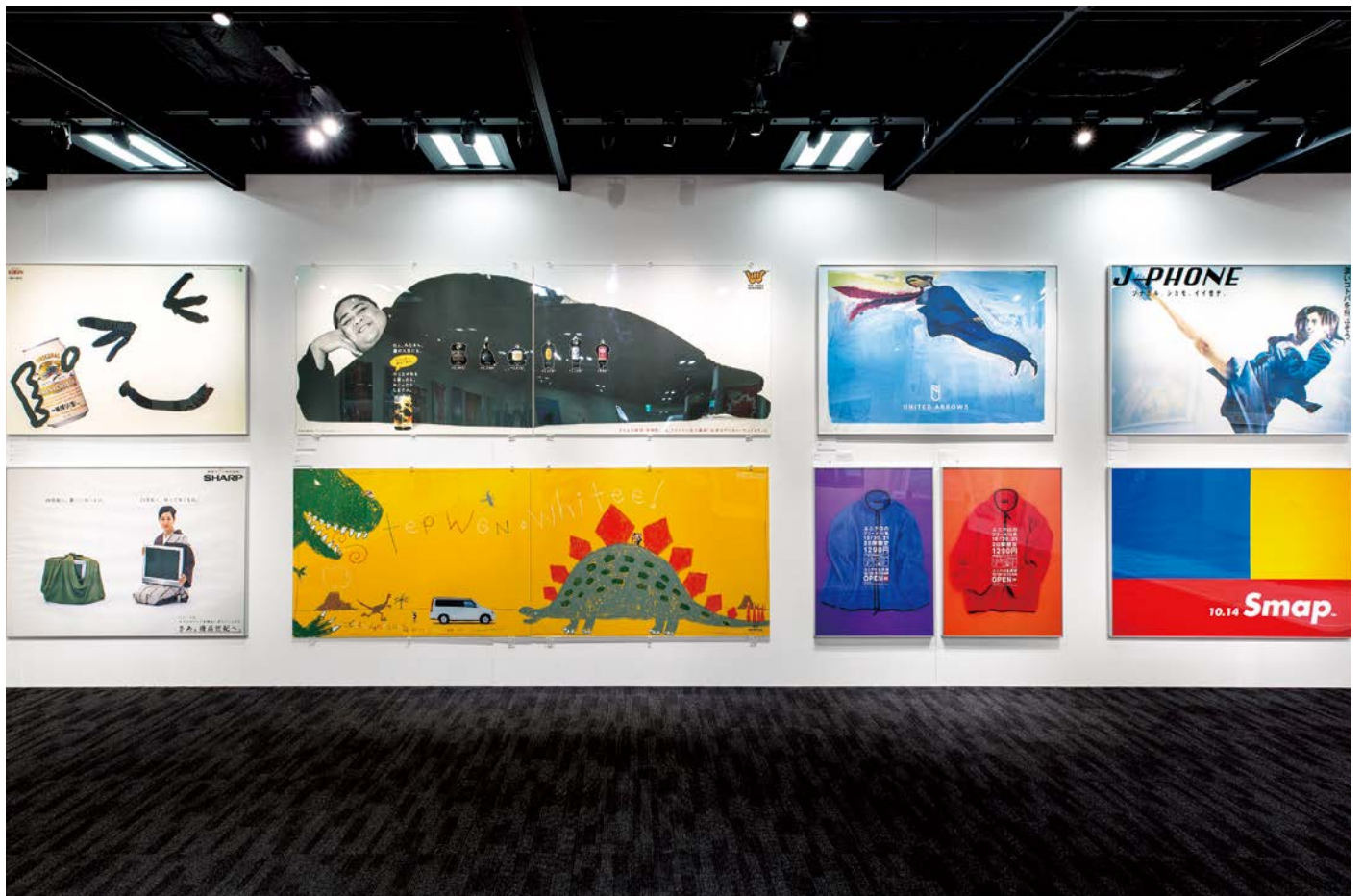
30年ぶりに元号が変わる事を受けて企画されたCCGAの展覧会の巡回展をdddで開催。一部関西ならではの作品への入替も行った。昭和生まれの私は、“平成生まれ”と聞くと新人類の様に感じたものだったが、展覧会の展示作品を通じて振り返ると、印刷会社もDTP化が進み、それまで無かった携帯電話やインターネットが当たり前になるなど、好むと好まざるとに関わらず大きな変化を受け入れてきた事を実感した。そしてグラフィックデザインはタイムマシンの様に当時の気持ちを想起させてくれる事に改めて気づいた。令和時代のグラフィックデザインはどのように思い起こすことになるのか、興味を持って過ごしていきたいと思う。

京都dddギャラリー 熊本和夫

This exhibition at ddd was originally organized and held at CCGA to mark Japan's first change in era name in 30 years. The featured works were partially switched to reflect the exhibition's venue in the Kansai region. Having been born in the Showa era (1926-1989), I always thought of people born in the Heisei period (1989-2019) as a “new breed of humans”; but looking back through the lens of the works on display, I sensed that, like it or not, I had come to accept major changes that had occurred during Heisei: advances in desktop printing in the publishing industry, the advent and total adoption of cellphones and the Internet, etc. I also realized again how graphic design acts like a time machine that calls up memories of earlier times.

I wonder what sentiments graphic design of the new Reiwa era will one day evoke.

Kazuo Kumamoto, kyoto ddd gallery



deValence – Systems as Playgrounds

August 28 – October 23, 2019

ドヴァランスーシステムを遊び場に



「システムを遊び場に」は、フランスのデザイン・スタジオ「ドヴァランス」日本初の個展です。ドヴァランスの作品は自由自在な空間を想定し、その中に独自の視覚システムを構築してゲームのルールを設定、さらにそこから解放されるというプロセスを経て作り出されます。その作品世界を楽しんでいただけるよう、空間内にポスターや書籍とともに多様なオブジェが展示されました。室賀清徳氏（編集者）、菊地敦己氏（グラフィックデザイナー）、保坂健二郎氏（キュレーター）とのトークでは、日仏のデザイン界の慣行とデザイナーの位置について、実り多い議論が交わされました。

アレクサンドル・ディモス & ギスラン・トリブレ
(ドヴァランス)

Systems as Playgrounds was the first monographic exhibition staged by deValence in Japan. The studio's approach to the creative process comprises conceiving visual systems, establishing rules of play, and then liberating oneself from them in notional free spaces, and visitors were able to explore this approach through posters, books, and a range of objects displayed in the space at kyoto ddd gallery. Exchanges of views with editor Kiyonori Muroga, graphic designer Atsuki Kikuchi, and curator Kenjiro Hosaka organized in conjunction with the exhibition also enabled participants to engage in a very fruitful dialogue on design practices and the place of designers in Japan and France.

Alexandre Dimos & Ghislain Triboulet
(deValence)



Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011–2019 “Quibble”

November 9 – December 21, 2019

Graphic West 8: 三重野龍大全 2011–2019「屁理屈」



今回の個展は、僕にとってこれまでの活動を振り返りつつ、ひとつ区切りをつけるようなものでした。もともと個展をするという考えは無く、お誘い頂いてからいろいろ考え始めました。9年間個人で続けてきて、その間に周りの状況も少しずつ変わり、過去の仕事を見返して様々な出来事を思い出しました。そういった周辺の変化や関係性が、僕の仕事を通して垣間見えるような展示になると良いなと考えていました。過去の仕事は全部その時何が起こったかの記録でもあるので、どの時点で何が始まったとか、誰と仕事を始めたとかをやんわりと感じてもらえていたら嬉しいです。もちろん沢山の方々にグラフィックをシンプルに楽しんでもらえたことも励みになりました。

三重野龍

“Quibble” was an exhibition intended to let me look back over my past work and bring a close to that period. Actually, I had had no intention of holding a solo show, and it was only after I was invited to do so that I started thinking about how it should be. For nine years I had worked alone, and during that time the circumstances surrounding me had changed little by little. I looked back over my past work and recalled some of the things that had happened. I thought it would be nice to create a display that would provide a glimpse, through my work, of those changes and how they related. Since my past works were all records of what had taken place at their given time, I hope visitors were able to get a faint sense of what began when,

or when I started to work with whom. Of course, I was also encouraged just to see many people enjoy the simple pleasure of graphic art.

Ryu Mieno



Design ZOO – Life meets design

January 18 – March 21, 2020

Design ZOO いのち・ときめき・デザイン展



動物園は自然を知り、学ぶ「自然の窓」。多くが税金で賄われ、取りこぼしのない最高水準の環境教育に存在意義を持つ施設です。皆の施設（公共）であればこそ、そこにレベルの高いグラフィックが在るべきだと考えます。本展のベースとなるのは2019年に結ばれた、京都市動物園と嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学との教育及び研究に関する連携協定です。協定に基づく本学2・3年次生への確かな自然環境教育を基に制作された作品は、進級制作を兼ねました。グラフィックデザインが、動物園を含むミュージアム施設においての魅力を高め、環境などの価値ある知識の普及に役立つ可能性があることを知っていただければと思います。

池田泰子（嵯峨美術大学 教授）

A zoo is a window on nature, a place for learning about nature and becoming familiar with it. Many zoos are funded by tax revenues, and they exist to provide an environmental education of the highest quality. And because they are facilities of a public kind, I believe the graphics found in zoos should be of a high level. This exhibition evolved out of an agreement on education and research concluded in 2019 between Kyoto City Zoo and Kyoto Saga University of Arts and Kyoto Saga Art College. The works on exhibit were created by second- and third-year students based on a solid education in the natural environment, their works also serving as projects for their grade advancement.

Our hope is that visitors who viewed these works came to recognize the potential of graphic design to enhance the appeal of zoos and museums, and to help in spreading valuable knowledge about the environment.

Yasuko Ikeda
(Professor, Kyoto Saga University of Arts)



Center for Contemporary Graphic Art and Tyler Graphics Archive Collection 2019-20

March 1 – June 9, 2019

Heisei Graphics

June 15 – September 8, 2019

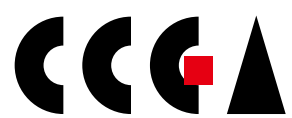
DNP Graphic Design Archives Collection VIII

Masayoshi Nakajo Posters Freshly Picked from the Archives

September 14 – December 22, 2019

Printing through Cloth:

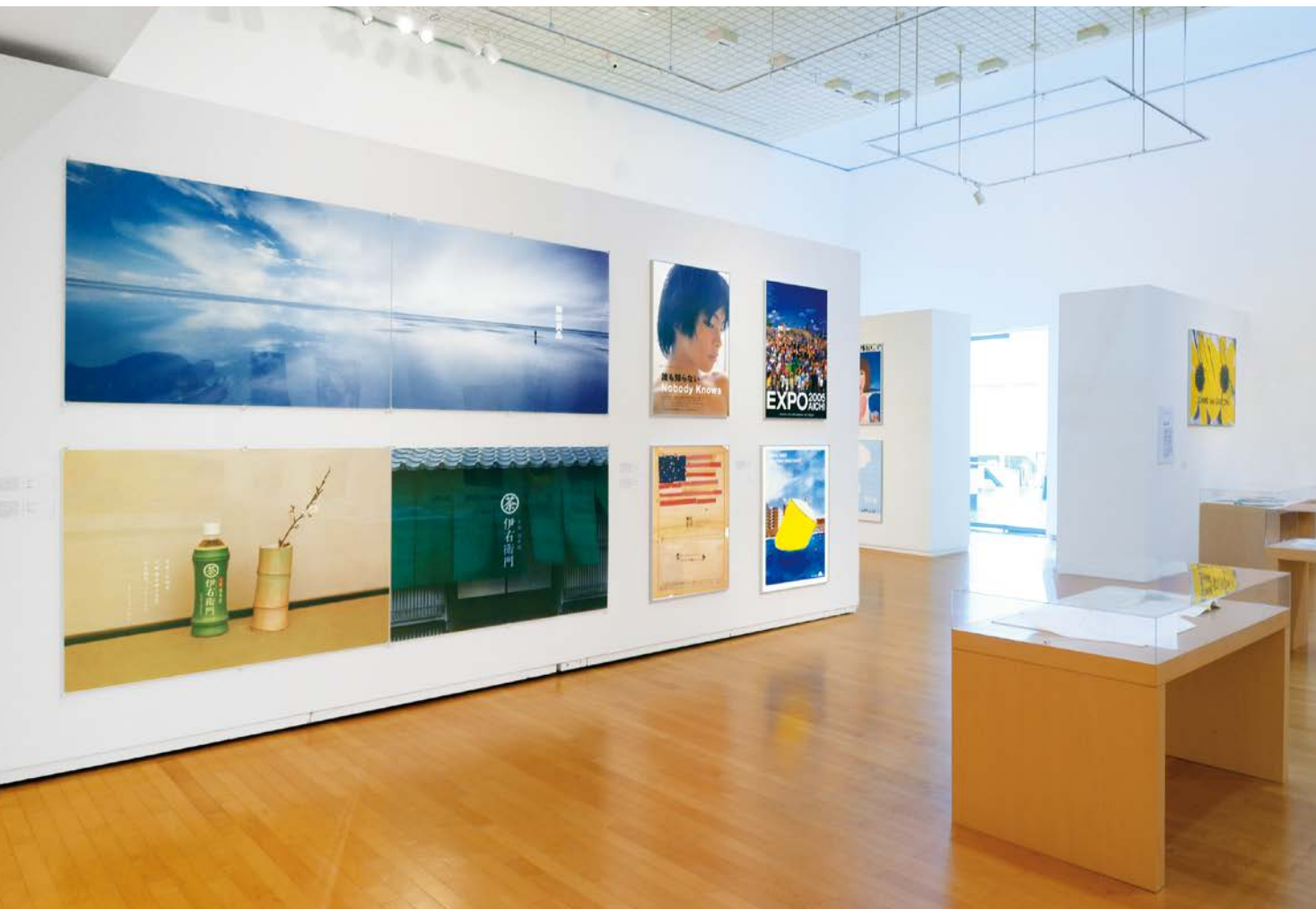
32nd Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection



Heisei Graphics

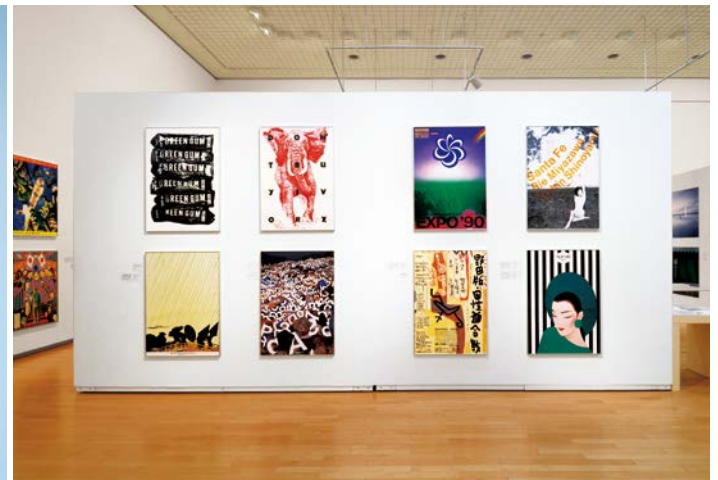
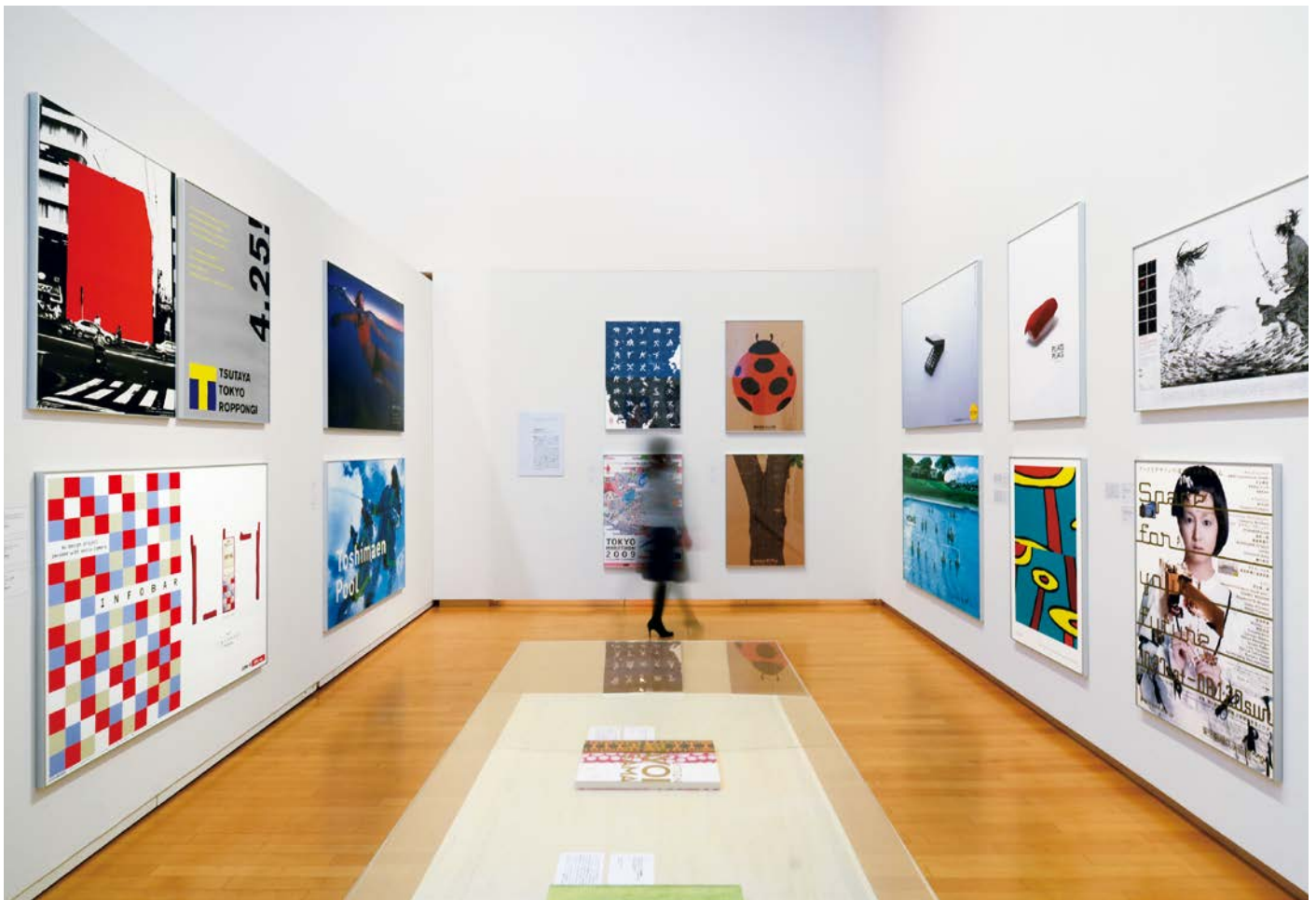
March 1 – June 9, 2019

ヘイセイ・グラフィックス



2019年4月に平成が幕を下ろし、令和の時代が始まった。1989年から30年余り続いた平成は元号の中でも4番目に長く、まさに一つの「時代」を形作ったといえる。社会の構造が目まぐるしく変化を続けた30年の中で、大衆文化や情報、経済、社会と密接にかかわるグラフィックデザインは、否応なく変化の波に飲み込まれた。本展ではCCGAが所蔵するポスターの中から平成のあいだに制作された作品を展示し、激動の30年間でグラフィックデザインが時代の変化にどのように寄り添い、どのように影響を与えたのかを検証した。

In April 2019 the Heisei era drew to a close and on May 1 the Reiwa period began. Having continued for just over 30 years, Heisei was the fourth-longest imperial era in Japan's history, and as such it forged a clearly definable period. During its three decades, Japan's social structures changed at a dizzying pace, and inevitably graphic design – which is so closely entwined with popular culture, information, the economy and society as a whole – became swept up in the waves of change. This exhibition showcased posters, gleaned from the CCGA archives, created during the Heisei era. It demonstrated how graphic design evolved over the course of those tumultuous 30 years, and examined how it impacted the times.



DNP Graphic Design Archives Collection VIII

Masayoshi Nakajo Posters Freshly Picked from the Archives

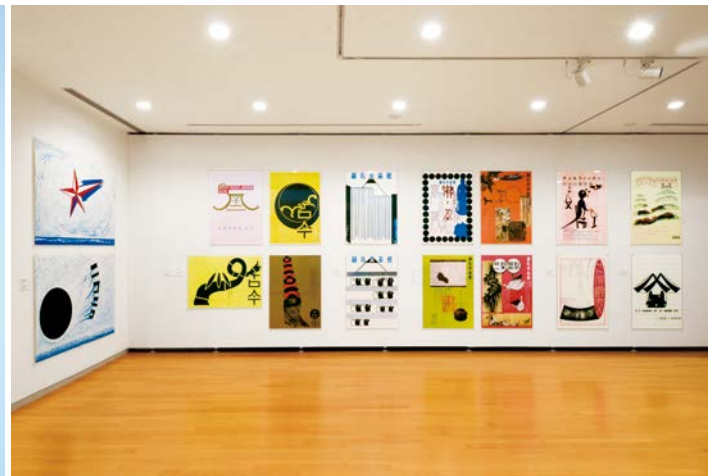
June 15 – September 8, 2019

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VIII 蔵出し 仲條正義



本展では、グラフィックデザインをはじめ編集・広告・アートディレクションなど多方面で活躍する仲條正義（1933-）の仕事の中からポスターを中心に展示し、約半世紀のあいだ独特の光を放ち続けてきた彼のデザイン世界の軌跡をたどった。また仲條が約40年間にわたってアートディレクションを手掛け、先鋭的なカルチャー誌というイメージを作り上げた資生堂『花椿』誌の一部も展示し、新古や美醜、巧拙といった二元論的評価の枠には収まらない、仲條デザインのもつ独特な世界観に触れる機会となった。

This exhibition focused on the poster works of Masayoshi Nakajo (b.1933), whose creative activities encompass not only graphic design but also editorial design, advertising and art direction. It presented an overview of his unique and brilliant design world spanning half a century. For roughly 40 years Nakajo has performed art direction, and on display was a sampling of his work for Shiseido's Hanatsubaki, a publication that established the image of a pioneering culture magazine. In total, the exhibition offered visitors an opportunity to know the unique worldview of Nakajo's design work – work that goes beyond evaluative parameters of old or new, beautiful or ugly, clever or clumsy.



Printing through Cloth: 32nd Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

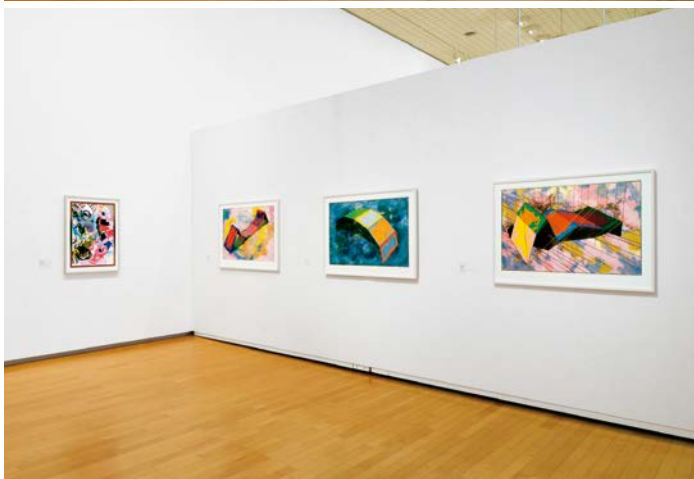
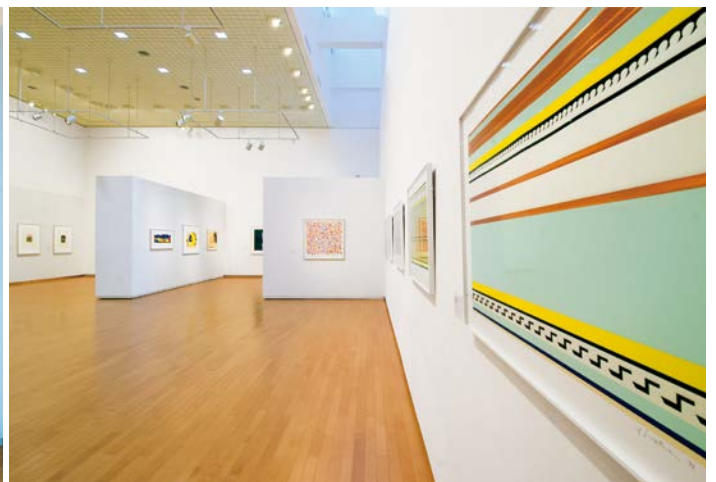
September 14 – December 22, 2019

柔らかな版：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.32



柔らかい布を版として刷るスクリーンプリント（シルクスクリーン）は、独特の明瞭な色面を得られる、写真製版によって既成のイメージを転写できる、紙以外のさまざまな素材に刷ることができるといったその特徴が、多くの作家たちの創作意欲を刺激してきた。本展はCCGA所蔵のタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションの中から、エルズワース・ケリー、ロイ・リキテンスタイン、フランク・ステラらの手によるスクリーンプリント技法を用いた版画作品により、その魅力を展覧した。

Screen printing, also known as silkscreen printing, uses a soft woven cloth like a matrix, and through the years numerous artists have been inspired to delve in screen printing due to this medium's special characteristics: the ability to achieve inimitably clear color surfaces, the ability to transfer an existing image by photo-engraving, and the ability to print on various materials other than paper. This exhibition demonstrated this technique's appeal through a display of screenprints in CCGA's Tyler Graphics Archive Collection, including works by Ellsworth Kelly, Roy Lichtenstein and Frank Stella.



教育・普及事業

Education & Enlightenment

ggg, ddd Gallery Talk Overviews

ギャラリートーク概要

田名網敬一の観光展

出演者: 田名網敬一＋山下裕二

田名網氏を若冲、蕭白、芦雪などに連なる「奇想の系譜ING」と評した美術史家の山下裕二氏をゲストに迎えた。今回の新作を見ながら、若冲や北斎などの日本画家からの影響、幼稚園時代によく遊んでいたという建て替える前の目黒雅叙園にあった赤い太鼓橋や、戦時中に防空壕の中から眺めたという水槽の中の金魚などの幼少期の原体験の数々、叔父がコレクションしていた戦前のアメリカのバルブマガジンなど、その鮮烈なイメージの源泉を次々に辿っていった。またかつて山下氏が見て「もの静かな狂人」だと評するきっかけになったという1970年代の珍しいアニメーション作品も公開し、会場を沸かせた。昔より80代の現在の方がたくさん仕事が来ると語る田名網氏、狂人ぶりは衰えることなく、ますますヒートアップしてペラペラな作品を生み出し続けている、そのまさに現在進行形のものすごさを皆さんにわかってもらえたのではないかと満足そうな山下氏。



Sculptural Type コントラプункト

出演者: ボー・リネマン＋フィリップ・リネマン＋濱口屋有恵

登壇したのはコントラプункト社の設立者の一人であるボー・リネマン、現CEOのフィリップ・リネマン、日本支社代表の濱口屋有恵の三氏。デンマークを始め、ヨーロッパや日本のグローバルブランドの仕事数を多く手がける同社だが、今回の展覧会のテーマであるタイポグラフィを中心に話は進められた。なぜオリジナルのタイプフェイスを作る必要があるのか。それは「読んだものは忘れてしまうけど見たものは忘れない」から。タイプフェイスは人の無意識に訴えるのでブランディングをする際の重要な要素の一つとなる。カールスバーグなど、映像でいくつかの実例を示しながら解説を行った。そして最後にボー・リネマン氏が企業との間でデザインの仕事をする上での三つのメッセージを紹介して締めくくった。ユニークであること。多様性を受け入れることの大切さ。そして包括的にしっかり責任を持って取り組むこと。



日本のアートディレクション展2019 ギャラリーツアー

出演者: 服部一成＋菊地敦己＋岡室健

毎年恒例となったクリエイションギャラリーG8とギンザ・グラフィック・ギャラリーとの共同企画。今年は服部一成、菊地敦己、岡室健の会員三氏を案内役に迎え、閉館後に集まった参加者約40名と一緒に一般部門を展示するG8、会員部門のgggの順に回った。実際の受賞作品を前に、第一線で活躍するアートディレクターによる解説を聞くことの出来る貴重な機会。作品のポイントや審査の経過などの裏話だけでなく、忌憚のないストレートな意見が飛び出すのも楽しみのひとつ。今年も時間オーバー気味の充実した内容となった。また会期中には井上嗣也氏のグランプリ受賞作品に関連して、コントラバス奏者のパール・アレキサンダー氏のソロライブを開催。合わせてオノセイジン氏が井上氏について語るトークも。6月の「井上嗣也展」に続いて二度目の演奏で今回も多くファンで盛り上がった。



カール・ゲルストナー 動きの中の思索

出演者: スザンヌ・ビエリ
(スイス国立図書館プリント&ドローイング部門長)

ゲルストナーから貴重なアーカイブの寄贈を受け管理している、スイス国立図書館のスザンヌ・ビエリ氏を迎えてのトーク。語られたのは、優れたCIとして広く知られるスイス航空の仕事や、シェル石油のロゴのリデザインの提案など、デザインに関すること。彼が自ら作成した5000にも及ぶカラーサンプル、さまざまな方法で分類された「カラーピアノ」と呼ばれるカードなど、色彩に関する研究について。そして1990年に出版された料理に関する彼のユニークな本についても解説した。このような幅広い活動を紹介することにより、1950年代以降のスイスでタイポグラフィ、広告、CIなどにおいて、画期的な新時代を切り開いたグラフィックデザイナーであっただけでなく、文筆家であり、思想家であり、コレクターであり、芸術家でもあり、要するに万能ですべてにおいて長けた能力を持っていたゲルストナーの全貌に迫った。



ヘイセイ・グラフィックス ギャラリーツアー

初回はCOGAの森崎が担当。純粋芸術とも言われるファンアートに対し、グラフィックデザインは応用芸術とも言われ、日常生活に有用性がある事、経済・商業等と密接に繋がり、何らかの情報伝達を担う点を解説。またポスターについては、[赤]立ち止まらせ、[黄]注意を惹き、[青]歩き出させる信号機の様なモノ、という松永真氏の言葉を紹介。元号が変わるタイミングに激動の平成の30年を振り返る為に企画し、5つのセクション構成としている。始めのセクションではバブルの名残が感じられるが、バブル崩壊やリーマンショック等も経て、大量生産・大量消費も影を潜め、モノからコトへと人々のニーズも変化した。携帯電話の登場、印刷のDTP化、環境問題の深刻化、ネット社会の到来といった大きなトピックが駆け巡った時代を、作品をピックアップして振り返った。残り2回は、dddの熊本が自身の実体験なども織り交ぜて作品解説を試みた。



ドヴァランス・システムを遊び場に ギャラリートーク

2001年に設立した二人が、6つのプロジェクトを例に、彼らが考えるデザインにおける「システム」についてプレゼンテーションを行った。ボンビドー・センターの展覧会カタログ「DADA」は、彼らが開発したDADAグロテスクフォントとグリッドシステムで制作された。チューリヒの演劇ギャラリーのVIでは、予算がなくロゴを判子にした招待状作成を提案、手作りが受容人を書ばせた。彼らのB42という出版社は、グラフィックデザイナーにツールとして役立つ本を発行する図書館のような存在を担う。日本の寄藤文平氏他、海外デザイナーの仕事もフランスへ紹介。彼らを日本へ紹介した室賀氏からのスタジオ名の由来への質問には、中央集権的なフランスで、彼らが学んだ地方都市名をアピールしたとの事。グローバルなネットや人の流動性の進展によるデザインの均一化を嫌う彼らは、コンテクストを重視し、余計なモノを省いたデザインを心がけている。



ドヴァランス・システムを遊び場に ICOM 京都大会2019記念トークイベント「美術館におけるヴィジュアルコミュニケーション」

出演者: アレクサンドル・ティモス&ジスラン・トリプレ、菊地敦己(グラフィックデザイナー)、保坂健二朗(東京国立近代美術館主任研究員)

アンスティチュ・フランセ関西＝京都 稲畑ホールで開催。まずドヴァランスがミュージアムに纏わる5つの仕事を紹介。保坂氏からは、彼らの図録は注釈の入れ方が絶妙とのコメント。菊地氏は、20世紀のタイポグラフィは静的だったが、彼らのものは止まっても動き出しそうにダイナミックだと評価。次に菊地氏が青森県立美術館のVIを始めとする、自身の作品を紹介。ヒエラルキーを嫌う人柄が滲み出る内容。美術大学中退の自分は、発注される仕事もやれば、自分で店を経営したり、自ら展覧会をしたり、という今の働き方が合っているという。「1つの職業＝1人の人間」から解放されるべきとも。保坂氏は、出版社B42やF7でNPO活動もしているドヴァランスに菊地氏との共通性を見る。最後にデザイナーの責任について、最低限の技術的基盤に基づき社会的責任を果たす事と締め括られた。



GRAPHIC WEST8: 三重野龍大全2011-2019「屁理屈」 ギャラリートーク&ギャラリーツアー

出演者: 三重野龍＋大原次郎＋井口皓太

5歳ずつ歳の離れた先輩二人とのトーク。大原氏は、三重野氏の作風が白地に筆勢のある「線描」の印象から最近では「背景」も強くなり、文字が活き活きする環境づくりができていますと評価。これには三重野氏が加わる前衛ダンスの身体パフォーマンス活動に基づく運動神経が影響と分析。三重野氏はカリスマ的な多くの後進から支持を受けるが、単に真似していても追いつけないとも。井口氏は、三重野氏が関わる人々が三重野氏の作風を形成しているという。井口氏からの今回の「大全」は、本来死んだ後に開催するものとの指摘に、三重野氏は、これまで8年少しの全作品をほぼ展示する事で、自身の活動履歴を見直す事ができたという。今後も興味のある動植物やその環境を参考にしながら、自分の作風がどう変化していくのかに興味があると締め括った。12/7の学生限定ギャラリーツアーでは、大学時代は友達を作り、とにかく一生懸命遊ぶべしとアドバイス。



河口洋一郎 生命のインテリジェンス

出演者：河口洋一郎＋中野信子（脳科学者）

今回展示されている最初期のCG作品が私の生まれた1975年だから、河口先生は私と同じ年の活動歴を持っているのですね、と言う脳科学者の中野信子氏がゲスト。河口氏が作品に取り入れているロトカ・ヴォルテラの方程式や、アートとサイエンスの関係についてなど、理系同士ならではの話がずんだ。アートとサイエンスは低いレベルで融合してはつまらない、互いに高め合うためには変に混ぜずに高いレベルで火花を散らす方がすごいものが出る、という言葉が印象的。また一方で河口氏は、今回初公開したドローイング作品について、簡単にコピー出来たり、AIが真似て出来るデジタルではない、直筆のオリジナル、本物を作りたいと語る。それに対し、コンピュータの先駆者が、皆がコンピュータを使う時代にアナログに戻ったのが面白い、と中野氏。まだまだいろんなアート作品を2050年まではやっていきますよ、と前向きな河口氏の話は尽きなかった。



GRAPHIC WEST8: 三重野龍大全2011-2019「屁理屈」 クロージングトーク

出演者：三重野龍＋原田祐馬（UMA/design farm）＋高田唯（Allright Graphics）

精華大の先輩で先生のような原田氏と初対面が会いたかった高田氏のトーク。高田氏は、本展で知らない作品を見て目が飛び出す評価。高田氏の就職しなかった理由は？に、三重野氏は何も考えておらず、当時はそれが普通だったと。タイポグラフィへの情熱の源は？に、元々フォントが買えず、有っても上手く組めず、目立ちたくもあり、自分で書く様に。グラフィティの匂いは、学生時代のライブペイントの影響。高田氏が今も不安定な三角形をデザインするのは肉体的感覚の筋絡だという。三重野氏が月一回行う詩と写真をデザインする活動も訓練という点でそれに近い。原田氏はAIではいくら設計してもできないデザインに興味があり、高田氏は人間のデザインを瞬間で想定外に変化させるAIの機能が欲しいとも。こうすべきと思うとまず逆をやってみて予想外の効果を生む、そんな力を三重野氏に感じるとの事。



本の縁側 矢萩多聞と本づくり ギャラリートーク&ギャラリーツアー

出演者：矢萩多聞、寄藤文平（文平銀座）

互いに兄弟の様に似ていると認める二人。寄藤氏のラジオ番組で話して以来の付き合い。本展も開幕時は未完成で後からコンテンツを追加。数年前、寄藤氏のgggの展覧会も同様。寄藤氏は、時系列に展示された600冊の本に、矢萩氏の「成長」を感じた。寄藤氏は、かつては「16時間の壁」を超えるべく17時間以上連続で働いた。渋谷スクランブル交差点でスナイパーの狙撃をのたうつダンスで回避するデザインゴルゴの寓話は秀逸。一方、矢萩氏の理想は、インド生活の影響もあり、なまけつつ時々本を作る「ネズミ男」。「アート」ではなく「フォーク（民芸）」により惹かれる。子供の頃、本を冷たい、怖いと感じていた彼が、偶然の装丁家のエピソードを通じ、本は本としてそれを取り巻く周辺も楽しんで欲しいとの結論。ギャラリーツアーでは多くの本を例に、背表紙の長さや様々な製本技法に至るまでのこだわりを詳しく紹介。



Design ZOO：いのち・ときめき・デザイン展 ギャラリートーク&ワークショップ

出演者：大森正夫（嵯峨美術大学教授）、池田泰子（嵯峨美術大学教授）、竹内オサム（嵯峨美術大学准教授）、坂本英房（京都市動物園副園長）、田中正之（生き物・学び・研究センター所長）

大森氏司会で進行。前半は本展について、池田氏から、動植物園関係のデザイナー筋で来たのは、そこで働く人の思いを引き出し、子供にも伝えたいという思いからという。竹内氏は、展示計画について、来場者がいかにワクワクドキドキできるかの視点で設計。学生が個性を発揮できる様、心掛けた。後半は、坂本氏から動物園の歴史を説明。予算上、自分たちでしかデザインできずレベルが低かった。今の嵯峨美大との連携は大いに助かるという。研究者である田中氏からは、文章でしか伝えられない自分たちの研究への思いを早く広く伝達する上で、デザインはとても有効。本展のパナーデザインや保全の樹パネルを是非、動物園でも展開したい。後日、開催の万華鏡づくりワークショップでは、見る世界を変えてくれるモノづくりとその装飾に参加した子供たちは時間も忘れて取り組んだ。



本の縁側 矢萩多聞と本づくり クロージングトーク

出演者：矢萩多聞、三浦衛（春風社代表）

学校の先生、劇団という経歴も持つ三浦氏。矢萩氏との出会いは、10年勤めた出版社が倒産し、自宅で春風社を始めて間もない1999年頃。まだ10代だった矢萩少年の母が営むインドやタイの輸入雑貨店での事だった。そこは本展タイトルにもある、まるで「縁側」の様に心地良い場所で、三浦氏と矢萩少年は自然と話す様になる。装丁家矢萩多聞があるのは、三浦氏の「絵が描けるんだから装丁もやってみたら？」がきっかけ。本展の図録「本の縁側」に収録された約600冊の内、350冊程が春風社の仕事。晶文社の平野甲賀氏の様に、春風社が伸びる事ができたのは矢萩氏のおかげと語る。同社では、常に新しい装丁家に矢萩氏の特徴的な装丁作品を紹介している。様々な本に纏わるエピソードを通じて、本づくりとは、矛盾だらけの人間の「業」をも肯定するように、人間を感じる事ができる仕事だと締め括った。



本の縁側 矢萩多聞と本づくり ワークショップ

装丁にまつわる三つの工程をテーマにしたワークショップ。
「編む 世界でひとつだけの写真絵本」では、街を歩きながら子供たちが撮った写真を持ち戻り、編集しつつ、じゃばら型の台紙にプリントして、デザインを行った。子供とは思えない独自の切り口と技巧に驚かされた。「綴じる 地球ではじめての本をつくろう」は、dddと恵文社一条寺店Cottageで開催。まったく新しい本のかたちを参加者たちが模索。思い出のショッピングバックでできた本、一枚の紙からできた折り畳み式の本、旅行パンフの写真でできた本、開くと階段状になる本など、力作ぞろい。「刷る デコボコ版画であそぼう」もCottageで開催。軍手や滑り止めマット等々の廃材や身の回り品の数々が材料。様々な形状・質感を持った素材を切ったり貼ったりしてできた版を用いた版画印刷に、参加者は時間の経つのも忘れて没頭していた。



ggg, ddd Gallery Talk Overviews

Keiichi Tanaami Great Journey

Participants : Keiichi Tanaami + Yuji Yamashita

The guest participant was art historian Yuji Yamashita, who has described Mr. Tanaami as the latest in a line of "phantasmagorical" artists that includes the likes of Jakuchu, Shohaku and Rosetsu. Looking over Mr. Tanaami's new works created for this exhibition, together they discussed the various sources behind his stunning images: the influence of Japanese painters such as Jakuchu and Hokusai, for example; and numerous experiences from his childhood, like the goldfish in the water cistern that he would watch from inside the air raid shelter during wartime; and his uncle's collection of prewar American pulp magazines. A rare animation created by Mr. Tanaami during the 1970s – a work that at the time had inspired Mr. Yamashita to describe Mr. Tanaami as a "quiet mad-man" – was shown, generating great excitement from the audience. Mr. Tanaami said that today, in his 80s, he gets more work commissions than ever, and Mr. Yamashita seemed content at the likelihood of having gotten everyone present to understand that Mr. Tanaami's "madness," far from ebbing, is accelerating all the more, producing an "absurd" number of works.



Sculptural Type: Kontrapunkt

Participants : Bo Linnemann + Phillip Linnemann + Tomoe Hamaguchiya

This Gallery Talk featured three participants: Bo Linnemann, one of the founders of Kontrapunkt; Philip Linnemann, the agency's current CEO; and Tomoe Hamaguchiya, director of Kontrapunkt's Japan branch. Kontrapunkt performs work for many global brands in its home country of Denmark, in other European countries, and in Japan. The focus of the Gallery Talk was on their typography, which was the theme of the exhibition. Why, they discussed, was there a need to create original typefaces? Their conclusion: because "you forget what you read, but remember what you see." A typeface impacts the viewer subliminally, and for that reason it's an important element of branding. The members of Kontrapunkt explained this by showing some actual examples, such as their work for Carlsberg. The Gallery Talk closed with Bo Linnemann citing three messages of importance when doing design work for a corporate client: 1. Celebrate uniqueness; 2. Embrace diversity; and 3. Work holistically and be responsible.



Art Direction Japan 2019 Exhibition (Gallery Tour)

Participants : Kazunari Hattori + Atsuki Kikuchi + Ken Okamura

This was the 2019 edition of the annual Gallery Tour jointly organized by Creation Gallery G8 and ginza graphic gallery. The tour, with approximately 40 visitors, was led by three members of the Tokyo Art Directors Club: Kazunari Hattori, Atsuki Kikuchi and Ken Okamura. The event provided a rare opportunity for visitors to hear explanations by some of Japan's leading art directors while viewing award-winning works. Besides hearing each work's noteworthy points as well as inside stories about the selection process, the visitors were treated to their guides' candid and forthright opinions. As often happens, again this year the tour was very rewarding and went over the allotted time. During the exhibition, a solo live performance was held in conjunction with Tsuguya Inoue's Grand Prize-winning work "COMME des GARÇONS SEIGEN ONO," featuring contrabass player Pearl Alexander. Seigen Ono also spoke about Mr. Inoue. Many fans were thrilled to hear Ms. Alexander performing for a second time, following her performance at "Tsuguya Inoue: Beginnings" the previous June.



What's Karl Gerstner? Thinking in Motion

Speaker : Susanne Bieri (Head of Prints and Drawings Dept., Swiss National Library)

The guest speaker was Susanne Bieri of the Swiss National Library, the recipient and overseer of the precious works and other archival materials of Karl Gerstner. She spoke of Gerstner's achievements in design, including his truly outstanding and widely known CI work for Swissair and his proposed redesign of the SHELL logo. She also talked about his studies relating to color: for example, the 5,000 color samples Gerstner created and his "color piano" of cards sorted by various methods. Ms. Bieri also discussed a less widely known, unique book about cooking published by Gerstner in 1990. Through her introduction to Gerstner's wide spectrum of activities, Ms. Bieri demonstrated how, in addition to being a graphic designer who forged the most epochmaking new era in Swiss typography, advertising and CI starting from the 1950s, Karl Gerstner was also a writer, philosopher, collector and artist – a true Renaissance man.



Heisei Graphics (Gallery Tours)

The first Gallery Tour was led by CCGA Curator Takako Morizaki. She discussed how, in contrast with fine art which is said to be "pure" art, graphic design is referred to as an "applied" art, i.e. art that has usefulness in everyday life, is closely related to economic and commercial matters, and functions as a means of conveying information. Concerning posters, she introduced how Shin Matsunaga likened them to a traffic signal: red being a warning to stop, yellow inviting caution, and green permitting one to proceed. This exhibition was planned as a retrospective of the 30 years of the tumultuous Heisei era, timed to coincide with the start of the new Reiwa period. It was divided into sections each spanning 5-6 years. The first section retained a lingering sense of the heady days of the bubble economy; but in the wake of the bubble's collapse and the financial crisis of 2008, mass production and mass consumption retreated and people's needs changed from material goods to personally fulfilling experiences. Major changes occurred in succession: the advent of the mobile phone, the development of desktop publishing, increasingly serious environmental concerns, and the arrival of the Internet-driven society.



deValence – Systems as Playgrounds (Gallery Talk)

The two founding members of deValence, which was launched in 2001, gave a presentation on the "systems" they see existing in design, using six of their projects on exhibit to illustrate their discussion. In their VI for a theater gallery in Zurich, due to budget constraints they proposed preparing invitation cards using a stamped logo, and the recipients were pleased by this hand-crafted appearance. B42, deValence's publishing house, serves like a library that publishes books useful as tools for graphic designers and typographers. It has also introduced France to the works of Japan's Bunpei Yorifuji and other foreign designers. In response to a question posed by Kiyonori Muroga, who introduced deValence in Japan, about the origin of their studio name, they said they wanted to promote the name of the regional city where they had studied, going against the French trend toward centralization. deValence loathes the homogenization of design resulting from globalization and free movement of people; they value context and strive for design stripped of anything superfluous.



deValence – Systems as Playgrounds ICOM Kyoto 2019 Commemorative Talk Event: "Visual Communication in Museums"

Participants : Alexandre Dimos & Ghislain Triboulet + Atsuki Kikuchi (Graphic Designer) + Kenjiro Hosaka (Curator, The National Museum of Modern Art, Tokyo)

This special event took place in Kyoto at Institut français du Japon-Kansai's Inabata Hall. It began with an introduction to five works exhibited by deValence at ddd relating to museums. Mr. Kikuchi offered that whereas 20th century typography was static, deValence's typography is dynamic in seeming on the verge of moving even when standing still. Next, Mr. Kikuchi introduced his exhibition of his graphic works and his VI for amuseum. The content vividly reflected his anathema to hierarchy. Mr. Kikuchi says that his current way of working fits him: he performs graphic design on consignment, operates his own shop, and also holds his own exhibitions. He added that we should be liberated from the constraining notion that every person has only one profession. Mr. Hosaka sees a point in common between Mr. Kikuchi and deValence, who operate B42 and undertake activities through their NPO F7. The Talk Event concluded with remarks relating to the responsibility of the designer: namely, that being a designer incurs a social responsibility based on a minimum technical basis.



Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019 "Quibble." (Gallery Talk & Gallery Tour)

Participants : Ryu Mieno + Daijiro Ohara + Kota Iguchi

Mr. Ohara has been an acquaintance since Mr. Mieno showed him a file of his rough designs in Kyoto in 2012. Mr. Iguchi, who resided in Kyoto until recently, in his works adds motion to the writing Mr. Mieno provides him. Mr. Ohara lauded Mr. Mieno saying that whereas earlier his style gave the impression of "line drawings" brushstroked on a white background, recently his "background" has become stronger too, creating an environment for his writing to be truly vibrant. He attributed this to Mr. Mieno's athletic prowess derived from his participation in avant-garde dance performance. Mr. Iguchi offered that people Mr. Mieno works with form his style. When he pointed out that the exhibition title (in Japanese, "The Complete Works of Ryu Mieno") is something normally reserved for use posthumously, Mr. Mieno replied that virtually all his works from the past eight years or more were on display, affording him a chance to review his own work history. His closing remark was that he was eager to see how his own style would change in the coming years, making reference to animals, plants and their environments that pique his interest.



Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life

Participants : Yoichiro Kawaguchi +
Nobuko Nakano (Neuroscientist)

"Mr. Kawaguchi's earliest works on display that use computer graphics are from 1975, the year I was born. So he and I have been active for the same number of years." So quipped neuroscientist Nobuko Nakano. The banter between these two science-leaning individuals was lively, touching on Mr. Kawaguchi's use of Lotka-Volterra equations in one of his works and his long involvement in probing the relationship between art and science. Especially memorable was the statement that when art and science fuse at a low level, the results are dull; for them to elevate each other, rather than forcibly mixing them, amazing results are possible when they give off sparks at a high level. In addition, Mr. Kawaguchi, speaking about the vast number of drawings he was showing for the first time, said he wanted to make hand-drawn originals – the real thing – and not digital works that can be easily copied or imitated using AI. In turn Ms. Nakano said it was interesting how those who pioneered use of computers reverted to analogue. Mr. Kawaguchi's forward-looking stance was everywhere in evidence: "I still plan to create artworks of all kinds, until 2050."



Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda (Gallery Talk & Gallery Tour)

Participants : Tamon Yahagi + Bunpei Yorifuji
(Principal of Bunpei Ginza)

This Gallery Talk brought together two designers who acknowledge their physical resemblance, like two brothers. Mr. Yorifuji said that seeing the 600 books displayed in chronological order, he got a sense that Mr. Yahagi had "grown." Mr. Yorifuji used to work nonstop more than 17 hours a day. His tale about "Design Golgo" evading a sniper attack by writhing through a dance on the Shibuya scramble intersection is brilliant. Mr. Yahagi's ideal, partly influenced by his having lived in India, is "Mouse Man," who is basically lazy but occasionally makes books. More than art, he is attracted to folk art. When Mr. Yahagi was a child, he thought books were cold and scary, but through his stories as a book designer by chance, he concluded the Gallery Talk by saying he hoped people would enjoy books as books and for what they encompass. In the Gallery Tour, using the many books on display as examples, Mr. Yahagi spoke in detail about how particular he is in such matters as the length of the spine or various binding methods.



Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda (Closing Talk)

Participants : Tamon Yahagi + Mamoru Miura
(Principal of Shumpusha Publishing)

The encounter of Mr. Miura and Mr. Yahagi around 1999, took place at the shop selling variety goods from India and Thailand operated by Mr. Yahagi's mother. This was a pleasant place, much like the "open veranda" featured in the exhibition title, and Mr. Miura and the young Tamon struck up a conversation quite naturally. Tamon Yahagi the book designer is what he is today as a result of Mr. Miura having commented to him, "Since you're good at drawing, why not give a try at book designing?" Of the roughly 600 books featured in engawa: the open book veranda, the catalogue of this exhibition, approximately 350 were published by Shumpusha. Mr. Miura says it's thanks to Mr. Yahagi that Shumpusha has been able to grow, in the same way that Shobunsha has thrived because of Koga Hirano. At Shumpusha, which specializes in academic books, Mr. Miura always introduces new book designers to the distinctive works designed by Mr. Yahagi. After sharing their various anecdotes relating to books, the two speakers ended the event saying that making books is a job that lets you feel human, affirming the "karma" of humans to be riddled with contradictions.



Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda (Workshops)

Workshops were held on three processes relating to book design.

Editing: "Let's Make a Photo Book Unique in All the World": In this workshop, young children walked around the gallery's neighborhood, camera in hand, taking photos. Back at the gallery, they then edited and printed them into an accordion photo album of their own design. **Binding:** "Let's Create the First Book on Earth": Over the course of two days, the participants probed completely new book formats. Their results were amazing: a book made from a nostalgic shopping bag, a folding book made from a single sheet of paper, a book consisting of photos from travel brochures, a book that opens into a configuration resembling stairs, etc. **Printing:** "Let's Play with 'Bumpy' Prints": Mr. Yahagi provided work gloves for everybody, and many materials were on hand, including non-slip mats and other discarded materials and everyday items. Using these materials of different shapes and textures, cutting and pasting them, the participants made "bumpy" prints with uneven surfaces.



Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019: "Quibble" (Closing Talk)

Participants : Ryu Mieno + Yuma Harada (UMA/
designfarm) + Yui Takada (Allright Graphics)

The discussion began with Mr. Takada noting how Mr. Mieno's poster had won the online ADC competition. He said his eyes lit up on seeing works at this exhibition that he was unfamiliar with. Mr. Takada then asked where he derived his passion for typography, to which Mr. Mieno replied that in those days he couldn't afford to buy fonts, and even if he had them he wasn't good at using them; that, plus his desire to stand out from the crowd, inspired him to create his own. The graffiti-like aspect of his work was influenced, he said, by his live painting performances he did once a week during his student days. Mr. Takada said that even now designing unstable triangles is muscle training to develop his physical sensitivity. Mr. Mieno's designing of friends' poetry and photos once a month is, by way of training, close to that. Mr. Harada said he is interested in design that can't be designed by AI, to which Mr. Takada added that he wished for AI that could instantly change human-made design in unexpected ways. He said that in Mr. Mieno's works he sensed the ability to take what one thinks should be done, then do the opposite to produce unexpected effect.



Design ZOO – Life meets design (Gallery Talk & Workshop)

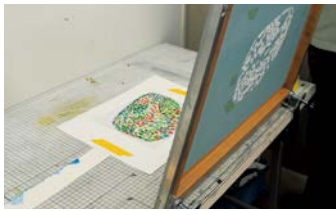
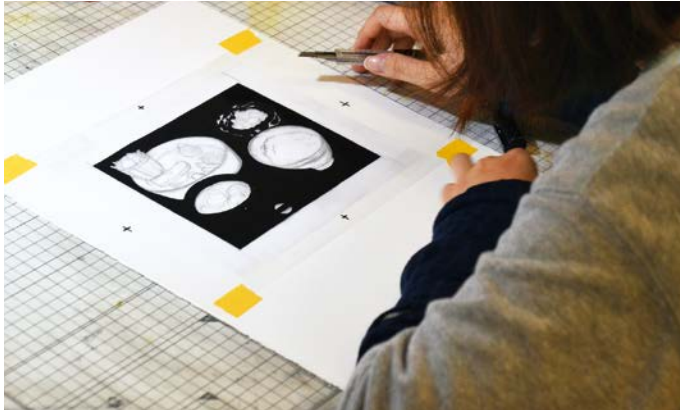
Participants :
Masao Omori (Professor, Kyoto Saga University of Arts) +
Yasuko Ikeda (Professor, Kyoto Saga University of Arts) +
Osamu Takeuchi (Associate Professor, Kyoto Saga University of Arts) +
Hidetaka Sakamoto (Vice Director, Kyoto City Zoo) +
Masayuki Tanaka (Director, Center for Research and Education of Wildlife)

The first half of the discussion was about the exhibition. Ms. Ikeda said she has been totally focused on design relating to zoos and botanical gardens out of a desire to draw out the thoughts of the people who work there, to convey them to children. Mr. Takeuchi, speaking about the display plan, said that although personally he isn't fond of animals, he designed from the perspective of making it thrilling for visitors, adding that he strove to enable students to manifest their individuality. The second half of the talk began with an explanation by Mr. Sakamoto of the history of Kyoto City Zoo. He said that due to budget constraints they had to design the zoo themselves, the results being poor. He said that working with Kyoto Saga University of Arts was a tremendous help. Mr. Tanaka, whose field is research, expressed the view that design is very effective for quickly and broadly conveying researchers' commitment to their work, which they themselves are able to do only in writing.



CCGA Print Studio Workshops

CCGA 版画工房ワークショップ



CCGAでは版画教育の拠点としての機能を強化し、地域でのグラフィックアートの普及振興にいっそう貢献するために、小規模ながらも本格的な版画制作を行うことのできる工房を2012年に開設、市民向け版画ワークショップの定期開催を開始した。版画工房にはエッチング用プレス機等のほか、大日本印刷の前身である秀英舎で100年以上前に実際に使われていたアルビオン・プレス（活版用手動平圧印刷機）を再生して設置している。

2019年は2つのワークショップを開講した。1回目は2013年以来となるシルクスクリーン講座で、CCGA版画工房では初めての写真製版による制作に挑戦した。また2回目は恒例となった、木口木版と亜鉛凸版を組み合わせたオリジナルカード制作講座を開催した。

2013年に開始した工房の一般開放も継続した。これは、CCGAでのワークショップ受講などによる版画制作の経験がある方を対象に、毎週土曜日（ワークショップ開講日およびCCGA休館日を除く）に工房を開放して、継続的に版画制作を行えるようにしたものである。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら版画工房は現在、ワークショップ・一般開放とも中止となっている。再開の暁には、グラフィックアートにより深く接する機会を得る場として、地域の皆様にまた活用していただけることを願っている。

In 2012 CCGA opened a studio, small in scale but enabling full-fledged print production, in a quest to strengthen its function as a base for education about printmaking and to contribute further to the promotion of graphic art locally. Since its opening, print workshops open to local citizens have been held here on a regular basis. The studio is equipped with an etching press and other standard equipment as well as a restored Albion press that was actually used more than 100 years ago at Shueisha, the forerunner of Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Two workshops were held during 2019. The first was about screen printing, the first on this topic since 2013 and the very first at the CCGA print studio to involve photoengraving. The second workshop had participants create original cards through a combination of wood engraving and zinc letterpress.

Again this past year, the print studio was made open for use by the general public, a practice started in 2013. Every Saturday (except when a workshop is being held or CCGA is closed), people who have experience in printmaking through attendance at CCGA's workshops or otherwise are able to use the studio, enabling them to continue their printmaking hobby without interruption.

Regrettably, at present both the workshop program and open use of the print studio have been suspended, in order to prevent the spread of the novel coronavirus. Once the situation allows reopening, CCGA hopes that the print studio will again be actively used by local citizens as a venue affording them opportunities to become more deeply acquainted with graphic art.

2019年度第1回 シルクスクリーン講座

日程：

Aコース：2019年10月5日（土）、10月6日（日）全2日間

Bコース：2019年10月19日（土）、10月20日（日）全2日間

（Aコース、Bコースとも内容は同じ）

講師：鷹野健（版画家）

受講者数：Aコース：8名／Bコース：7名

2019年度第2回 木口木版でカードづくり

日程：2019年11月16日（土）、11月23日（土）、

11月30日（土）、12月7日（土） 全4日間

講師：野口和洋（木口木版画家）

受講者数：7名

1st 2019 Workshop: "Screen Printing"

Dates：

Course A：October 5 (Sat), October 6 (Sun), 2019

Course B：October 19 (Sat), October 20 (Sun), 2019

(Both courses offered identical content.)

Instructor：Takeshi Takano (print artist)

Number of participants：Course A：8 / Course B：7

2nd 2019 Workshop:

"Making Cards by Wood Engraving"

Dates：November 16 (Sat), November 23 (Sat),

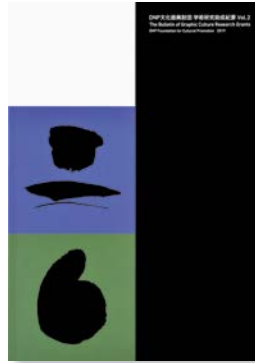
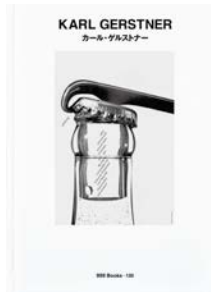
November 30 (Sat), December 7 (Sat), 2019

Instructor：Kazuhiro Noguchi (wood engraving artist)

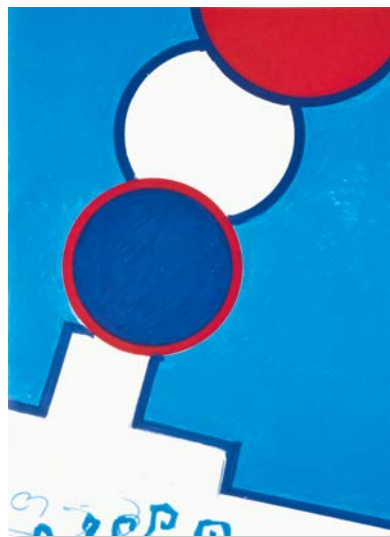
Number of participants：7

Publications 2019-20

出版活動

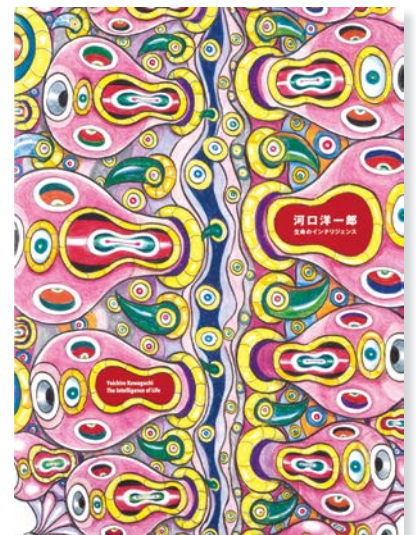
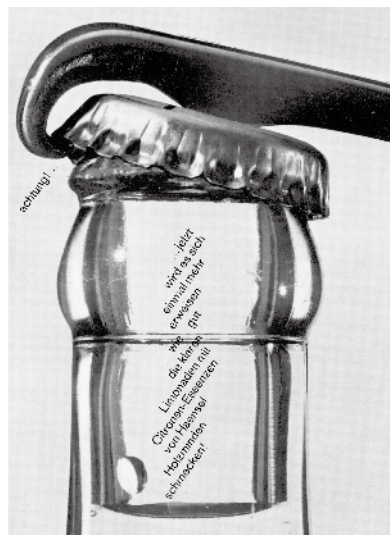


■ Graphic Art & Design Annual 2018



- ggg Books 129 コントラプンクト
- ggg Books 130 カール・ゲルストナー
- DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.2
- Beginnings 井上嗣也
- 仲條正義
- 田名網歌一の観光
- カール・ゲルストナー
- 河川洋一郎 生命のインテリジェンス (プリモアート®)

- ggg Books 129 Kontrapunkt
- ggg Books 130 Karl Gerstner
- The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.2
- Beginnings Tsuguya Inoue
- Masayoshi Nakajo
- Keiichi Tanaami Great Journey
- Karl Gerstner
- Yoichiro Kawaguchi The Intelligence of Life (Primo Art)



アーカイブ事業

Archiving

Poster Archives 2019-20

Mitsuo Katsui Poster Archives

勝井三雄 ポスターアーカイブ

半世紀以上にわたり日本のグラフィックデザイン界を牽引され、当財団の評議員を長年務めてくださった勝井三雄さんが、昨年8月12日、ご逝去された(87歳)。勝井さんは、デジタルデザインを先駆けて探究されてきた開拓者で、見えないものを“形”に置き換え、心に響く色彩を自由自在に表現され、ポスターだけでなくサインやエディトリアルなどグラフィック全般を手掛けられてきた。

今回のご寄贈は、勝井さんからの第2回目となった。実は亡くなられる数日前、勝井さんから電話で、ご寄贈にあたり詳細なご指示をいただいた。「枚数の少ない作品は改めてデジタル出力」や「海外の美術館への寄贈の調整」など、自分がこの世から消えても、作品は永久に残って欲しい、そんな切実な、ご自分の作品に対する深い愛着が感じられた。ご寄贈いただいた勝井さんの作品数は、トータル179点となり、財団のアーカイブは一層充実したものになった。

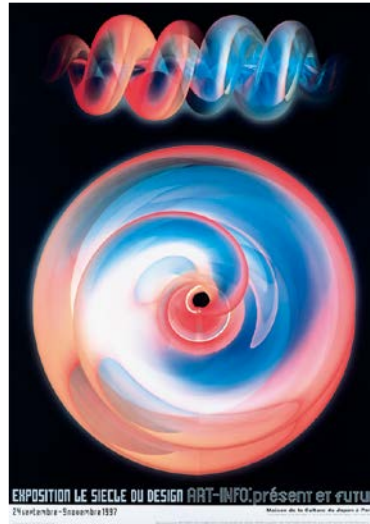
DNP文化振興財団 北沢永志

Mitsuo Katsui, a leading force in the realm of Japanese graphic design for more than half a century and a long-serving trustee of the DNP Foundation for Cultural Promotion, passed away on August 12, 2019 at the age of 87. A pioneer of digital design, he gave “form” to the invisible and free expression to colors that touch our heartstrings, not only in his posters but in all facets of graphics, including his signage and editorial design.

Several days before he died, Mr. Katsui called the Foundation and gave detailed instructions concerning what was to become his second donation to the Poster Archives. His wish was that, even after he was no longer here, he wanted his works to remain forever. He requested that his works available in small numbers be reproduced digitally, and that efforts be taken to donate his works to art museums overseas. These sentiments reflect the deep affection he felt toward his works. In all, Mr. Katsui's donated works came to 179 in number, adding further enrichment to the Foundation's Archives.

Eishi Kitazawa

DNP Foundation for Cultural Promotion



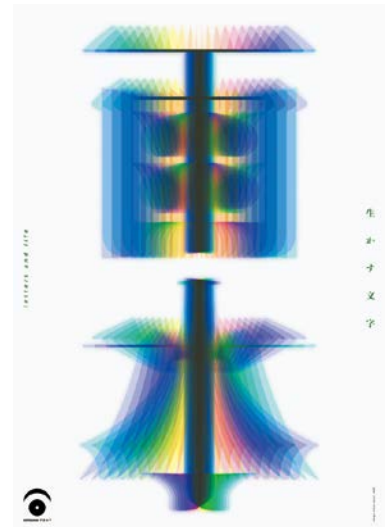
1997



1999



2007



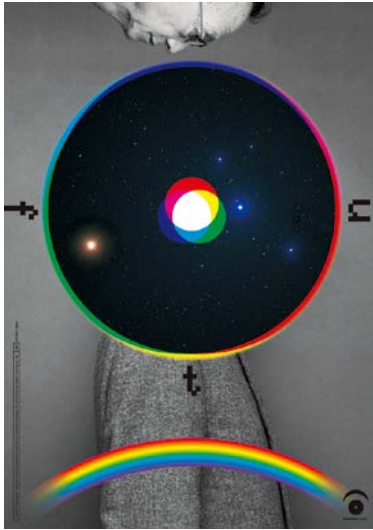
2008



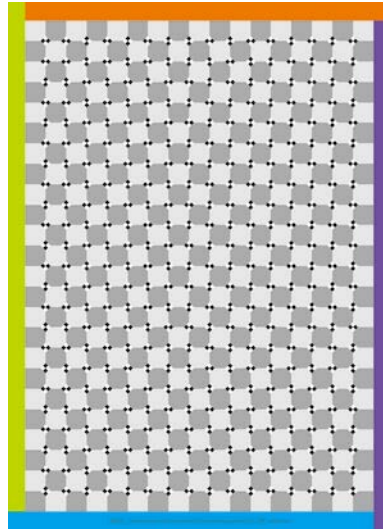
2009



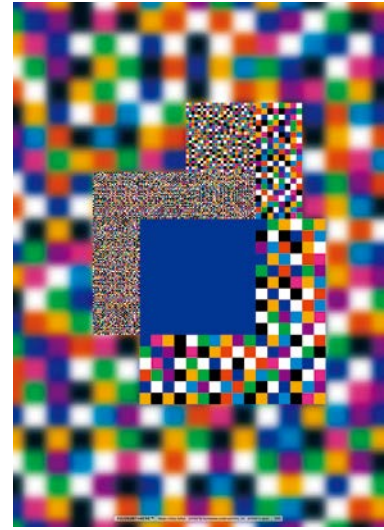
2011



2001



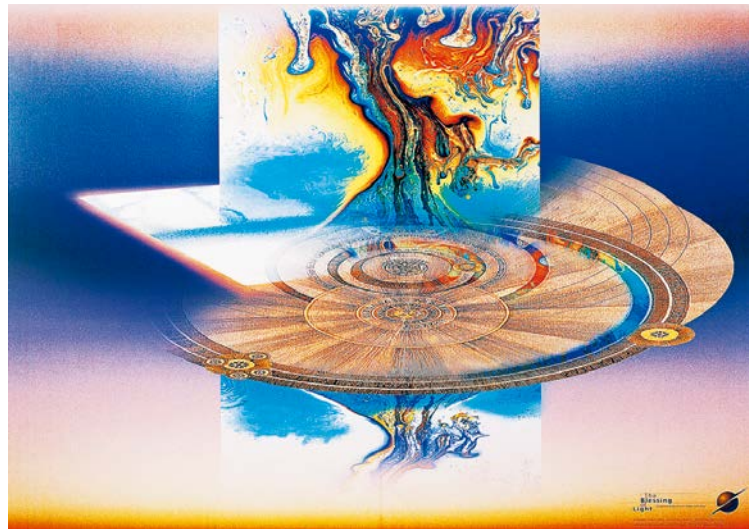
2001



2005



2008



1993



2012



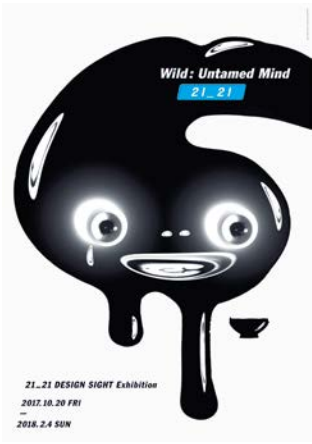
2018

Tsuguya Inoue Poster Archives

井上嗣也 ポスターアーカイブ



2016



2017



2018



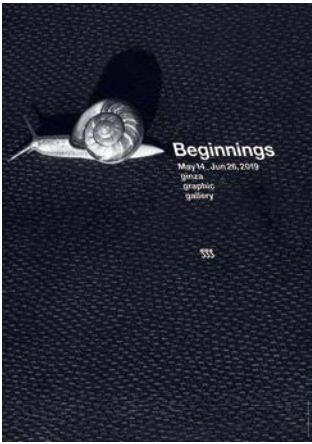
2018



2018



2019



2019



2019



2019



2019



2019

Paula Scher Poster Archives

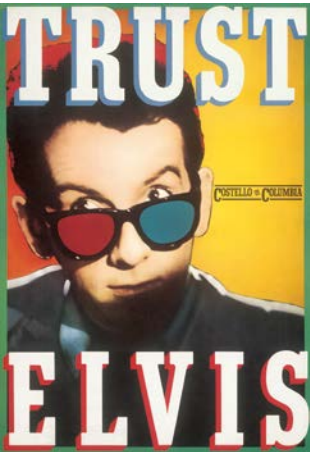
ポーラ・シェア ポスターアーカイブ



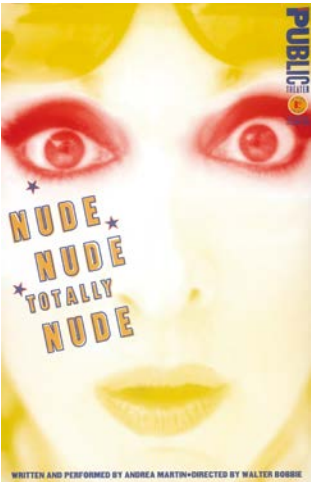
1979



1981



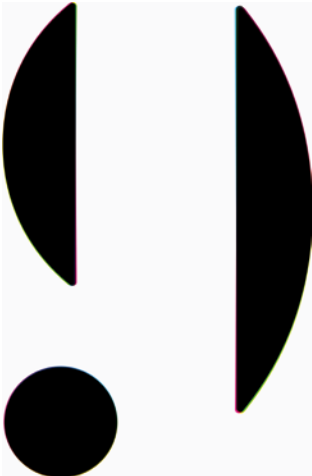
1981



1996



1996



2005



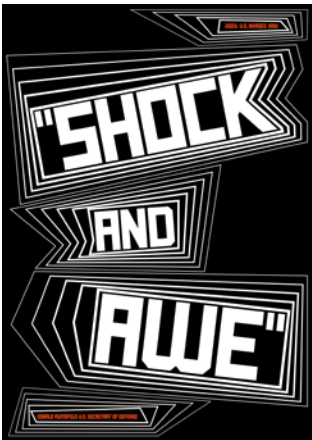
2009



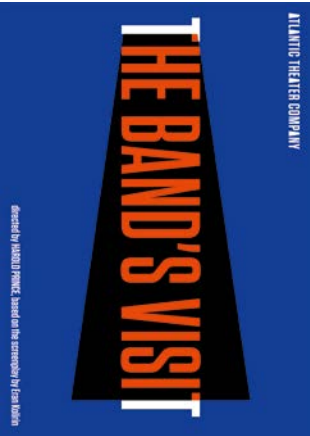
2009



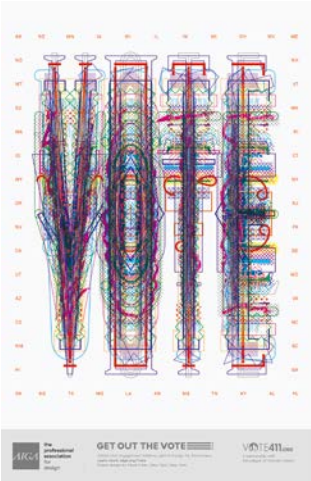
2012



2012



2015



2016

DNP Graphic Design Archives

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ

◆ポスターアーカイブ(2020年3月現在)

- ① 収蔵作家: 236名(国内作家119名、海外作家117名)
- ② 総点数: 13,475点
- ③ 2019年4月～2020年3月の受入れ状況:

<日本>

・井上 嗣也	51点
・勝井 三雄	106点
計	157点

<海外>

・ポーラ・シェア(リプロダクション)	30点
計	30点

◆アーカイブ作品寄贈

- ① Gallery 27 Limited (香港)
2019年9月
田中 一光ポスター 126点
グラフィックアート 8点

◆アーカイブ作品貸出

- ① DIC川村記念美術館
「描く、そして現れる一画家が彫刻を作るとき」展
2019年9月14日～12月8日
ロイ・リキテンスタイン作品 2点
- ② 岡山県立美術館
「太田三郎一此処にいます」展
2019年9月28日～11月4日
太田三郎作品 1点(10枚組)
- ③ 21_21 DESIGN SIGHT
「マル秘展 めったに見られないデザイナー達の原画」
2019年11月22日～2020年3月8日(9月22日まで延長)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により
会期中で中断後、会期が延長されることになった。
永井一正作品の原画類 16点(6作品分)
- ④ 奈良県立美術館
「特別展 生誕90年 田中一光 未来を照らすデザイン」
2020年1月25日～3月15日(2月27日で終了)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため
会期中で終了となった。
田中一光作品 39点、木田安彦作品 1点

◆Poster Archives (as of March 2020)

- ① Artists represented: 236
(119 domestic, 117 from overseas)
- ② Items in collection: 13,475
- ③ Items received between April 2019 and March 2020

<Domestic>

・Inoue Tsuguya	51
・Katsui Mitsuo	106
Total	157

<Overseas>

・Scher, Paula (Reproduction)	30
Total	30

◆Donations to the Archives

- ① Gallery 27 Limited (Hong Kong)
September 2019
126 Ikko Tanaka posters
8 Ikko Tanaka graphic arts

◆Loans of Archived Works

- ① Painting into Sculpture - Embodiment in Form
Exhibition at Kawamura Memorial DIC Museum of Art
September 14 – December 8, 2019
2 Roy Lichtenstein works
- ② Ota Saburo: I Am Here
Exhibition at Okayama Prefectural Museum of Art
September 28 – November 4, 2019
1 Saburo Ota work (ten sheets)
- ③ Secret Source of Inspiration:
Designers' Hidden Sketches and Mockups
Exhibition at 21_21 DESIGN SIGHT
November 22, 2019 – March 8, 2020
(Extended until September 22)
* It has been extended after temporary closure in
the middle of the session due to COVID-19.
16 Kazumasa Nagai original sketches (for the 6 works)
- ④ Ikko Tanaka: Design for the Future
Exhibition at Nara Prefectural Museum of Art
January 25 – March 15, 2020 (Ended February 27)
* It was ended in the middle of the session to
prevent the spread of COVID-19.
39 Ikko Tanaka works
1 Yasuhiko Kida work

国際交流事業

International Exchange

AGI Congress Rotterdam 2019

September 23-28 (AGI Open: September 24)

AGI総会ロッテルダム2019

本年のAGI総会は、リノベーションが急速に進むロッテルダムの寄港地、カーテンドレイトを舞台に開催された。船乗りの憩いの場から、若者たちが集うトレンドスポットへと変貌途上にあるこのウォーターフロントに、世界各国から200名ほどの参加者が集結した。今回は特に、総会と合わせて実施される一般公開イベント、AGIオープンの形式が画期的であった。通常2日間かけて進行されるプログラムが1日に凝縮され、14か所の会場にて会員63名が登壇した。豊富なテーマのレクチャーに加え、印刷の基礎を学びながら実際に作品をつくるワークショップも充実し、参加者たちが夢中になって創作している姿が印象的だった。会員限定のAGI総会では、多様な分野の専門家が招待され、ロッテルダム国際映画祭の成果や、レンブラント作品修復プロジェクトの取り組み、新しい形のジャーナリズムへの挑戦など、オランダの今を一步踏み込んで知ることのできる機会が提供された。オプションツアーなど、個々が自由に選択できるプログラムも多く用意され、ゆったりとした雰囲気のある総会となった。

〈参加人数〉

- AGI Open: 623名 (チケット完売)
- AGI 総会: 214名

〈AGI日本推薦により入会した新会員(2019)〉

- ミカエル・アムザラグ*
- マティアス・オグスティニャック*
- 高田唯
- ジョン・ワーウィッカー**

* AGI フランスとの合同推薦

** AGI オーストラリアとの合同推薦

In 2019 the Congress of Alliance Graphique Internationale (AGI) took place in the Netherlands, in the city of Rotterdam's Katendrecht district, a waterfront zone currently undergoing rapid transformation from a sailors' relaxation spot of yore to a trendy magnet for today's young people. This year's Congress drew some 200 participants from all around the world.

Especially noteworthy this year was the accompanying AGI Open, which adopted an exciting new format for 2019. This event, open to the public, has previously taken place over two days, but in 2019 it was condensed into a one-day program, with sessions of 63 members underway simultaneously at 14 locations. Lectures were offered by AGI members on a wealth of topics, and workshops were given in which participants created actual works while learning the basics of printing. It was very impressive to see how absorbed the participants became in their works in progress.

For this year's AGI Congress, specialists were invited from many different fields to speak on various topics relative to today's Netherlands. Among them were talks on the results of International Film Festival Rotterdam (IFFR), on the continuing project to restore the works of Rembrandt, and on redefining global journalism. Participants could also choose among a wide selection of special programs, including optional tours, making for a relaxed and enjoyable Congress for everyone.

Participants

- AGI Open: 623 persons (sold out)
- AGI Congress: 214 persons

New Members Recommended by AGI Japan Members (2019)

- Michael Amzalag*
- Mathias Augustyniak*
- Yui Takada
- John Warwicker**

* Recommended together with AGI France members.

** Recommended together with AGI Australia members.



Photo: Courtesy of AGI Netherlands

Support of “Colorful Japan – 226 Posters from the Collection” Exhibition at Stedelijk Museum Amsterdam, The Netherlands

September 7, 2019 – February 2, 2020

企画展「カラフル・ジャパン」協力 オランダ アムステルダム市立美術館

学芸員カロリン・フラーゼンブルクさんが、美術館引退前の最後を飾る仕事として企画した展覧会。日本のポスター226点を紹介する本展にて、財団から同館へ寄贈した三氏（永井一正、田中一光、福田繁雄）の作品が、その一環として紹介された。色使いや構成の観点から配置されたポスターが、床から天井までびっしりと並び、フラーゼンブルクさんいわく“万華鏡のような空間”が出現した。展示作品の多くは、オランダと日本との文化の架け橋として活躍した綿野茂氏（1937-2012）の功績によって収集されたもので、この企画展には、故綿野氏への感謝と敬意が込められていた。

9月28日、AGI総会の最終日に合わせてフラーゼンブルクさんの退任式典が開催され、AGI会員含め300名が参列した。また、式典直前に逝去したウィム・クロウエル氏（1928-2019）のご親族も駆けつけ、急遽氏を悼悼する会ともなった。財団からは、北沢永志が登壇し、財団とオランダとの交流史、そして日本のポスターの特徴と現状について語った。

タイトル：カラフル・ジャパンー所蔵品よりポスター 226点

主催：アムステルダム市立美術館

キュレーター：カロリン・フラーゼンブルク

（アムステルダム市立美術館 / グラフィックデザイン部門キュレーター）

イベント：ギャラリートーク / ワークショップ

入館者数：315,630名

■ 退任式典登壇者

・ヤン・ウィレム・シーブルフ（アムステルダム市立美術館 館長）

・北沢 永志（DNP文化振興財団 キュレーター）

・カロリン・フラーゼンブルク

（アムステルダム市立美術館 グラフィックデザイン部門キュレーター）

・ユードット・クロウエル（故ウィム・クロウエル夫人）

This exhibition was the last event planned by curator Carolien Glazenburg before her retirement from the museum. It introduced 226 Japanese posters, including works by three designers – Kazumasa Nagai, Ikko Tanaka and Shigeo Fukuda – that had been gifted to the Stedelijk by the DNP Foundation for Cultural Promotion. From floor to ceiling, posters filled the entire exhibition venue, arranged by color usage and composition, creating a space that Ms. Glazenburg compared to a “kaleidoscope.” The bulk of the 226 posters had been collected by the support of Shigeru Watano (1937-2012), a graphic designer who long served as a cultural bridge between the Netherlands and Japan. The exhibition was intended to posthumously express the Stedelijk’s great gratitude and respect to the late artist.

On September 28, the final day of the AGI Congress, a ceremony was held to honor Mrs. Glazenburg on her retirement, with 300 attendance including many AGI members. The event also served as a tribute to the memory of Wim Crouwel (1928-2019), who had passed away just days earlier. Several of his family members attended. Eishi Kitazawa, representing the DNP Foundation for Cultural Promotion, spoke about the history of exchanges between the Foundation and the Netherlands and also about the traits of Japanese posters and their situation today.

Title: Colorful Japan-226 Posters from the Collection

Organizer: Stedelijk Museum Amsterdam

Curator: Carolien Glazenburg (Stedelijk Museum Amsterdam)

Event: Gallery Talks / Workshop

Number of Visitors: 315,630

■ Speakers

・Jan Willem Sieburgh (Interim Director of the Stedelijk Museum)

・Eishi Kitazawa (Curator of ggg (DNP Foundation for Cultural Promotion))

・Carolien Glazenburg (Curator of Stedelijk Museum Amsterdam)

・Judith Crouwel (Wife of the Late Wim Crouwel)

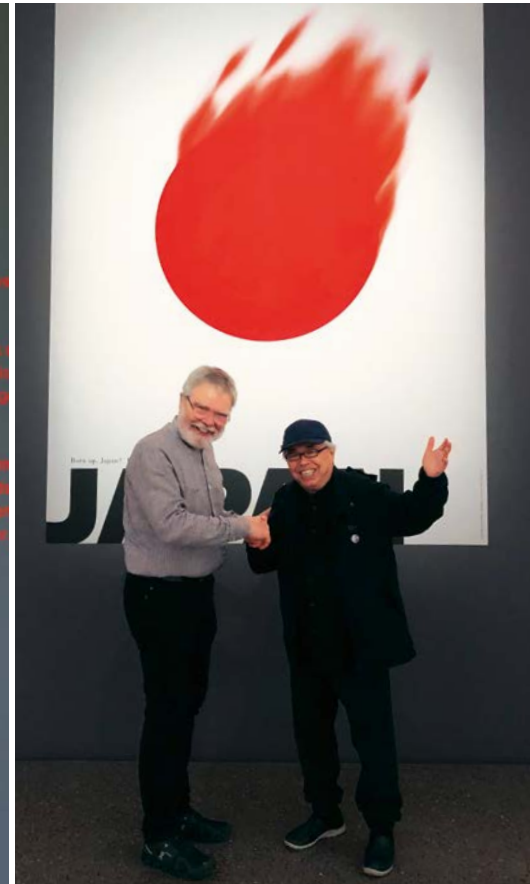


Photo 1, 2, 3: LNDW studio / Photo 4: Gert Jan van Rooij

Support of “Shin Matsunaga Made in Japan – Plakate” Exhibition at Museum Folkwang / German Poster Museum in Essen, Germany

October 11, 2019 – January 12, 2020

企画展「メイド・イン・ジャパーン 松永真：ポスター」協力 ドイツ・エッセン フォルクヴァンク美術館



「メイド・イン・ジャパーン 松永真：ポスター」展

ルネ・グローナート／ドイツ・ポスター美術館館長
「メイド・イン・ジャパーン 松永真：ポスター」展では、松永真の123点のポスターが展示されました。最も初期のポスターは1969年に、最新の作品は2019年に制作されたものです。本展を「回顧展」とする意図は全くありませんでしたが、結果として松永の40年にわたるポスター創造の全容を概観するものとなりました。展示されたポスターは商品広告や展示会およびイベントの告知、さらには環境保護問題までも扱っています。展示期間中には、「松永真 — グラフィック・ワークス」および「松永真 — メタル・フリース」という2つの映像作品も上映されました。いずれも2013年に藤井昇、藤井アキラ、両氏の協力により制作されたものです。松永真の作品の大きな魅力は「時代を超越している」点にあります。松永は文字デザインでも色彩のコンビネーションでも、トレンドを追うことがありません。依頼された作品を実現するために何が必要かという点を追究し、そこから生まれる自分自身のアイディアに従うだけです。ポスターという限られた画面の中で感情に訴える効果を上げるため、多くの場合、明確なフォルムとコントラストの強い色彩が組み合わせられています。そのためときにクライアントの希望や要求から遠く

離れたデザインをすることがあります。しかしその予想もしない効果に驚いて、クライアントが松永のそうした作品を採用することがよくありました。松永のデザイン・ポキブラリーは自身が持つ技術からインスピレーションを得ています。松永の方向性は国際的であり、その造形は、多色刷り木版画や墨絵といった日本の伝統に根ざすとともに、西欧のタイポグラフィやデザイン言語にも根を張って養分を得ています。松永は両者を組み合わせて「今までなかったもの」を創り出し、グラフィックデザインの発展に新たな現代性を持ち込んだのです。この現代性は1980年代以降、国際的にも評価され、幾つもの受賞につながりました。また彼のポスターが、紙の選択や加工、型押し、金属箔、コーティングなどに細心の注意を払って制作されている点にも注目すべきです。これまで述べてきた松永作品の先駆的な特徴は、次世代に大きな影響を与えてきました。「ペーパー・フリース」を代表とする自由な創作で、松永はクライアントの制約から解放されて制作に取り組んでいます。自由作品の数は既に1千点を超え、こうした「フォルムの実験」とも言うべきモチーフは、再び商業用作品に還流していくのです。フォルクヴァンク美術館の一部であるドイツ・ポスター美術館は、ドイツのポスター制作の模範として影響を与えてきた

作品を、これまでも多数展示してきました。その中には、同じく日本のアーティストである田中一光^{いちみつ} (1930～2002年) や五十嵐威暢^{いなん} (1944年生) の作品も含まれています。今回の「メイド・イン・ジャパーン 松永真展」で、われわれはフォルクヴァンク美術館のこの緩やかな伝統を次代につなげていくことができました。今回の展覧会を開催することができたのは、松永真氏がこれまでの全創作期間にわたって制作された123点のポスター作品を寄贈してくださったおかげです。また、「ペーパー・フリース」の特別刷り12点も展示することができました。さらに松永氏はこの美術展のために新たに4種類のポスターを自らデザインしてくださいました。この美術展のカタログはフォルクヴァンク・シュタイトル出版社から発行されています (独、英、日3カ国語対訳版)。

タイトル: メイド・イン・ジャパーン 松永真：ポスター
会 期: 2019年10月11日～2020年1月12日
主 催: フォルクヴァンク美術館/ドイツ・ポスター美術館 (ドイツ、エッセン)
キュレーター: ルネ・グローナート (ドイツ・ポスター美術館館長)
入館者数: 10,018名
イベント: 松永真レクチャー、美術館ツアー (10回) / 参加者計 147名



"Shin Matsunaga. Made in Japan – Posters"

René Grohnert / Head of the German Poster Museum
The exhibition at Museum Folkwang showed 123 works by Shin Matsunaga. The first posters are from 1969, while the last are from 2019. Although not specifically intended to be a retrospective, the exhibition provided a comprehensive look at 40 years of Matsunaga's poster creation and touched on themes such as product advertising, advertising for exhibitions and events, and works promoting the cause of environmental protection. The exhibition also featured two films: "Shin Matsunaga – Graphic Works" (2013) and "Shin Matsunaga – Metal Freaks" (2013), both directed by Noboru Fujii and Akira Fujii. The fascinating thing about Shin Matsunaga is the timelessness of his work. He never followed trends in areas like in typography or color combinations. Rather, he followed his own idea of what the task at hand required in terms of expression. Occupying a reduced area and aiming for an emotional effect, the works are mostly a combination of clear shapes and contrasting colors. In creating those pieces, Matsunaga sometimes moved far away from the wishes and specifications of clients who

nevertheless then often decided to go along with his surprising twists. His design language is inspired by his art, and his orientation is international. His design roots are as much in the Japanese tradition of woodblock printing and ink painting as they are in Western typography and design language. Through these combinations, Matsunaga created something new, bringing a new modernity to the development of graphic design. From the 1980s onward, that modern dimension has garnered Matsunaga international recognition and accolades. Also noteworthy is the careful execution of the posters. Matsunaga's use of paper and finishes such as embossing, metal foils, and printing varnishes, for example, attest to that care. His pioneering aesthetic also explains the exemplary role that his works played for subsequent generations of designers. In his independent work, especially "Paper Freaks," he frees himself from the formal constraints of creating for a client. Nevertheless, many of these freely created designs, which have now grown in number to more than 1,000 experimental sheets, find their way back to his applied work. In the past, the Deutsches Plakat Museum (German

Poster Museum) has devoted numerous exhibitions to such role models and influential factors that have had an impact on poster art in Germany. The showcases frequently included posters by Japanese designers such as Ikko Tanaka (1930–2002) and Takenobu Igarashi (1944–). The exhibition of works by Shin Matsunaga continues this informal progression at the Museum Folkwang. The exhibition was made possible by Shin Matsunaga's generous donation of 123 posters, covering his entire creative period, to the German Poster Museum. Further enriching the showing is a series of 12 special prints from "Paper Freaks" and four posters that Matsunaga created specifically for the exhibition. A catalog is available in the Edition Folkwang/Steidl (German, English, Japanese).

Title: Shin Matsunaga. Made in Japan – Plakate
Term: October 11, 2019 – January 12, 2020
Organizer: Museum Folkwang / German Poster Museum
Curator: René Grohnert (Head of the German Poster Museum)
Number of Visitors: 10,018
Events: Lecture by Shin Matsunaga,
10 public tours with a total of 147 visitors

Support of “Hello! Ikko Tanaka” Exhibition at Space 27 in Hong Kong, China

October 20 – November 10, 2019

企画展「ハロー！田中一光」協力 香港 ギャラリー Space 27



クオーリーベイに立地するギャラリー、Space27にて、香港初となる田中一光展が開催された。このギャラリーは、2015年、アラン・チャンデザインカンパニーによって設立され、香港をはじめアジアの芸術やデザインの普及活動を行っている。本展では、伝統、文字、国際交流、アート・ディレクションという4つのテーマの下、100点以上ものポスターが展示され、また、関連書籍や写真、アラン・チャン氏との交流を示す資料なども紹介された。作品と並行して、その背景にある、田中一光の人となりや豊かな人間関係を伝える展示意図から、財団は、氏をよく知る方々のインタビュー映像制作や、写真資料収集などに協力した。会期前日、関係者を集めてのオープニングセレモニーが開催され、賑やかな幕開けを飾った。

タイトル：ハロー！田中一光展

主催：アラン・チャンデザインカンパニー

キュレーター：サニー・チャン

入館者数：1,334名

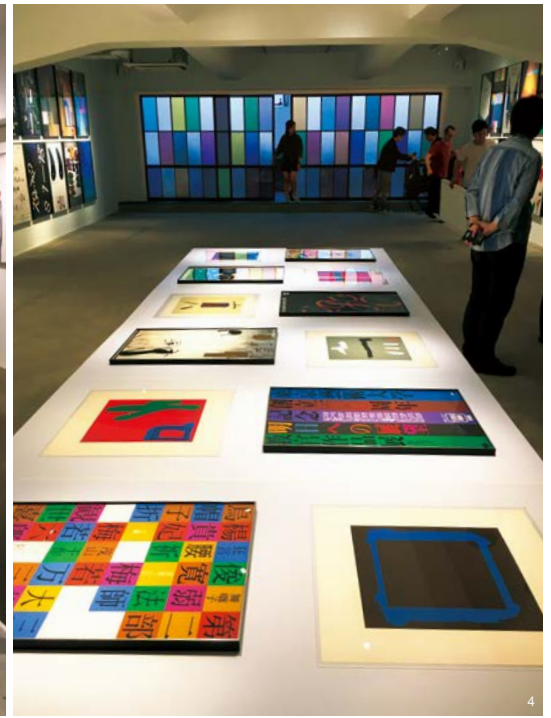
イベント：キュレーターによるギャラリーツアー

(7回／参加者計260名)

■10月19日 オープニングセレモニー登壇者

- ・アラン・チャン（アラン・チャンデザインカンパニー代表）
- ・和田充広（日本国駐香港総領事館大使、兼総領事）
- ・舟橋香樹（DNP文化振興財団専務理事）
- ・水野誠一（(株)IMA代表取締役）





The very first exhibition in Hong Kong dedicated to Ikko Tanaka took place at Space 27, a gallery located in Quarry Bay opened in 2015 by Alan Chan Design Company. Space 27 proactively promotes the arts and design achievements of artists from Hong Kong and throughout Asia. This exhibition showcased more than 100 of Ikko Tanaka's posters, grouped according to four themes: tradition, typography, international exchange and art direction. Also on display were related books and photos as well as materials demonstrating Mr. Tanaka's many connections with Mr. Alan Chan. In parallel with displaying Mr. Tanaka's works, another objective was to convey his personal character and the abundant personal relationships that formed the backdrop to his prolific output. To carry out that aim, the DNP Foundation for Cultural Promotion cooperated on filming interviews of people who knew Mr. Tanaka well, collecting photographic materials, etc. A well-attended opening ceremony

was held on the day prior to the exhibition's opening to the public.

Title: "Hello! Ikko Tanaka" Exhibition
 Organizer: Alan Chan Design Company
 Curator: Sunny Chan
 Number of Visitors: 1,334
 Event: Gallery Guide Tour by Sunny Chan
 (7 tours / total 260 guests)

■ October 19 Opening Ceremony: Speakers

- Alan Chan (President of Alan Chan Design Company)
- Mitsuhiro Wada (Ambassador and Consul-General of Consulate-General of Japan in Hong Kong)
- Koju Funahashi (Executive Director of DNP Foundation for Cultural Promotion)
- Seiichi Mizuno (President of Institute of Marketing Architecture Co., Ltd.)



Photo 5: Alan Chan Design Company / Others: DNP Foundation for Cultural Promotion

研究助成事業

Research Grants

Bauhaus 100th Anniversary Lecture

After the Bauhaus: The New Bauhaus and Black Mountain College

バウハウス100周年記念講演会

アフター・ザ・バウハウス：ニュー・バウハウスとブラック・マウンテン・カレッジ

バウハウスがヴァイマルに設立されてから2019年で100年を迎えた。これを記念して、現代グラフィックデザインの源流のひとつであるバウハウスを再考する講演会を開催した。

テーマは「アフター・ザ・バウハウス」。とくに、1933年のバウハウス閉校後、アメリカに移住したバウハウス関係者たちが関わった二つの教育機関、ラーズロー・モホイ＝ナジが設立したニュー・バウハウスと、ジョセフ・アルバーズが教鞭をとったブラック・マウンテン・カレッジに焦点をあてた。どちらも、20世紀後半にアメリカが美術デザイン分野で世界をリードする存在になるための礎となった。

当日は71名の聴講者を得て、モホイ＝ナジ研究やアルバーズ研究の第一人者による講演と、実際にニュー・バウハウスの学生だった故ネイサン・ラーナー夫人、キヨコ・ラーナーさんのお話をうかがった。

2019 marked 100 years since the Bauhaus was founded in Weimar, Germany. To commemorate this, we held a lecture to review one of the contemporary graphic design sources, Bauhaus.

The theme was "After the Bauhaus." In particular, the event focused on two schools involved the Bauhäuslers who emigrated to the U.S. after the Bauhaus closed in 1933: The New Bauhaus, founded by László Moholy-Nagy and Black Mountain College, where Josef Albers taught. Both were foundations for the U.S. to become a world leader in art and design in the second half of the 20th century.

Seventy-one people attended the event and heard lectures by leading scholars of Moholy-Nagy and Albers studies, as well as a talk by Mrs. Kiyoko Lerner, the widow of Nathan Lerner, actually a student at the New Bauhaus.

日 時：2019年12月13日（金）14：00～17：00

会 場：DNP銀座ビル3階

主 催：公益財団法人DNP文化振興財団

参加者：71名

プログラム：

- ・ ニュー・バウハウス：L. モホイ＝ナジとG. ケペシュ、そしてMITへ
講師：井口壽乃（埼玉大学副学長）
- ・ アメリカにおけるバウハウス：ジョセフ・アルバーズの教育活動を中心に
講師：天貝義教（秋田公立美術大学教授）
- ・ ブラック・マウンテン・カレッジ探訪
講師：永原康史（多摩美術大学教授）
- ・ 対談 ニュー・バウハウスとネイサン・ラーナー
キヨコ・ラーナー、聞き手：井口壽乃

Date Time: December 13, Friday, 2019, 2:00 p.m. to 5:00 p.m.

Venue: DNP Ginza Building 3rd floor

Organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion

Number of participants: 71

Programs:

- ・ New Bauhaus: L. Moholy-Nagy, G. Kepes, and MIT
Toshino Iguchi, Vice-president, Saitama University
- ・ Bauhaus in America: focusing on the educational activities of Josef Albers
Yoshinori Amagai, Professor, Akita University of Art
- ・ Exploring Black Mountain College
Yasuhiro Nagahara, Professor, Tama Art University
- ・ Interview with Kiyoko Lerner: New Bauhaus and Nathan Lerner
Interviewer: Toshino Iguchi



Graphic Culture Research Grants

グラフィック文化に関する学術研究助成

2019年度、DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、国内79件、海外16件、計95件という過去最多の応募があった。本助成プログラムが研究者コミュニティに広く知られるようになったことの証左と言えよう。

また、昨年まで「グラフィック・デザイナー、田中一光に関する研究」を募集していたB部門を、今年度から「グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究」へと変更し、この新たなB部門に、国内外から計24件の応募を受け付けた。研究基盤としてのアーカイブの重要性が世界中で再認識されていることが窺える結果となった。

審査は例年どおり、書類審査で行う一次審査と審査委員が一堂に会する二次審査の二段階で行った。そして討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門で9件、アーカイブをテーマとするB部門で2件、計11件を本年度の新規採択研究に選出した。また、2018年度採択研究のうち継続助成希望のあった10件については、中間報告書にもとづく審査の結果、すべての継続助成が承認された。審査は、研究テーマの新規性・独創性、社会や学問分野における意義・重要性、そして研究計画の妥当性の三つの観点で、個々の申請を評価した。選考に際しては、スケジュールや助成金の使途といった研究計画の妥当性が、例年以上に慎重に考慮され、その結果、研究手法や計画がよく練られた堅実な研究が選出された。採択された研究者の皆さまには、研究が充実したものとなり、有意義な成果の発表を聞けることを期待している。

2019年度募集要項

- A部門 グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究
- B部門 グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究
- 助成対象 大学、美術館等の研究機関に所属する研究者（大学院修士課程在籍者以上）、またはそれに準じる研究実績のある者（大学教授または美術館館長の推薦のある者）
- 助成金額 1件につき上限50万円
- 助成期間 2019年11月～2021年3月31日まで（1回を限度に次年度に継続研究が可）
- 申請方法 所定様式の申請書を郵送
- 申請期間 2019年5月1日～7月17日まで



In 2019, the DNP Foundation for Cultural Promotion research grants program attracted a total of 95 applications, including 79 from within Japan and 16 from overseas. This unprecedentedly large response demonstrates that research scholars today have become well aware of this program's existence.

Category B was revised to invite research concerning archives pertaining to graphic design and graphic art. In its new incarnation, Category B this year attracted 24 applications from scholars worldwide. This high level of interest vividly indicates the importance attached globally to archives as a fundamental base of research.

As in previous years, the grant winners for 2019 were decided in a two-part screening process: the first part consisting of evaluation of the application documents, and the second part a final evaluation session attended by the complete judging panel. After lengthy discussions of the merits of the finalists, ultimately the judges selected a total of 11 research topics to receive new grant awards: 9 in Category A, encompassing a broad array of research topics relating to graphic design or graphic art, and 2 in the redefined Category B concerning archives. In addition, 10 of the grant winners of 2018 had requested continuation of support for a second year, and after a review of these grantees' interim reports the judges approved ongoing assistance for all 10.

In evaluating the submitted applications, the judges carefully considered their respective merits from a variety of perspectives including novelty, originality, social or scholastic significance, and appropriateness as a research project. This year, in choosing the grant recipients relatively greater weight was placed on each topic's appropriateness as a research project in terms of its intended timetable and planned usage of the grant funds. As a result, I think the applications selected this year tended to be those that involve solid, well-planned projects to be executed using sound research methods.

Overview of the 2019 Grant Program

Category A	Research on graphic design or graphic art in general
Category B	Research on graphic culture-related archives
Eligibility	Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
Grant amount	Maximum 500,000 yen
Grant period	November 2019 to March 31, 2021. (Grants are awarded on an annual basis, with extension for a second year possible, but one time only.)
Application method	Designated application form, to be submitted by regular post
Application period	May 1 to July 17, 2019

応募件数

	国内	海外	計
A部門	62	9	71
B部門	17	7	24
計	79	16	95

Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	62	9	71
Category B	17	7	24
Total	79	16	95

Graphic Culture Research Grants

グラフィック文化に関する学術研究助成

2019年度 採択研究(11件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	患者・市民向けがん情報提供における効果的な メディカルイラストレーションの作成・活用に向けた大規模アンケート調査	原木 万紀子	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授	500,000円
A	1980年代におけるイラストレーターの社会的立ち位置と イラストレーション言説の恣意性をめぐる研究	塚田 優	多摩美術大学油画研究室 助手	350,000円
A	都市空間に刻まれるグラフィックス文化：シーン街区の言語景観に関する研究	池田 真利子	筑波大学 助教	500,000円
A	日本近代石版画研究発展のための亀井至一・竹二郎研究	中山 恵理	郡山市立美術館 学芸員	500,000円
A	ペーパー・ギャラリー：出版アートを通じた日米交流	廣 李果	南カリフォルニア大学 美術史学部 ドーンサイフ博士教職フェロー	500,000円
A	杉浦非水の戦争疎開資料に関する調査研究	折井 貴恵	川越市立美術館 学芸員	500,000円
A	日本の写真黎明期におけるカロタイプとアンプロタイプの実践にみる 写真の複製性にたいする認識	安藤 千穂子	京都工芸繊維大学 博士後期課程	500,000円
A	20世紀前半の日本・ドイツにおける文字改革運動の経済史的研究 —カナモジカイとバウハウスを手がかりに—	川崎 稔哉	ペンシルヴェニア大学 博士課程大学院生	500,000円
A	第二次世界大戦後のイタリアのグラフィック・デザイナーと社会： アルベ・スタイナーに関する基礎的研究	太田 岳人	千葉大学 文学部 非常勤講師	500,000円
B	民間所在アーカイブズにおける写真の公開・活用体制の構築 —女性・子どもを記録した写真家を対象に—	阿久津 美紀	目白大学 人間学部 児童教育学科 助教	500,000円
B	栗津潔アーカイブにおけるポスター類画像データ公開と著作権対応について	石黒 礼子	金沢21世紀美術館 アーキビスト	500,000円

2019 Selected Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Large-scale questionnaire survey for the creation and utilization of effective medical illustrations in providing cancer information to citizens	HARAGI Makiko	Associate Professor, School of Health and Social Services, Department of Health Sciences, Saitama Prefectural University	500,000
A	A study of the social position of illustrators and the arbitrary illustration discourse of the 1980s	TSUKADA Yutaka	Teaching Associate, Department of Painting (Oil Painting), Tama Art University	350,000
A	Graphic Culture in Urban Space: Research on Linguistic Landscapes in Scene Districts	IKEDA Mariko	Assistant Professor, Faculty of Art and Design, University of Tsukuba	500,000
A	Research on the Works of Kamei Brothers (Shiichi/Takejiro) for the Advanced Studies of the Lithography in Modern Japan	NAKAYAMA Eri	Curator, Koriyama City Museum of Art	500,000
A	Paper Gallery: Japan-U.S. Exchanges through Publication-Based Art	HIRO, Rika	Dornsife Postdoctoral Teaching Fellow, Department of Art history, University of Southern California	500,000
A	Study related to Sugiura Hisui's Wartime Evacuation in Kawagoe	ORII Takae	Group Manager, Kawagoe City Art Museum	500,000
A	Study on the Understanding of Duplication in the Practice of Calotype and Ambrotype in the Dawn of Japanese Photography	ANDO Chihoko	Doctoral Student, Kyoto Institute of Technology	500,000
A	An economic historical study of script reform movements in early twentieth-century Japan and Germany	KAWASHIMA Toshiki	Ph.D. candidate, University of Pennsylvania	500,000
A	Graphic designer and society in Italy after the Second World War: a study on Albe Steiner	OHTA Taketo	Part-time Lecturer, Chiba University	500,000
B	Designing Policies and Guidelines to Enable Photographs in Private Archives to be Used by the Public: A Case Study of Photographers who Took Pictures of Women and Children	AKUTSU Miki	Assistant Professor, Department of Childhood Education and Welfare, Meiji University	500,000
B	Copyright process and procedures of the poster images open to the public in AWAZU Kiyoshi Archive	ISHIGURO Reiko	Archivist, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa	500,000

2018年度 採択研究継続助成(10件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	イメージ、タイポグラフィ、イデオロギー： 植民地時代(1920-30年代)における韓国の構成主義	鄭善娥(チョン、ソナ)	ソウル大学 博士課程	250,000円
A	視覚文化研究における生物学とバイオメディアの考察： 微生物によるグラフィックスを事例に	長谷川 紫穂	埼玉大学大学院 人文社会科学研究所 産学官連携研究員	500,000円
A	古代地中海文明における空間と平面を繋ぐ媒体としてのグラフィックアートに関する研究： 古代エジプトのデザイン技法の分析を中心に	安岡 義文	早稲田大学高等研究所 講師	500,000円
A	画面デザインの保護のあり方・意匠法による保護拡張は必要か	麻生 典	九州大学 芸術工学研究院 助教	500,000円
A	実験心理学手法による慣用色名認識の現状把握と カラーシステムへの対応性評価	吉澤 陽介	木更津工業高等専門学校 情報工学科 准教授	350,000円
A	写真植字と光学的デザイン： 1950年代末～90年代前半の日本における組版とブック・デザインの展開	阿部 卓也	愛知淑徳大学 創造表現学部 准教授	300,000円
A	書物の機能と装飾：西欧初期中世法典写本の研究	安藤 さやか	東京藝術大学 美術学部芸術学科 西洋美術史研究室 教育研究助手	500,000円
A	近代日本写真における雑誌からオリジナル・プリントへのメディア変遷－ ギャラリスト・石原悦郎の書簡アーカイビングを通じて	粟生田 弓	石原悦郎とツァイト・フォト・サロン アーカイブズ	500,000円
A	ドイツ語圏のジャポニスム： ヴァルター・クレムとカール・ティーマンの多色木版画を中心に	青木 加苗	和歌山県立近代美術館 学芸員	500,000円
A	井上隆雄写真資料のアーカイブ構築に基づいた ラダック仏教壁画のグラフィック的観点からの表現技法研究	山下 晃平	京都市立芸術大学 美術学部 非常勤講師	500,000円

2019 Continuation Grants (2018 Selected Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Image, typography and ideology: constructivism in Korea in colonial era (1920-30s)	Suna JEONG	Doctoral Course, Seoul National University	250,000
A	A Study on Appearance of Biology and Biomedicine in Visual Culture Studies: Through Analysis of Graphics Created by Microorganisms	Shiho HASEGAWA	Part-time Researcher of Industry-Government-Academia Collaboration, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Saitama University	500,000
A	A Study on the Ancient Mediterranean Graphic Art as a Mediator of Planar and Spatial Expressions: A Focus on the Ancient Egyptian Design Method	Yoshifumi YASUOKA	Assistant Professor, Waseda Institute for Advanced Study (WIAS)	500,000
A	The protection of design including a graphic image: consideration of the necessity for enhanced protection by Design Act	Tsukasa ASO	Assistant Professor, Faculty of Design, Kyushu University	500,000
A	Grasp of custom color name recognition by experimental psychology method and evaluation of adaptation to color systems	Yosuke YOSHIZAWA	Associate Professor, National Institute of Technology, Kisarazu College	350,000
A	Phototypesetting and Optics-based Design in Japan: A Historical Study on the Development of Typesetting and Book Design (from late 1950s to early 1990s)	Takuya ABE	Associate Professor, Faculty of Creation and Representation, Aichi Shukutoku University	300,000
A	Function and Decoration of Books: a Study on the Legal Manuscripts of the Early Middle Ages	Sayaka ANDO	Research Assistant, Department of Aesthetics and Art History, Tokyo University of the Arts, Faculty of Fine Arts	500,000
A	Transition of Media from Magazines to Original photographs in Modern Japanese Photography: Through Archiving the letters to Gallerist Etsuro Ishihara	Yumi AOTA	Etsuro Ishihara and ZEIT-FOTO SALON Archives	500,000
A	Japonisme in the German-Speaking World: Focusing on the Color Woodcut by Walther Klemm and Carl Thiemann	Kanae AOKI	Curator, The Museum of Modern Art, Wakayama	500,000
A	A Study of the Expression Technique Present in Ladakh's Buddhism Wall Paintings from a Graphic Viewpoint, Based on the Archives of Takao Inoue's Photographic Materials	Kohei YAMASHITA	Adjunct Lecturer, Kyoto City University of Arts	500,000

研究成果報告会・交流会

2019年11月22日にDNP銀座ビルにおいて学術研究助成成果報告会兼交流会を開催した。本会は、採択研究者および審査委員が一堂に会して、助成研究の成果報告、交流を深めることを目的とする。当日は総勢44名が参加し、助成期間を満了した5名の研究者が研究成果を報告、あわせて、新規採択研究者の紹介をおこなった。日頃接点のない分野の異なる研究者たちが交流する充実した時間となった。

『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.2』は、2019年までに助成期間が終了した15名の採択研究者の成果論文を収録。また、審査委員、前田富士男先生による特別寄稿を掲載した。紀要は、国立国会図書館、東京文化財研究所をはじめ、全国の大学図書館、美術館等へ献本した。

Research Results Presentations and Exchange Session

On November 22, 2019 a session was held at the DNP Ginza Building as an occasion for the Foundation's research grantees to report the results of their research, and for grant recipients and members of the grant program's screening committee to become better acquainted. A total of 44 individuals participated. Research reports were presented by five researchers who had completed their grant period, and newly selected grantees were introduced. The event offered a rare opportunity for researchers from many different fields to make the acquaintance of people outside their everyday environments.

The newly published Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.2 contains research reports by 15 recipients whose grant period had been completed by 2019. A special feature written by Fujio Maeda, Professor Emeritus at Keio University, is also included. The Bulletin has been donated to the National Diet Library, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, and university libraries and art museums all around Japan.

2019-20 Financial Support Activities

2019 – 20年度助成実績

1	対象 第31回すかがわ国際短編映画祭 主催 すかがわ国際短編映画祭実行委員会／ 須賀川市教育委員会 年月 2019/5 金額 30,000円 備考 短編映画フェスティバルおよびコンペ	Target 31st Sukagawa International Short Film Festival Organizers Sukagawa International Short Film Festival Executive Committee, Sukagawa Board of Education Date May, 2019 Amount JPY30,000 Remarks Short film festival and competition
2	対象 第31回田善顕彰版画展 主催 須賀川商工会議所青年部／ 須賀川市教育委員会後援 年月 2020/2 金額 50,000円 備考 須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善（あおう どうでんぜん）顕彰を目的とする市内小中学生対象の版 画コンクール	Target The 31st Denzen Print Award Exhibition Organizers Sukagawa Chamber of Commerce Youth Division, Sukagawa Board of Education Date February, 2020 Amount JPY50,000 Remarks Print contest for Sukagawa elementary and junior high school students aimed at spreading recognition of copper plate print artist and Sukagawa native Aodo Denzen (1748-1822).



Review of ggg 2019-20

ggg 展覧会概要

TDC 2019

会期＝2019年4月3日－27日
受賞作家＝○グランプリ＝マイケル・ケリー
○TDC賞＝ヘンリック・クベル＋マット・ウィリー、スヴェン・リンドホルスト＋エメ、アンディ・シミオナト＋カレン・アン・ドナチエ、メイ・シユジ、キム・ドヒョン、リーザ・ラマルホ＋アルトゥール・レペロ ○ブックデザイン賞＝コンスタンティン・エレメンコ ○タイプデザイン賞＝岩井悠 ○RGB賞＝伊東友子＋時里充
展示概要＝先端的なタイポグラフィ作品が一堂に会する国際コンペティション「東京TDC賞」（東京タイプディレクターズクラブ）の成果を紹介するTDC展。2018年秋の公募に寄せられた2,860点（国内1,614、海外1,246）の応募作から厳正な審査によって選ばれた「東京TDC賞2019」。この受賞10作品をはじめ、ノミネート作品、優秀作品を合わせた約150点のタイポグラフィカルな作品を展示した。毎年、先鋭的かつ実験的な見応えのある作品が選定されるが、今年も洋の東西や世代を越えた幅広いジャンルの作品が集まり、タイポグラフィシーンの最前線を感じさせるバラエティに富んだラインナップとなった。

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2019

Dates = April 3 – 27, 2019
Award Winners = Grand Prize: Michael Kelly, TDC Prize: Henrik Kubel + Matt Wiley, Sven Lindhorst-Emme, Andy Simionato + Karen ann Donnachie, Mei Shuzhi, Kim Dohyung, Liza Ramalho + Artur Rebelo (R2), Book Design Prize: Konstantin Eremenko, Type Design Prize: Hisashi Iwai, RGB Prize: Tomoko Ito + Mitsuru Tokisato.
Exhibition Overview = The 2019 Tokyo Type Directors Club Exhibition introduced the results of an international competition organized by the Tokyo Type Directors Club (TDC) that brought together an array of today's most advanced works of typography. Award winners were selected from a pool of 2,860 open entries submitted starting in autumn 2018: 1,614 from within Japan and 1,246 from overseas. In all, approximately 150 works of typography were on display: not only the 10 award-winning works, but also works that reached the nomination stage as well as other outstanding entries. Every year the selections on display include brilliantly experimental works at the vanguard of their art, and this year was no exception: a diversified assortment of works from East and West, representing all generations, vividly demonstrated the latest advances being made in typography today.



Design: Noriaki Hayashi

Beginnings 井上嗣也展

会期＝2019年5月14日－6月26日
作家略歴＝1947年生まれ。1978年ビーンズ設立。アートディレクター、グラフィックデザイナー。広告、音楽、出版、TVなどのアートディレクション。写真とタイポグラフィの斬新なデザインワークでジャンルを横断した仕事を続けている。受賞歴：東京ADCグランプリ、東京TDCグランプリ、日本宣伝賞山名賞、毎日デザイン賞他。
展示概要＝太陽、月、光、水、油、植物等の写真を駆使し、架空の宇宙を創出した「The Burning Heaven」、緊張感あふれる中にもユーモアと遊び心を忍ばせた「Happy Time」などの意欲的な新作ポスターシリーズを発表した。また併せて、数ある傑作から自選した代表的なポスター作品、ファッション界とのコラボレーションによるポスターやブックデザイン、その他レコードジャケットなどを一堂に展示。また会期中には、井上氏がCDジャケットやポスターのデザインを手がけた、オノセイゲン、パール・アレキサンダー両氏によるライブイベントも開催した。

Tsuguya Inoue: Beginnings

Dates = May 14 – June 26, 2019
Artist Profile = Tsuguya Inoue was born in 1947. He established his own company, Beans Co., Ltd., in 1978. Through the years he has forged a prominent career as a graphic designer and art director, the latter area encompassing the realms of advertising, music, publishing, and TV. Today, with innovative creations integrating photography and typography, his design work continues to span across multiple genres. Inoue's major awards received to date include the Tokyo ADC Grand Prize, Tokyo TDC Grand Prize, JAAC Yamana Prize and Mainichi Design Award.
Exhibition Overview = At this exhibition Tsuguya Inoue unveiled several new and ambitious poster series. "The Burning Heaven" series depicts imaginary universes created through use of photographs of the sun, moon, light, water, oil, plants, etc. "Happy Time" is a poster series imbued with humor and playfulness against a backdrop filled with tension. Also on display were Inoue's most prominent works self-selected from among his numerous masterpieces, posters and book designs Inoue created in collaboration with the fashion world, and a selection of his record cover designs. During the exhibition, a live event took place featuring Seigen Ono and Pearl Alexander, a team of musicians for whom Inoue designed their CD cover and publicity poster.



Design: Tsuguya Inoue

田名網敬一の観光展

会期＝2019年7月5日－8月21日
協力＝NANZUKA
作家略歴＝1936年東京都生まれ。武蔵野美術大学を卒業。1991年より京都造形芸術大学教授を務める。1960年代より、グラフィックデザイナーとして、映像作家として、そしてアーティストとして、その境界を積極的に横断して創作活動続け、現代の可変的なアーティスト像の先駆者として、世界中のアーティストたちに大きな影響を与えている。
展示概要＝昨年京都dddギャラリーで開催された「田名網敬一の現在展」がさらにパワーアップして銀座に巡回。今回の展示では22点の大型の新作プリント作品を始め、アニメーション、立体作品から、ファッションブランドとのコラボレーションアイテム、出版物、プロダクトアイテムなどを網羅。長年にわたり、あらゆる境界、領域を超えて創作活動続け、80代の現在も尚トップランナーとして、そのキャリアの頂点を極めている田名網氏の衰えることのないエネルギーに満ちた展示空間となった。

Keiichi Tanaami Great Journey

Dates = July 5 – August 21, 2019
Cooperation = NANZUKA
Artist Profile = Keiichi Tanaami was born in Tokyo in 1936. He graduated from Musashino Art University. Since 1991 he has been a professor at Kyoto University of Art & Design. As a graphic designer, video creator and artist, ever since the 1960s Tanaami has continuously crossed the lines separating these diverse fields. Today, as a pioneer in artistry of phenomenal versatility, he continues to have a strong impact on artists around the world.
Exhibition Overview = This exhibition in Ginza was even more powerful than Tanaami's "Dialogue" show held at kyoto ddd gallery the year before. "Great Journey" encompassed everything from 22 new large-scale prints, animation clips and three-dimensional works, to Tanaami's collaborations with fashion brands, publications, and products. Throughout his long career, Tanaami has undertaken creative activities spanning across boundaries and disciplines of every description, and even today, in his eighties, he remains a top contender in the design world. "Great Journey" vividly displayed his indefatigable energy as he reigns supreme at the pinnacle of his artistic career.



Design: Keiichi Tanaami

Sculptural Type コントラプункト

会期＝2019年8月30日－10月12日
後援＝デンマーク大使館
作家略歴＝北欧のリーディングデザインエージェンシー。35年の歴史の中で、政府機関、インフラ、NGO、文化団体から大企業に至るまで、多数のブランディングを手がける。世界中のデザイン賞も多数受賞。グラフィックデザインから、空間デザイン、タイポグラフィ、デジタルと多岐にわたるエリアのデザインでブランディングを一貫して手がけている。2015年には日本法人も設立。機能美がありつつ、心の琴線に触れるデザインを基本とし、国境や文化を超え、時を超えるようなデザインを得意とし、日本の企業のブランディングデザインも多数手がける。
展示概要＝数多くの企業や団体のオリジナルのタイプデザインを手がけてきたコントラプункト。今展ではアシックス、資生堂、TASAKIなどの日本企業、世界の四大ビールメーカーの一つカールスバーグ、デンマークのレストランnomaなど、10のプロジェクトを紹介した。それぞれの書体との取り組みなど内容はもちろん、映像を駆使したユニークな展示方法も注目を集めた。

Sculptural Type: Kontrapunkt

Dates = August 30 – October 12, 2019
Support = The Royal Danish Embassy in Tokyo
Artist Profile = Kontrapunkt is one of northern Europe's leading design agencies. Over the course of its 35-year history, the agency has handled a wide range of branding assignments for government agencies, infrastructure providers, NGOs, cultural organizations, and major corporations. It has won numerous design awards around the globe. Kontrapunkt offers integrated branding across diverse areas from graphic design to spatial design, typography, and digital media. The agency set up a Japanese office in 2015. Based on the principle of creating designs that tug at the heart-strings while maintaining functional beauty, Kontrapunkt Japan handles branding design for various Japanese corporations, specializing in borderless, timeless designs that span cultures.
Exhibition Overview = Kontrapunkt has created numerous original type designs for corporate clients and organizations. This exhibition focused on 10 of their projects, including Japanese corporate clients such as ASICS, Shiseido and TASAKI, as well as the Danish brewer Carlsberg and the globally acclaimed Danish restaurant noma. In addition to explanations of Kontrapunkt's approach to type creation for each project, the exhibition garnered attention for its unique use of video technology.



Design: Kontrapunkt

日本のアートディレクション展2019

会期＝2019年10月23日－11月16日
受賞作家＝○グランプリ＝井上嗣也＋稲垣純＋吉田多麻希＋オノ セイゲン ○ADC会員賞＝植原亮輔＋渡邊良重＋宮田誠＋遠藤知里
○原弘賞＝井上嗣也く以下G8にて展示>
○ADC賞＝三澤遼、永井聡＋麻生哲朗、田部井美奈、三澤遼、柴谷麻以＋嶋野裕介、戸田宏一郎＋児玉裕一＋鎌谷聡次郎＋東畑幸多＋太田恵美、野間真吾、高田唯、丸橋桂＋木村匡孝、三澤遼＋杉本謙一＋ヤン・ヒチャン
展示概要＝1952年の設立以来、展覧会や年鑑の発行などを通じ、日本に「アートディレクション」という考え方を普及させる活動を行ってきた東京アートディレクターズクラブ(ADC)。今年も2018年5月から2019年4月までの1年間に発表、使用、掲載された約8,500点の応募作の中から、ADC全会員79名による厳正な審査により2019年度のADC賞が選出された。本展では受賞作品と優秀作品を、ggg[会員部門]、G8[一般部門]の2会場で紹介。今年もグラフィック、広告の最高峰に輝く作品の数々が勢ぞろいした。

Art Direction Japan 2019 Exhibition

Dates = October 23 – November 16, 2019
Award Winners = Grand Prix: Tsuguya Inoue + Jun Inagaki + Tamaki Yoshida + Seigen Ono. ADC Members Award: Ryosuke Uehara + Yoshie Watanabe + Satoru Miyata + Chisato Endo. Hara Hiromu Award: Tsuguya Inoue. ADC Award (shown at Creation Gallery G8): Haruka Misawa; Akira Nagai + Tetsuro Aso; Mina Tabei; Haruka Misawa; Mai Shibatani + Yusuke Shimano; Koichiro Toda + Yuichi Kodama + Sojiro Kamatani + Kota Tohata + Megumi Ota; Shingo Noma; Yui Takada; Katsura Marubashi + Masataka Kimura; Haruka Misawa + Kenichi Sugimoto + Heechan Yang
Exhibition Overview = Since its founding in 1952, the Tokyo Art Directors Club (ADC) has continuously engaged in activities to make the concept of "art direction" widely acknowledged in Japan, mostly through exhibitions and publication of a dedicated yearbook. This year's competition for inclusion in the organization's annual attracted some 8,500 entries: works released, used, or published during the 12 months from May 2018 to April 2019. Among them, those judged most worthy were chosen to receive Tokyo ADC Awards after a rigorous screening by the organization's 79 members. The prizewinning works, along with other outstanding entries, were introduced at two venues: works by members at ggg and works by non-members at Creation Gallery G8.



Design: Tsuguya Inoue

カール・ゲルストナー 動きの中の思索

会期＝2019年11月28日－2020年1月18日
協力＝スイス国立図書館、ミュリエル・ゲルストナー、チューリッヒ造形美術館、ラース・ミューラー、ハッチェ・カンツ出版社
後援＝在日スイス大使館
監修・会場構成＝矢萩喜從郎
作家略歴＝カール・ゲルストナーは、スイスのタイポグラフィとグラフィックデザインに大きな影響を与えた。また、アーティストとして体系的な色彩とフォルムの言語を構築し、芸術と日常生活の関連づけと、環境の機能的かつ美的なデザインを訴え続けた。
展示概要＝本展では現在も古びることのない洗練された広告デザイン25点、傑作ポスター9点を始め、スケッチなどの貴重な資料、CI構築のプロセスや、1964年に上梓した「デザイン・プログラム」の全貌、さらにゲルストナーがデザインと並行して取り組んだアート作品も展示した。ゲルストナーとは一体何者であったのか。デザイナー、そしてアーティストとしても活躍をしたゲルストナーの思考に迫った。

What's Karl Gerstner? Thinking in Motion

Dates = November 28, 2019 – January 18, 2020
Cooperation = Swiss National Library, Muriel Gerstner, Museum für Gestaltung Zürich, Lars Müller, Hatje Cantz Publishers
Support = Embassy of Switzerland in Japan
Supervision, Exhibition Design = Kijuro Yahagi
Artist Profile = Karl Gerstner had a significant influence on Swiss typography and graphic design. As an artist, he developed a systematic language of colors and forms and advocated for a correlation between art and everyday life and for a functional as well as aesthetic approach to environmental design.
Exhibition Overview = This exhibition featured 25 of Karl Gerstner's timeless and sophisticated advertising works, 9 of his poster masterpieces, as well as sketches and other rare materials. Through an examination of his CI creative process, his Designing Programmes (1964), and the art he created alongside his design work, the exhibition sought to probe who Gerstner really was. It provided insight into the thinking of Karl Gerstner, who was active as both a designer and an artist.



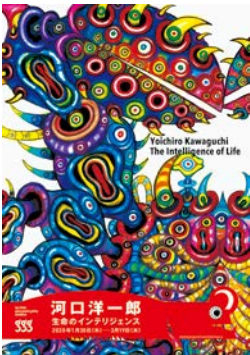
Design: Kijuro Yahagi

河口洋一郎 生命のインテリジェンス

会期＝2020年1月30日－3月19日
作家略歴＝種子島生まれ。1976年CGの黎明期よりCG(コンピュータグラフィックス)によるプログラミング造形の研究に着手。数理アルゴリズムにより導き出された技術手法による独自の作品群で世界的注目を集める。インタラクティブアート・ジェモーション(Gemotion)の研究作品は後にVR/ARへの応用やプロジェクションマッピングの世界に多数の優秀な人材を送り出した。
展示概要＝まだモノクロの画面だった1970年代の最初期の作品から、国際的にも高い評価を受けたその後の代表的な映像作品によって、河川氏の長きにわたるCGへの取り組みを振り返った。また宇宙蟹、宇宙魚、宇宙海綿など、5億年後のはるか未来を生きる芸術生命体を描いたドローイングの数々を展示。その多くが初公開だったこともあり、CGとは一味違う原画ならではの濃厚な色彩や、躍動感あふれるダイナミックな造形が注目を集めた。

Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life

Dates = January 30 – March 19, 2020
Artist Profile = Born on Tanegashima in 1952, Yoichiro Kawaguchi began research in creating designs by means of computer programming in 1976, just as the age of computer graphics was beginning. He went on to attract international attention with his unique works drawing on technological methods based on mathematical algorithms. Kawaguchi's "Gemotion," a research project exploring interactive art, equipped numerous talented people to subsequently venture into the realms of VR and AR applications and projection mapping.
Exhibition Overview = This exhibition took a retrospective look at Yoichiro Kawaguchi's long career delving in the world of computer graphics: from his early monochrome works of the 1970s up to his later representative video works that garnered outstanding acclaim internationally. Also on display were Kawaguchi's drawings of artistic life forms that will inhabit the earth five hundred million years into the distant future: his "Cracco" the space crab, "Ficco" the space fish, and "Sponcco" the space sponge among them. Many works were being shown for the very first time, and they garnered attention for their powerfully vivid colors and robustly dynamic forms enabled by their original drawing format, significantly different from works created by computer graphics.



Design: Kazumasa Nagai

ddd 展覧会概要

本の縁側 矢萩多聞と本づくり展

会期＝2019年3月30日－6月19日
協力＝株式会社竹尾
作家略歴＝画家・装丁家。Ambooks代表。1980年横浜生まれ。9歳でネパール訪問、以来毎年インド・ネパールを旅行。中学1年生で学校を辞め、ペンで細密画を描き出す。1995年から南インドと日本を半年毎に往復、銀座、横浜などで個展を開催。2002年、対談本『インド・まるごと多聞典』（春風社）刊行。装丁の仕事を開始、現在までに500冊超の本を手がける。2012年、事務所兼自宅を京都に移転。2016年、リトルプレスAmbooksを開始。
展示概要＝矢萩が手掛けた500冊超の本を時系列に手にとれる様に展示。装丁のラフ案も展示しデザインの工程を解説。インドの出版社タラブックスの仕事、「ちいさくつくり、ちいさく届ける」為、自ら立ち上げたリトルプレスAmbooks、「人間はなぜ本をつくるのか」のテーマで、小学生の子どもたちと取り組んだ本づくりワークショップ、国内外の紙づくりの現場を訪ねる旅など、彼のこれまでの大小のプロジェクトについても紹介。

Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda

Dates = March 30 – June 19, 2019
Cooperation = TAKEO Co., Ltd.
Artist Profile = Tamon Yahagi is a painter, book designer and publisher born in Yokohama in 1980. After visiting Nepal for the first time at age 9, he began traveling to India and Nepal every year. In his first year of junior high school Yahagi quit school and started drawing miniature artworks with pen. In 1995 he began spending half of every year in South India and half in Japan. In 2002 Yahagi published his first book, a collection of conversations with 10 people engaged in various professions. Around this time he started working in book design, and to date he has designed over 500 titles. In 2012 Yahagi settled in Kyoto. In 2016 he launched Ambooks, his own publishing house of zines.
Exhibition Overview = This exhibition offered visitors a chance to browse through the more than 500 titles Tamon Yahagi has designed to date. In addition to the works themselves, which were arranged in chronological order, also on display were his rough sketches and detailed explanations of his design process. Yahagi also introduced an array of projects, of various scales, he has been involved in through the years. These include: his collaborations with the Indian publisher Tara Books; his launch of Ambooks; his workshops on bookmaking offered to elementary school students; and his travels to places where paper is made.



Design: Tamon Yahagi

ヘイセイ・グラフィックス

会期＝2019年6月29日－8月17日
展示概要＝「平成」から「令和」に元号が変わったタイミングに激動の平成の30年を振り返る企画。DNP文化振興財団が所蔵するポスターの中から平成に入って制作された作品を展示。5～6年毎の5つのセクション構成としている。始めのセクションではバブルの名残が感じられるが、バブル崩壊やリーマンショック等も経て、大量生産・大量消費も影を潜め、モノからコトへと人々のニーズも変化した。携帯電話の登場、印刷のDTP化、環境問題の深刻化、ネット社会の到来といった大きなトピックスが駆け巡った時代を、グラフィックデザインがどのようにその変化に寄り添い、また視覚コミュニケーションの力がどのように時代に影響を与えたのかを検証した。平成を追体験する試みが、次の時代への道筋を照らす小さな光となることを願い開催。

Heisei Graphics

Dates = June 29 – August 17, 2019
Exhibition Overview = Coming immediately after the start of the new Reiwa era introduced on May 1, this exhibition was a retrospective review of the three decades of the just completed Heisei era, a period of dynamic transformations in Japanese society. On display were posters created during the Heisei years (1989-2019) gleaned from the archives of the DNP Foundation for Cultural Promotion. The exhibition was divided into five sections, each covering a span of five to six years. The first section evoked a lingering sense of the high-flying years of Japan's "bubble economy"; but subsequently, after the bubble burst and the nation weathered the recession of 2008, the heady days of mass production and mass consumption ended, and demand shifted from material goods to sources of personal fulfillment. Major changes occurred: the advent of the mobile phone, the development of desktop printing, increasingly serious environmental concerns, the arrival of the Internet-driven society. Against this backdrop the exhibition examined how graphic design changed during the Heisei years, and what impact visual communication had on the era. By reviewing the events of Heisei, it was hoped the exhibition would shed a ray of light on the pathway into the new Reiwa era.



Design: Ryu Mieno

ドヴァランスー システムを遊び場に

会期＝2019年8月28日－10月23日
助成＝アンスティチュ・フランセ パリ本部、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
作家略歴＝ドヴァランスはパリで2001年に創設。アレクサンドル・ディモスとジスラン・トリブレがスタジオを率い、主に現代アート、建築、演劇、芸術文化関連の出版物等の分野のグラフィックデザインを担う。アレクサンドル・ディモスは2008年に出版社B42を設立。デザイン、タイポグラフィ、建築、社会科学が専門領域。
展示概要＝現在フランスで最も精力的に活動するグラフィックデザイン・スタジオの質の高いデザイン手法は数多くの分野で高く評価。ヴェネツィア・ビエンナーレ、ポンピドゥー・センター、オーベルヴィリエ工国立演劇センター、インテルリア・デザイン国際見本市「メゾン・エ・オブジェ・パリ」、ハーバード大学、さらにはピエール・ユイグ、ラファエル・ザルカ、サーダ・アフィフといったフランスを代表する現代アーティストが顧客。日本初の個展となる本展では、ドヴァランスが現代グラフィックデザイン変革の一翼を担ってきたことを示す代表的な作品の数々を展示。

deValence – Systems as Playgrounds

Dates = August 28 – October 23, 2019
Support = Institut français (Paris Headquarters), Embassy of France in Tokyo / Institut français du Japon
Artist Profile = deValence was established in Paris in 2001. Headed by Alexandre Dimos and Ghislain Triboulet, the studio creates graphic design especially for publications in the fields of contemporary art, architecture, performing arts and culture. In 2008 Alexandre Dimos established B42, a publishing house specializing in publications relating to design, typography, architecture and social science.
Exhibition Overview = deValence is one of France's most prolific contemporary graphic design studios. The superlative quality of its design methods has garnered high acclaim in numerous fields. Its institutional clients include La Biennale di Venezia, Centre Pompidou, La Commune (Centre Dramatique National, Aubervilliers), Maison&Objet international trade fair of interior design, and Harvard University. deValence's private client list further includes some of France's leading contemporary artists, among them Pierre Huyghe, Raphaël Zarka and Saädane Afif. This first exhibition in Japan showcased many of deValence's representative works demonstrating how the studio has contributed to innovation in contemporary graphic design.



Design: deValence

Graphic West 8:
三重野龍大全 2011–2019「屁理屈」

会期＝2019年11月9日－12月21日
作家略歴＝1988年兵庫県生まれ。2011年京都精華大学グラフィックデザインコース卒業。
大学卒業後、京都にてフリーのグラフィックデザイナーとして活動開始。美術や舞台作品の広報物デザインを中心に、ロゴやグッズなど、文字を軸にしたグラフィック制作を実践。現在までなんとか生き延びている。
展示概要＝大手クライアントの仕事やデザインコンペでの受賞を通じたキャリア形成が従来の若手グラフィックデザイナーのメインストリームだったとすれば、三重野龍は、そこから距離を置き、オルタナティブな独自のスタンスで活躍。彼の特色は、京都を拠点に同世代の仲間たちとのネットワークを通して、自分のやりたい事だけをやってきた点。デザイングッズショップ兼ギャラリー「VOU/棒」の運営、パフォーマンス活動など、デザインとアートの垣根を越えたその活動は、軽やかな手作り感覚と若々しいバイタリティーで満ちている。彼のこれまでの作品をほぼ網羅し展示。

Graphic West 8:
Ryu Mieno Solo Exhibition 2011–2019 "Quibble"

Dates = November 9 – December 21, 2019
Artist Profile = Ryu Mieno was born in Hyogo Prefecture in 1988. Upon graduation from Kyoto Seika University in 2011 with a concentration in Graphic Design, he immediately began a career as a freelance graphic designer based in Kyoto. Mieno works primarily with graphics that center on writing – for example, logos and merchandise – mainly for use as publicity materials to promote art shows or stage performances. He says somehow he has managed to “squeak by,” so far.
Exhibition Overview = Young graphic designers have typically built up their careers doing work for major clients and garnering awards in design competitions. But Ryu Mieno has taken a different path, based on his unique, alternative work stance. What sets him apart is that Mieno, based in Kyoto, only does work that he wants to do, relying on a network of his contemporaries. His activities go beyond the limits of design and art and include operation of VOU, a gallery cum designer merchandise shop, and involvement in the performing arts. Everything he does is filled with a sense of raw handmade creativity and youthful vitality. This exhibition showcased almost all of Mieno’s work to date.



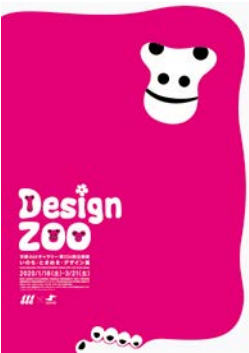
Design: Ryu Mieno

Design ZOO いのち・ときめき・デザイン展

会期＝2020年1月18日－3月21日
共催＝嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学
協力＝京都市動物園
展示概要＝動物園は「自然の窓」。自然を知り、学び、考え、国の文化を表すさまざまな教育の場としての動物園。動物園は、子どもが取りこぼしのない最高水準の教育を受けられる場であり、ボトムアップからの環境教育に貢献できる資源豊かなビジュアルフィールド。本展では、数多くの動植物園のグラフィックデザインに携わってきた嵯峨美術大学教授の池田泰子の知見を通して、現地体験とリンクする“身近で新鮮な”グラフィックへの扉を開いた。『京都市動物園』をイメージした生物多様性保全を学ぶシンボルツリー、ギャラリー内を持ち歩ける動植物由来の素材が入った万華鏡、動物の実際のサイズを体感できる飛び出すサイン、動物たちの生息域を学ぶジオラマ、生態系を感じるゲームといった作品が嵯峨美術大学のプロジェクトによって、「Design ZOO」としてdddに現出した。

Design ZOO – Life meets design

Dates = January 18 – March 21, 2020
Co-organizers = Kyoto Saga University of Arts, Kyoto Saga Art College
Cooperation = Kyoto City Zoo
Exhibition Overview = A zoo is a window on nature. A zoo is a place where we can become familiar with nature, learn about it, think about it; a place that expresses a country’s culture and teaches us many things. A zoo is where children can receive an education of impeccably high standard, a resource-rich visual field for building an environmental education from the bottom up. This exhibition opened the door to novel, approachable design linked to real-world experience through the expertise of Yasuko Ikeda, a professor at Kyoto Saga University of Arts who has been involved in the design of numerous zoos and botanical gardens. “Design ZOO” was created at kyoto ddd gallery in the image of Kyoto City Zoo, realized as a project of her university. Among its features were a symbolic tree that taught about biodiversity conservation, a kaleidoscope filled with animal-and plant-based materials that visitors could use while walking around the gallery, signs with life-sized animals that seemed to “leap out” at the visitor, miniature dioramas that showed animals’ natural habitats, and a game that explained eco-systems.



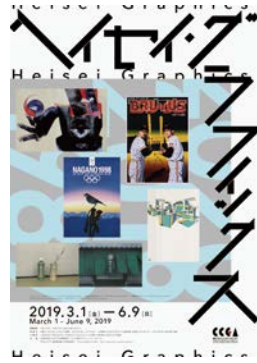
Design: Osamu Takeuchi

Review of CCGA 2019

CCGA 展覧会概要

ヘイセイ・グラフィックス Heisei Graphics

会期 = 2019年3月1日 - 6月9日
Dates = March 1 - June 9, 2019



Design: Eri Nagamine / Helvetica Design inc.

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VIII 蔵出し 仲條正義

DNP Graphic Design Archives Collection VIII
Masayoshi Nakajo Posters Freshly Picked from the Archives

会期 = 2019年6月15日 - 9月8日
Dates = June 15 - September 8, 2019



Design: Kijuro Yahagi

柔らかな版： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.32

Printing through Cloth: 32nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

会期 = 2019年9月14日 - 12月22日
Dates = September 14 - December 22, 2019



1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション
4月 2回 福田繁雄展 Illustic412
5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜
6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ
7月 5回 1986 ADC展
8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.
9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2
10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ
11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア
12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ
2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展
3月 13回 藤藤正樹展 geometric love
4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展
5月 15回 安西水丸 二色
6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの
クリエイティブワークス展
7月 17回 1987 ADC展
8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace
9月 19回 五十嵐威暢の立体数字展
10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically
11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実
12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展
リングになった箱と動詞になった箱
2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶
3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念
4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展
5月 27回 AGI 88 Tokyo展
世界のグラフィックデザイン
6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG
7月 29回 1988 ADC展
8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece
9月 31回 情報ポスター・リクルート展
10月 32回 早川良雄「女」原画展
11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH
12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン
2月 36回 矢萩喜從郎展
3月 37回 Texture 皆川魔鬼子＋田原桂一＋山岡茂
4月 38回 タナカノリユキ展 Gokan-都市の表層
5月 39回 オトル・アイヒャー展
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム
6月 40回 操上和美展 Photographis
7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection
8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱
9月 43回 永井一正展
10月 44回 Europalia '89 Japan
新作ポスター 12人展
11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会
12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱
2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」
3月 49回 原田維夫木版画展 馬
4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展
6月 52回 松井桂三3D展
7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使
8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990
9月 55回 田原桂一展 光の香り
10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字
11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ
12月 58回 蓬田やすひろ展 ビープル

1991

- 1月 59回 舟橋全二展
2月 60回 太田徹也のダイヤグラム
3月 61回 ペア・アーノルディ展
Posters, Prints and Painting
4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting × Printing]
5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く
6月 64回 Communication & Print
新作ポスター 10人展
7月 65回 オブジェ・ブック展
中垣信夫＋中垣デザイン事務所
8月 66回 アートワークス展Ⅵ
"Bacteriat" Messages from Dream Island
10-11月 67回 Trans-Art 91
12月 68回 1991 ADC展

1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN
3月 71回 第4回東京TDC展
4月 72回 ヘンリク・トマシェフスキ展
5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX
7月 75回 中村誠 個展
8月 76回 リック・バリセンティ展
9月 77回 葛西薫展 'AERO'
10月 78回 薙本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展
11月 79回 ボール・ランド展
12月 80回 フロシキ展

1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica
2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン
3月 83回 1992 ADC展
4月 84回 第5回東京TDC展
5月 85回 U.G.サトーのポスター展 "Freedom"
6月 86回 オーマージュ 向秀男展
7月 87回 文字からのイマジネーション
8月 88回 現代香港のデザイン8人展
9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に
10月 90回 1993 Illustration 4
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
11月 91回 ソール・バス展
12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

1994

- 1月 93回 栗津潔展 H²O Earthman
2月 94回 第6回東京TDC展
3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape
4月 96回 片山利弘展
5月 97回 永井一正展
6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年
7月 99回 1994 ADC展
8-9月 100回 グラフィック・グッス展
デザインからの贈りもの
10月 101回 平野甲賀展 文字の力
10月 102回 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展
12月 103回 原研哉展
12月 特別展「私の好きなもの」
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展
2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95
3月 106回 第7回東京TDC展
4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展
5月 108回 田中一光展 人間と文字
6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展
7月 110回 1995 ADC展
8月 111回 リズム&ヒューズの
コンピュータグラフィックス展
9月 112回 八木保展 自然観
9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・
ギャラリー 10周年 / ggg Books 20冊記念
10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1
11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展
12月 115回 日本のイラストレーション50年展

1996

- 1月 116回 蓬田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら
2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2
3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバロ
4月 119回 第8回東京TDC展
5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展
Departure
7月 122回 1996 ADC展
8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展
9月 124回 K2・黒田征太郎 / 長友啓典
二脚の椅子展
10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン
1920s・30s
11月 126回 Graphic Wave 1996
青木克憲 / 佐藤卓 / 山形季央
12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん
1月 特別展 CCGA特別展：
ジョセフ・アルバース展
2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち
3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展
4月 131回 仲條正義〇〇〇展
5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展
6月 133回 横尾忠則ポスター展
吉祥招福繁昌描き下ろし!!
7月 134回 1997 ADC展
8月 135回 河原敏文とボリゴン・ピクチャス展
ロッキー・ホラ商會
9月 136回 メキシコ10人展
10月 137回 Graphic Wave 1997
秋田寛 / 井上里枝 / 福島治
10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展
11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉
12月 139回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD
2月 141回 オーデルマット＋ティッシ
グラフィックデザイン展
3月 142回 スタシス・エイドリグヴィチウス展
4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展
6月 145回 山本容子展 オペラレッスン
7月 146回 1998 ADC展
8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅
9月 148回 Graphic Wave 1998
蝦名龍郎 / 平野敬子 / 三木健
10月 149回 グンター・ランボー展
11月 150回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95
3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?
3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間
4月 155回 1999 TDC展
5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展
6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい
7月 158回 1999 ADC展
7月 特別展 前田ジョン One-line.com
8月 159回 矢萩喜從郎展
9月 160回 Graphic Wave 1999
鈴木守 / 松下計 / 米村浩
10月 161回 FUSE展
11月 162回 松井桂三展
12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展
12月 特別展 アーヴィング・ベン
三宅一生の仕事への視点

2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology
1月 特別展 篠山紀信&マニエール・ルグリ展
フォトセッションinパリ・オペラ座1998-1999夏
2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人
3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の
表紙デザイン半世紀
4月 167回 2000 TDC展
5月 168回 Poster Works Nagoya 12
岡本滋夫＋11人のデザイナーたち
6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展
7月 170回 2000 ADC展
8月 171回 日宣美の時代
日本のグラフィックデザイン1951-70展
9月 172回 Graphic Wave 2000
秋山具義 / Tycoon Graphics / 中島英樹
10月 173回 D-ZONE / 戸田ツトム展
11月 174回 ビエール・ベルナール展
現実的であれ、不可能を試みろ!
12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容-アジアの時空

2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田彦展
2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
3月 178回 "Spring has come"
松永真、ディテールの競演。
4月 179回 2001 TDC展
5月 180回 コントラプункト展
デンマーク国家のデザインプログラム
6月 181回 原弘のタイポグラフィ
7月 182回 2001 ADC展
8月 183回 薙本唯人 にんげんもよう
9月 184回 Graphic Wave 2001
澁谷克彦 / 永井一史 / ひびのこづえ
10月 185回 ハングルポスター展
11月 186回 サイトウマコト展
12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から
セント・ジュースト大学院の手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004
工藤青石／GRAPHY／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー & マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D ⇄ 3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳展
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショー]細谷蔵アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー
～言い出しっぺ横尾忠則～
瀧本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上勲也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ラルフ・シュライフォーク展
- 9月290回 プッシュピン・パラダイム
シーモア・クワスト | ボール・デヴィス |
ミルトン・グレイザー | ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二千年十一年一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／
ザ・デザイナーズ・リパブリックが
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アンシエイツ
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎りこ展
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシエフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：
ひびのこづえ＋「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ボール・デヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show
スタンリー・ウォン【黄炳培】×
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
千代田区立日比谷図書文化館主催／
DNP文化振興財団共催
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ



1992-2020

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋
ggg 展覧会ポスター 1986-2016

6月353回 TDC 2016
7-9月354回 2016 ADC 展
9-10月355回 ノザイナー かたちと理由
11-12月356回 榎本了吾コーカイ記

2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
4月358回 TDC 2017
5-6月359回 ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気
7月360回 2017 ADC 展
7月 特別展 追悼!『長友啓典』特別展
8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展
9-11月362回 組版造形 白井敬尚
11-1月363回 マリメッコ・スピリッツ パーヴォ・ハロネン/
マイヤ・ロウエカリ/アイノミヤ・メッツォラ

2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展
4月365回 TDC 2018
5-6月366回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて
7-8月367回 Harumi Yamaguchi × Yoshiroten
Harumi's Summer
9-10月368回 横尾忠則 幻花幻想幻画譚 1974-1975
10-11月369回 日本のアートディレクション展 2018
12-1月370回 続々 三澤遼

2019

2-3月371回 ボーラ・シェア: Serious Play
4月372回 TDC 2019
5-6月373回 Beginnings 井上嗣也展
7-8月374回 田名網敬一の観光展
8-10月375回 Sculptural Type コントラプンクト
10-11月376回 日本のアートディレクション展 2019
11-1月377回 カール・グルストナー 動きの中の思索

2020

1-3月378回 河口洋一郎 生命のインテリジェンス

1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展
3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
4-5月 3回 第4回東京TDC展
5-6月 4回 リック・バリセンティ展
6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展
8-9月 7回 ヴァン・オリバー展
10月 8回 中村誠 個展
10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展
11-12月 10回 灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展

1993

1-2月 11回 フロシキ展
2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展
3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展
解き放たれた声
4-5月 14回 1992 ADC 展
5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展
6-7月 16回 第5回東京TDC展
7-8月 17回 文字からのイマジネーション
8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II
9-10月 19回 ビル・ソーバーン展
10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom
11-12月 21回 勝井三雄展 光の国:夜と昼の狭間に
12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

1994

1-2月 23回 ソール・パス展
2-3月 24回 グリーディング・ポップアップ13人展
3-4月 25回 リュディ・パウア/
インテグラルコンセプト展
4-5月 26回 Illustration4 安西水丸・河村要助・
矢吹申彦・湯村輝彦
5-6月 27回 ジェニファ・モラー展
6-7月 28回 永井一正展
7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展
8-9月 30回 1994 ADC 展
9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III
10-11月 32回 アメリカのAD2人展
デビッド・カーソン+ゲラリー・ケブキ
エディトリアルデザインの新潮流
12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展
2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展
3-4月 36回 グラッパ・デザイン展
4-5月 37回 第7回東京TDC展
5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美
6-7月 39回 田中一光展 人間と文字
7-8月 40回 テレノング展
8-9月 41回 1995 ADC 展
9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV
10-11月 43回 ベレ・トレント展
11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展
2-3月 46回 マーゴ・チェイス展
3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展
4-5月 48回 グンター・ランボー展
5-6月 49回 第8回東京TDC展
6-7月 50回 カリ・ビッポ展
7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
8-9月 52回 1996 ADC 展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展
10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展
11-12月 55回 ウッディ・バートル展

1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展
2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典
3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展
4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展
5-6月 60回 メキシコ10人展
7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展
8-9月 62回 1997 ADC 展
9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーグル展
10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止
11-12月 65回 GLOBAL 展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

1-2月 66回 ファイトヘルベ/デ・ヴリンゲル展
未来を振り返る
2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動
3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展
4-5月 69回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
6月 70回 1998 TDC 展
7月 71回 スタジオ・ドゥンパー展
8-9月 72回 1998 ADC 展
9-10月 73回 ザフリキ展
10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター
デビッド・タルタコーバ展
11-12月 75回 台湾四人展

1999

1-2月 76回 海外作家による Furoshiki Graphics 展
2-3月 77回 ビエール・ニューマン展
3-4月 78回 ボーラ・シェア展
5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展
オルガー・マチス+クリスティアーネ・フライリンガー
6-7月 80回 1999 TDC 展
7-8月 81回 ヤン・ライリッヒ Jr. 展 時代のミルハウス
8-9月 82回 1999 ADC 展
9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN] 展
10-11月 84回 尊厳
チャズ・マヴィヤネー・デイヴィースの世界展
11-12月 85回 マカオ2人展
ウン・ヴァイメン/ビクトル・ヒューゴ・マレイロス

2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology
2-3月 87回 松井桂三展
3-4月 88回 ポール・デイヴィスのポスター展
4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展
5-6月 90回 2000 TDC 展
6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル
7-9月 92回 ビエール・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みよう!
9-10月 93回 2000 ADC 展
10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
11-12月 95回 デザイン教育の現場から
ベルリン芸術大学
オルガー・マチス教室によるアプローチ

2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展
2-3月 97回 コントラプンクト展
デンマーク国家のデザインプログラム
3-4月 98回 ギルツブルク音楽祭ポスター展

5-6月 99回 2001 TDC展
6-7月 100回 チップ・キッド展
7-8月 101回 ハングルポスター展
8-9月 102回 2001 ADC展
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展
タイボグラフィへのわが道
10-11月 104回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
11-12月 105回 デザイン教育の現場からⅡ
セント・ジュースト大学院の新技术

2002

1-2月 106回 灘本唯人 にんげんもよう
2-3月 107回 サイトウマコト展
3-4月 108回 オットナシュタイン展
4-5月 109回 タピロ展 ヴェニス・ビエンナーレのポスター
5-6月 110回 2002 TDC展
7月 111回 ウィーンのパスター展
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002
7-9月 112回 三木健展
9-10月 113回 2002 ADC展
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

2003

1-2月 116回 SUN-AD 人
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
4-6月 119回 墨と椅子について
カン・タイキユン+フリーマン・ラウ
アート&デザイン展
6-7月 120回 2003 TDC展
7-8月 121回 ルーバル・ルコーバ展
8-9月 122回 2003 ADC展
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの
所蔵作品より
11-12月 125回 空山基展

2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展
2-3月 127回 永井一正ポスター展
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展
5-6月 130回 2004 TDC展
6-7月 131回 ビエール・メンデル展
8-9月 132回 2004 ADC展
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
10-11月 134回 チェコのポスター展
ブラハ美術工芸博物館
コレクション1960-2003
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン

2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平の雑誌デザイン半世紀展
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展
5-6月 140回 2005 TDC展
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシェ &
マドモアゼル・ローズ展
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展
パーフェクトフォルム
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展
2-3月 147回 グラフィック・ソート。ファシリティ展
GTF / 50プロジェクト
3-4月 148回 野田弘展
Hanpanda コンテンポラリーアート
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展
5-6月 150回 2006 TDC展
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展
8月 152回 2006 ADC展

2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006
7-8月 154回 2007 TDC展
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アティテュード
10-11月 156回 2007 ADC展
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オーサカ
4-6月 160回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
6-7月 161回 2008 TDC展
8月 162回 Now Updating... THA /
中村勇吾のインタラクティブデザイン
9-10月 163回 2008 ADC展
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー
11-12月 165回 Graphic West 真 and / or 善
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors
6-7月 169回 2009 TDC展
8-10月 170回 2009 ADC展
10-12月 171回 矢萩喜徳展
[Magnetic Vision / 新作100点]

2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証
3-5月 173回 北川一成
5-7月 174回 TDC展 2010
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
9-10月 176回 2010 ADC展
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979

2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph
一音・文字・グラフィック
3-5月 179回 秀英体100
5-7月 180回 TDC展 2011
7-9月 181回 服部一成二千年一夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展
3-5月 185回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
5-7月 186回 TDC展 2012
7-9月 187回 立花文穂展
9-10月 188回 2012 ADC展
11-12月 189回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

2013

1-3月 190回 Graphic West 5
type trip to Osaka typographics ti: 270
3-4月 191回 [デー デー デー] グルーヴィジョンズ展
5-6月 192回 TDC展 2013
7-8月 193回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
9-10月 194回 2013 ADC展
11-12月 195回 大宮エリー展

2014

1-3月 196回 Graphic West 6
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
熱情と冷靜のアヴァンギャルド
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也
5-6月 198回 TDC展 2014
6-7月 199回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
10-12月 200回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
THE NIPPON POSTERS

2015

1-3月 201回 永井裕明展
Graphic Jam Zukō in Kyoto
4-5月 202回 ラース・ミュラー 本 アナログリアディエー
6-7月 203回 TDC展 2015
8-10月 204回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品Ⅶ
20世紀琳派 田中一光
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムートシュミット

2016

1-3月 206回 浅葉克己個展 「アサバの血肉化」
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
TDC 2016
7-8月 209回 物質性→非物質性 デザイン&イノベーション
9-10月 210回 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学
11-12月 特別展 アートマネージャー養成講座連携企画展
なにで行く どこへ行く 旅っていいね
京都造形芸術大学プロジェクトセンター×
12月 特別展 京都dddギャラリー連携企画展
experimental studies | post past

2017

1-3月 211回 グラフィックとミュージック
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは歌&嘔吐
7-8月 213回 TDC 2017
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展
.communication
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

2018

4-6月 216回 Graphic West 7: YELLOW PAGES
7-8月 217回 TDC 2018
8-10月 218回 田名網敬一の現在展
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

2019

1-3月 219回 組版造形 白井敬尚
3-6月 220回 本の縁側 矢萩多聞と本づくり展
6-8月 221回 ヘイセイ・グラフィックス
8-10月 222回 ドヴァランスーシステムを遊び場に
11-12月 223回 Graphic West 8:
三重野龍大全2011-2019「屁理屈」

2020

1-3月 224回 Design ZOO いのち・ときめき・デザイン展

1995
4-7月 1回 グラフィック・ビジョン：
ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
8-10月 2回 ロイ・リキテンスタイン：
エンタブラチュア→ヌード
11-1月 3回 一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

1996
3-4月 4回 アメリカ版画の現在地点：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.1
4-7月 5回 デイヴィッド・ホックニー展
7-10月 6回 自律する色彩：ジョセフ・アルバース展
10-1月 7回 スタイルを越えて：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.2

1997
3-6月 8回 ジェームズ・ローゼンクvist展
6-9月 9回 版画における抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.3
10-11月 10回 大竹伸朗：Printing / Painting展
12-1月 11回 線／色彩／イメージ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.4

1998
3-5月 12回 フランク・ステラ／ケネス・タイラー：
構築する版画
アーティストとプリンター、30年の軌跡
5-9月 13回 主張する黒：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.5
9-12月 14回 形象としての紙：アラン・シールズ展

1999
3-5月 15回 福田美蘭展 New Works: Prints
6-9月 16回 かたる かたち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.6
9-12月 17回 版画の話展

2000
3-6月 18回 New Works 1998-1999：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.7
6-9月 19回 太田三郎：存在と日常
9-12月 20回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ設立展：
ポスターグラフィックス 1950-2000

2001
3-5月 21回 版画集への招待：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.8
5-7月 22回 折元立身：1972-2000
8-10月 23回 藤本由紀夫：四次元の読書
10-12月 24回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2：
グラフィックデザインの時代

2002
3-6月 25回 空間に躍りでた版画たち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.9
6-9月 26回 矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差しの記憶
9-12月 27回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3：
個性の時代

2003
3-4月 28回 絵画―永遠の現在を求めて：
リチャード・ゴーマン展
4-6月 29回 色彩としての紙：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.10
6-9月 30回 ヘレン・フランケンサラー木版画展
9-12月 31回 タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション 新収蔵作品展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.11

2004
3-6月 32回 イラストレーションの黄金時代
6-9月 33回 パスワード：日本とデンマークの
アーティストによる対話
9-12月 34回 版で発信する作家たち2004福島

2005
3-6月 35回 アメリカ現代木版画の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.12
6-9月 36回 Breathing Light：吉田重信
10-12月 37回 decade ― CCGAと6人の作家たち

2006
3-6月 38回 版に描く：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.13
6-9月 39回 藤幡正樹：不完全さの克服
イメージとメディアによって創り出される、
新たな現実感。
9-12月 40回 野田哲也：日記

2007
3-6月 41回 凹版表現の魅力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.14
6-9月 42回 再生する版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.15
9-12月 43回 ユニーク・インプレッション：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.16

2008
3-6月 44回 厚い色：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.17
6-9月 45回 大きな版画、小さな版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.18
9-11月 46回 黒のモノローグ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.19

2009
2-6月 47回 作品と題名：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.20
6-9月 48回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
9-12月 49回 赤のちから：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.21

2010
3-6月 50回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979
6-9月 51回 ロイ・リキテンスタイン展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.22
9-12月 52回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

2011
3月 53回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23
(東日本大震災のため中断)
6-9月 54回 秀英体 100
9-12月 55回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23

2012
3-6月 56回 日本ポルトガル交流
版で発信する作家たち：after 3.11
6-9月 57回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
9-12月 58回 銅版の表現力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.24

2013
2月 特別展 第24回田善顕彰版画展
3-6月 59回 THE POSTERS 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレヤマ受賞作品展
6-9月 60回 現代版画とリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.25
9-12月 61回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展

2014
2月 特別展 第25回田善顕彰版画展
3-6月 62回 プリント・イン・ブルー：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.26
7-9月 63回 20世紀モダンデザインの誕生―
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
9-12月 64回 レリーフ・プリントの世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.27

2015
2月 特別展 第26回田善顕彰版画展
3-6月 65回 開館20周年記念
21世紀のグラフィック・ビジョン
6-9月 66回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
浅葉克己ポスターアーカイブ展
9-12月 67回 ロバート・マザウェルのリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.28

2016
2月 特別展 第27回田善顕彰版画展
3-6月 68回 グラフィックとミュージック
6-9月 69回 中林忠良展：未知なる航海―腐食の海へ
9-12月 70回 フランク・ステラ<イマジナリー・プレイシズ>：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.29

2017
2月 特別展 第28回田善顕彰版画展
3-6月 71回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
松永真ポスター展
6-9月 72回 加納光於―揺らめく色の穂先に
9-12月 73回 ジョセフ&アニ・アルパース、二つの抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.30

2018
2月 特別展 第29回田善顕彰版画展
3-6月 74回 少数精鋭の色たち―DNP グラフィック
デザイン・アーカイブより
6-9月 75回 北川健次：黒の装置―記憶のディスタンス
9-12月 76回 ヘレン・フランケンサラー
[エクスペリメンタル・インプレッション]：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.31

2019
3-6月 77回 ヘイセイ・グラフィックス
6-9月 78回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅷ
蔵出し 仲條正義
9-12月 79回 柔らかな版：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.32

1986

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

1987

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:
The Mainichi Design Prize
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfsman and
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjurer of Image

1988

- Jan. 23 Katsu Kimura:
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of
Stasys Eidrigevicius

1989

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Ott Aicher: W.Von Ockham,
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichiro Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

1990

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

1991

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

1992

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX-XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

1993

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

1994

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H²O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamijyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition
Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,
Meg Hosoki: Favorites

1995

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

1996

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsukawa's Typographic Art:
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

1997

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man
Collection of CCGA:
The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by
33 Designers from around the World

1998

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: Bro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissot Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumber Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

1999

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
The Works of Seichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition
Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards
the Works of Issey Miyake

2000

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology
Kishin Shinoyama & Manuel Legris:
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal
STETHOSCOPE – A Half Century of
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition

Aug. 171 The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC]
 Sep. 172 Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima
 Oct. 173 Tztom Toda: D-ZONE
 Nov. 174 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
 Dec. 175 The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space

2001

Jan. 176 2001 Yasuhiko Kida
 Feb. 177 Italo Lupi: Not Just Graphics
 Mar. 178 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
 Apr. 179 Tokyo TDC 2001 Exhibition
 May 180 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
 Jun. 181 Typography of Hiromu Hara
 Jul. 182 2001 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 183 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
 Sep. 184 Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino
 Oct. 185 Hangul Poster Exhibition
 Nov. 186 Makoto Saito Exhibition
 Dec. 187 Chip Kidd Exhibition

2002

Jan. 188 Uwe Loesch Exhibition
 Feb. 189 Akira Uno Exhibition
 Mar. 190 Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education
 Apr. 191 Tokyo TDC 2002 Exhibition
 May 192 Draft Exhibition
 Jun. 193 Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony
 Jun. Yasuji Hanamori and "Kurashi no Techo"
 Jul. 194 2002 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 195 Noriyuki Tanaka: Out of Design
 Sep. 196 Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura
 Oct. 197 Sun-ad: The People
 Nov. 198 Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design
 Dec. 199 Herb Lubalin Exhibition

2003

Jan. 200 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
 Feb. 201 Sadik Karamustafa Graphic Design: Journeys and Rituals, Words and Images
 Mar. 202 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition
 Apr. 203 Tokyo TDC 2003 Exhibition
 May 204 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
 Jun. 205 Hajime Sorayama The Exhibition
 Jul. 206 2003 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 207 Minoru Niijima: Interaction of Colors and Fonts
 Sep. 208 Graphic Wave 2003: Kenjiro Sano / Nagi Noda / Kazunari Hattori
 Oct. 209 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
 Nov. 210 Stefan Sagmeister Exhibition
 Dec. 211 Takashi Kono: Modernist of the Showa Era 1906-99

2004

Jan. 212 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Feb. 213 Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition
 Mar. 214 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
 Apr. 215 Tokyo TDC 2004 Exhibition
 May 216 Taku Satoh: Plasticity
 Jun. 217 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
 Jul. 218 2004 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 219 The Work of Bambrook Design: Friendly Fire
 Sep. 220 Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki
 Oct. 221 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
 Nov. 222 Kashiwa Sato: Beyond
 Dec. 223 Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s

2005

Jan. 224 The Seven Faces of Asaba
 Feb. 225 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design
 Mar. 226 Katsunori Aoki XX
 Apr. 227 Tokyo TDC 2005 Exhibition
 May 228 The Graphic Design of Makoto Wada
 Jun. 229 Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades
 Jul. 230 2005 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 231 Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions
 Sep. 232 Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto
 Oct. 233 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
 Nov. 234 Shin Sobue + cozfish Exhibition
 Dec. 235 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation

2006

Jan. 236 Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design
 Feb. 237 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
 Mar. 238 Cyan Exhibition
 Apr. 239 Tokyo TDC 2006 Exhibition
 May 240 Kazufumi Nagai: Hakuodo Design "Brands and Designs"
 Jun. 241 Keiichi Tanaami-ism
 Jul. 242 2006 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 243 Alexander Gelman: New York Connection
 Sep. 244 Graphic Wave 2006 School of Design: Masayoshi Kodaira / Naomi Hirabayashi / Manabu Mizuno / Eiji Yamada
 Sep. AGI Congress 2006 in Japan: Kakejiku Exhibition
 Oct. 245 Radical Advertisement [Norio Nakamura + Masahiko Sato] Activities No.6
 Nov. 246 Hideki Nakajima: Clear in the Fog
 Dec. 247 Yoshio Hayakawa: Witness to the Dawn of Japanese Design

2007

Jan. 248 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part I]

Feb. Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
 Mar. 249 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten
 Apr. 250 Tokyo TDC 2007 Exhibition
 May 251 helmut schmid: design is attitude
 Jun. 252 Masaaki Hiromura: 2D ↔ 3D
 Jul. 253 2007 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 254 The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale
 Sep. 255 Ginza Salone: Kenjiro Sano
 Oct. 256 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
 Nov. 257 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
 Dec. 258 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show

2008

Jan. 259 Toda Today: Poster Art by Seiju Toda
 Feb. 260 Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi
 Mar. 261 Textasy: Brody Neuenschwander
 Apr. 262 Tokyo TDC 2008 Exhibition
 May 263 Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design
 Jun. 264 Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World
 Jul. 265 2008 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 266 Now Updating-- Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
 Sep. 267 The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin
 Oct. 268 White: Kenya Hara Exhibition
 Nov. 269 M/M (Paris) The Theatre Posters
 Dec. 270 OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion

2009

Jan. 271 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
 Feb. 272 Helvetica forever: Story of a Typeface
 Mar. 273 Draft: Branding and Art Directors
 Apr. 274 Tokyo TDC 2009 Exhibition
 May 275 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works
 Jun. 276 Max Huber – a Graphic Designer
 Jul. 277 2009 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 278 Hosoya Gan Last Show: Exhibition of an Art Director & Graphic Designer
 Sep. 279 Tadahito Nadamoto, Akira Uno, Makoto Wada and Tadanori Yokoo Show
 Oct. 280 Toshio Yamagata Exhibition
 Nov. 281 Issay Kitagawa
 Dec. 282 Kokoku Hihyo: End of One Era, Start of Another

2010

Jan.-Feb. 283 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979
 Mar. 284 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
 Apr. 285 Tokyo TDC 2010 Exhibition
 May 286 Talking the Dragon: Tsuguya Inoue

Jun. 287 NB@ggg: Neville Brody 2010
 Jul. 288 2010 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 289 Ralph Schraivogel Exhibition
 Sep. 290 The Push Pin Paradigm: Seymour Chwast | Paul Davis | Milton Glaser | James McMullan
 Oct. 291 Seas and Mountains and Norito Shinmura
 Nov. 292 Kazunari Hattori: November 2010
 Dec. 293 Euphrates: From Research to Expression

2011

Jan. 294 Shueitai 100
 Feb. 295 Ian Anderson / The Designers Republic C(H-)òme (+81/3)
 Mar. 296 Design Fumio Tachibana
 Apr. 297 Tokyo TDC 2011 Exhibition
 May 298 Sato Koichi Poster Exhibition
 Jun. 299 Raymond Savignac: at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait]
 Jul. 300 2011 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 301 [gggg] Groovisions Exhibition
 Sep. 302 Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo
 Oct. 303 100 ggg Books 100 Graphic Designers
 Nov. 304 SVA MFA Design Ideopolis-Tokyo
 Dec. 305 Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura

2012

Jan.-Feb. 306 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
 Mar. 307 Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde –
 Apr. 308 Tokyo TDC 2012 Exhibition
 May 309 KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe
 Jun. 310 Jianping He Flashback
 Jul. 311 2012 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 312 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –
 Sep. 313 Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project
 Oct. 314 AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition
 Nov. 315 Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition
 Dec. 316 Theseus Chan: WERK No. 20: Ginza The Extremities of the Printed Matter

2013

Jan. 317 Shin Matsunaga Poster 100
 Feb. 318 Kari Piippo Posters & Drawings – Simple, Strong and Sharp –
 Mar. 319 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Apr. 320 Tokyo TDC 2013 Exhibition
 May 321 KM Karel Martens
 Jun. 322 Why Not Associates – We Never Had a Plan So Nothing Could Go Wrong
 Jul. 323 2013 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 324 Ellie Omiya Exhibition
 Sep. 325 PARTY Not There.



1992-2020

Oct.	326	Rikako Nagashima: "Between Human and Nature"	Sep.-Nov.	362	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	1992	Jan.-Feb.	1	Trans-Art '91	Jul.-Aug.	51	Contemporary Graphics in Hungary: DOPP at DDD
Nov.	327	Jan Tschichold Exhibition	Nov.-Jan.	363	Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola	Mar.	2	Ivan Chermayeff: Collages	Aug.-Sep.	52	1996 Tokyo ADC Exhibition	
Dec.	328	Tomaszewski, The Poetic Spirit				Apr.-May	3	The 4th Tokyo TDC Exhibition	Sep.-Oct.	53	John Maeda Paper and Computers	
						May-Jun.	4	Rick Valicenti Exhibition	Oct.-Nov.	54	Alain Le Querrec Exhibition	
2014			2018			Jun.-Jul.	5	Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture	Nov.-Dec.	55	Woody Pirtle: Maximum Message Minimum Means	
Jan.	329	Mitsuo Katsui: Design of Symptom	Jan.-Mar.	364	Kouga Hirano and Shobunsha	Jul.-Aug.	6	Design, Print, Paper Exhibition				
Feb.	330	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito	Apr.	365	Tokyo TDC 2018 Exhibition	Aug.-Sep.	7	Vaughan Oliver Exhibition	1997			
Mar.	331	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster	May-Jun.	366	wim crouwel fascinated by the grid	Oct.	8	Makoto Nakamura Solo Exhibition	Jan.-Feb.	56	João Machado Exhibition	
Apr.	332	Tokyo TDC 2014 Exhibition	Jul.-Aug.	367	Harumi Yamaguchi × Yoshiroten Harumi's Summer	Oct.-Nov.	9	Michael Mabry Exhibition	Feb.-Mar.	57	K2 Osaka Exhibition: Seitaro Kuroda / Keisuke Nagatomo	
May	333	phono / graph – sound, letters, graphics	Sep.-Oct.	368	Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for "Genka" by Jakuchō Setouchi 1974-1975	Nov.-Dec.	10	Tadahito Nadamoto / Akira Uno / Makoto Wada / Harumi Yamaguchi Exhibition	Mar.-Apr.	58	Graphic Design in China	
Jun.	334	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō	Dec.	369	Art Direction Japan 2018 Exhibition				Apr.-May	59	The 10th Anniversary of Tokyo TDC	
Jul.	335	2014 Tokyo ADC Exhibition	Dec.-Jan.	370	Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind	1993			May-Jun.	60	10 Mexican Graphic Designers	
Aug.	336	Binokodu Cells: "Kodue Hibino + Nihongo de Asobo"	2019			Jan.-Feb.	11	Furoshiki by 18 Artists	Jul.	61	Cato Design Inc. : Design by Thinking	
Sep.	337	So French: Michel Bouvet Posters	Feb.-Mar.	371	Paula Scher: Serious Play	Feb.-Mar.	12	Why Not Associates Exhibition	Aug.-Sep.	62	1997 Tokyo ADC Exhibition	
Oct.	338	Semitransparent Design: Boring / Bored	Apr.	372	Tokyo TDC 2019 Exhibition	Mar.-Apr.	13	Allen Hori + Robert Nakata: Displaced Voices	Sep.-Oct.	63	Ralph Schraivogel: Shifted Structures	
Nov.	339	Persona 1965: Exhibition of Graphic Design in Tokyo	May-Jun.	373	Tsuguya Inoue: Beginnings	Apr.-May	14	1992 Tokyo ADC Exhibition	Oct.-Nov.	64	James Victore: Post No Bills	
Dec.	340	Inside the Mind of Ryoji Arai	Jul.-Aug.	374	Keiichi Tanaami Great Journey	May-Jun.	15	Russell Warren-Fisher Exhibition	Nov.-Dec.	65	Global Exhibition: Duo Posters by 33 Designers from around the World	
			Aug.-Oct.	375	Sculptural Type: Kontrapunkt	Jun.-Jul.	16	The 5th Tokyo TDC Exhibition				
2015			Oct.-Nov.	376	Art Direction Japan 2019 Exhibition	Jul.-Aug.	17	Imagination of Letters	1998			
Jan.	341	Katsumi Asaba: Asaba's Typography.	Nov.-Jan.	377	What's Karl Gerstner? Thinking in Motion	Aug.-Sep.	18	Design, Print, Paper Exhibition Part II	Jan.-Feb.	66	Faydherbe / De Vringer: Looking Back into the Future	
Feb.	342	Line in the sand: Paul Davis	2020			Sep.-Oct.	19	Bill Thorburn Exhibition	Feb.-Mar.	67	Jean-Benoît Lévy: Visual Activity	
Mar.	343	APPLE+ Learning to Design, Designing to Learn Ken Miki	Jan.-Mar.	378	Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life	Oct.-Nov.	20	U.G. Sato's Poster Exhibition: Freedom	Mar.-Apr.	68	"Troika" 3 Dimensions of Russian Graphic Design	
Apr.	344	Tokyo TDC 2015 Exhibition				Nov.-Dec.	21	Mitsuo Katsui: The Blessing of Light	Apr.-May	69	Philippe Apeloig: Posters in the Context of French Culture	
May	345	2 Men Show: Stanley Wong × Anothermountainman				Dec.-Jan.	22	8 Designers in Today's Hong Kong	Jun.	70	Tokyo TDC 1998 Exhibition	
Jun.	346	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design				Jan.-Feb.	23	Saul Bass Exhibition	Jul.	71	Studio Dumber Exhibition	
Jul.	347	2015 Tokyo ADC Exhibition				Feb.-Mar.	24	13 Pop-up Greeting	Aug.-Sep.	72	1998 Tokyo ADC Exhibition	
Aug.	348	Lars Müller BOOKS Analogue Reality				Mar.-Apr.	25	Ruedi Baur / Integral Concept Exhibition	Sep.-Oct.	73	Zafryki: Piotr Młodożeniec / Marek Sobczyk	
Sep.	349	Yoshiaki Irobe: Wall				Apr.-May	26	1993 Illustration 4: Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura / Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura	Oct.-Nov.	74	David Tartakover: Posters No Commercial Value	
Oct.	350	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers				May-Jun.	27	Jennifer Morla Exhibition	Nov.-Dec.	75	Taiwan 4: Yeh Kuo-Sung / Yu Ming-Lung / Shih Ling-Hung / Leslie Chan	
Nov.	351	d3i d3i d3i Dainippon Type Organization				Jun.-Jul.	28	Kazumasa Nagai Exhibition				
Dec.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) DNP Graphic Design Archives Collection THE NIPPON POSTERS				Jul.-Aug.	29	Uwe Loesch Exhibition	1999			
						Aug.-Sep.	30	1994 Tokyo ADC Exhibition	Jan.-Feb.	76	Furoshiki Graphics by 18 Designers from around the World	
						Sep.-Oct.	31	Design, Print, Paper Exhibition Part III	Feb.-Mar.	77	Pierre Neumann: Swiss Landscape	
						Oct.-Nov.	32	David Carson + Gary Koepke Free-Form Typography: The New U.S. Editorial Design	Mar.-Apr.	78	The Graphic Design of Paula Scher: Type is Image	
						Dec.	33	Yusaku Kamekura New Posters	May-Jun.	79	Graphic Design from Hamburg: Holger Matthies + Christiane Freilinger	
2016									Jun.-Jul.	80	Tokyo TDC 1999 Exhibition	
Jan.-Mar.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) Organized by Chiyoda City's Hibiya Library and Museum / Co-organized by DNP Foundation for Cultural Promotion Shin Sobue + cozzfish BOOK DESIG				Jan.-Feb.	34	German Montalvo Exhibition: From Sunrise to Sunset	Jul.-Aug.	81	Jan Rajlich Jr.: Millhouse of the Times	
Apr.-May	352	ginza graphic gallery 30th Anniversary Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016				Mar.-Apr.	35	Bruno Munari Exhibition	Aug.-Sep.	82	1999 Tokyo ADC Exhibition	
Jun.	353	Tokyo TDC 2016 Exhibition				Apr.-May	36	Grappa Design: from east to far east	Sep.-Oct.	83	Scott Makela: Wide Open	
Jul.-Sep.	354	2016 Tokyo ADC Exhibition				May-Jun.	37	The 7th Tokyo TDC Exhibition	Oct.-Nov.	84	The World of Chaz Maviyane-Davies	
Sep.-Oct.	355	Nosigner: Reason Behind Forms				Jun.-Jul.	38	Michel Bouvet: L'affiche, un art de la lue	Nov.-Dec.	85	2 Men from Macau: Ung Vai Meng / Victor Hugo Marreiros	
Nov.-Dec.	356	Enomoto Ryoichi Kokaiki				Jul.-Aug.	39	Ikko Tanaka: Man and Writing				
						Aug.-Sep.	40	Terrelonge Exhibition	2000			
2017						Sep.-Oct.	41	1995 Tokyo ADC Exhibition	Jan.-Feb.	86	Graphic Message for Ecology	
Jan.-Mar.	357	Masayoshi Nakajo IN & OUT				Oct.-Nov.	42	Design, Print, Paper Exhibition Part IV	Feb.-Mar.	87	Keizo Matsui Exhibition	
Apr.	358	Tokyo TDC 2017 Exhibition				Nov.-Dec.	43	Peret Torrent Exhibition	Mar.-Apr.	88	Paul Davis Posters	
May-Jun.	359	Roman Cieślewicz Melting Mirage					44	6 Designers in Asia Exhibition	Apr.-May	89	Osaka Pop Exhibition: "kotekote" Graphics	
Jul.	360	2017 Tokyo ADC Exhibition				1996			May-Jun.	90	Tokyo TDC 2000 Exhibition	
Jul.		Special Exhibition: Farewell! Keisuke Nagatomo				Jan.-Feb.	45	50 Years in Japanese Illustrations	Jun.-Jul.	91	Anthony Beeke Posters: Body and Soul	
Aug.-Sep.	361	Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition				Mar.-Apr.	46	Margo Chase: Digital + Organic	Jul.-Sep.	92	Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!	
						Apr.-May	47	Werner Jeker: Graphic Design	Sep.-Oct.	93	2000 Tokyo ADC Exhibition	
						May-Jun.	48	Posters fro m Gunter Rambow: Comments on society	Oct.-Nov.	94	Italo Lupi: Not Just Graphics	
						Jun.-Jul.	49	The 8th Tokyo TDC Exhibition				
						Jul.-Aug.	50	Kari Piippo: Simple, Strong, and Sharp				

Nov.-Dec. 95 Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts

2001

Jan.-Feb. 96 2001 Yasuhiko Kida
Feb.-Mar. 97 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
Mar.-Apr. 98 Poster of Salzburg Festival
May-Jun. 99 Tokyo TDC 2001 Exhibition
Jun.-Jul. 100 Chip Kidd Exhibition
Jul.-Aug. 101 Hangul Poster Exhibition
Aug.-Sep. 102 2001 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 103 Wolfgang Weingart: My Way to Typography
Oct.-Nov. 104 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
Nov.-Dec. 105 Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education

2002

Jan.-Feb. 106 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
Feb.-Mar. 107 Makoto Saito Exhibition
Mar.-Apr. 108 Ott + Stein: Posters from Berlin
Apr.-May 109 Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale
May-Jun. 110 Tokyo TDC 2002 Exhibition
Jul. 111 Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002
Jul.-Sep. 112 Ken Miki Exhibition
Sep.-Oct. 113 2002 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 114 Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals
Nov.-Dec. 115 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition

2003

Jan.-Feb. 116 San-ad :The People
Feb.-Mar. 117 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
Mar.-Apr. 118 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
Apr.-Jun. 119 Kan Tai-Keung and Freeman Lau: The Art and Design of Ink and Chairs
Jun.-Jul. 120 Tokyo TDC 2003 Exhibition
Jul.-Aug. 121 Luba Lukova: From the Heart
Aug.-Sep. 122 2003 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 123 Stefan Sagmeister Exhibition
Oct.-Nov. 124 Cultural Posters from the Collection of Die Neue Sammlung München
Nov.-Dec. 125 Hajime Sorayama The Exhibition

2004

Jan.-Feb. 126 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
Feb.-Mar. 127 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Mar.-Apr. 128 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
Apr.-May 129 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
May-Jun. 130 Tokyo TDC 2004 Exhibition
Jun.-Jul. 131 Pierre Mendell Exhibition
Aug.-Sep. 132 2004 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 133 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire

Oct.-Nov. 134 Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague
Nov.-Dec. 135 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design

2005

Jan.-Feb. 136 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
Feb.-Mar. 137 Cyan: 13 Years in Berlin
Mar.-Apr. 138 Kashiwa Sato: Beyond
Apr.-May 139 Mevis & Van Deursen Exhibition
May-Jun. 140 Tokyo TDC 2005 Exhibition
Jul. 141 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
Aug.-Sep. 142 2005 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 143 Katsunori Aoki XX
Oct.-Nov. 144 German AGI Graphic Design: Perfect Form
Nov.-Dec. 145 The Graphic Design of Makoto Wada

2006

Jan.-Feb. 146 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation
Feb.-Mar. 147 Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects
Mar.-Apr. 148 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
Apr.-May 149 Bruno Oldani Exhibition
May-Jun. 150 Tokyo TDC 2006 Exhibition
Jun.-Jul. 151 Black and White Posters Exhibition
Aug. 152 2006 Tokyo ADC Exhibition

2007

May-Jun. 153 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006
Jul.-Aug. 154 Tokyo TDC 2007 Exhibition
Aug.-Sep. 155 helmut schmid: design is attitude
Oct.-Nov. 156 2007 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 157 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten

2008

Jan.-Feb. 158 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
Feb.-Apr. 159 Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano
Apr.-Jun. 160 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
Jun.-Jul. 161 Tokyo TDC 2008 Exhibition
Aug. 162 Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
Sep.-Oct. 163 2008 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 164 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show
Nov.-Dec. 165 Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi

2009

Jan.-Feb. 166 Helvetica forever: Story of a Typeface
Mar.-Apr. 167 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
Apr.-Jun. 168 Draft: Branding and Art Directors
Jun.-Jul. 169 Tokyo TDC 2009 Exhibition
Aug.-Oct. 170 2009 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Dec. 171 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works

2010

Jan.-Mar. 172 Graphic West 2: Sensory Boxes
Mar.-May 173 Issay Kitagawa
May-Jul. 174 Tokyo TDC 2010 Exhibition
Jul.-Sep. 175 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
Sep.-Oct. 176 2010 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 177 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979

2011

Jan.-Mar. 178 Graphic West 3: phono / graph – Sound · Letters · Graphics –
Mar.-May 179 Shueitai 100
May-Jul. 180 Tokyo TDC 2011 Exhibition
Jul.-Sep. 181 Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka
Sep.-Oct. 182 2011 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 183 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

Jan.-Mar. 184 Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition
Mar.-May 185 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
May-Jul. 186 Tokyo TDC 2012 Exhibition
Jul.-Sep. 187 Fumio Tachibana Exhibition
Sep.-Oct. 188 2012 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 189 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –

2013

Jan.-Mar. 190 Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270
Mar.-Apr. 191 [dddg] Groovisions Exhibition
May-Jun. 192 Tokyo TDC 2013 Exhibition
Jul.-Aug. 193 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Sep.-Oct. 194 2013 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 195 Ellie Omiya Exhibition

2014

Jan.-Mar. 196 Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics
Mar.-Apr. 197 "Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito
May-Jun. 198 Tokyo TDC 2014 Exhibition
Jun.-Jul. 199 Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster
Oct.-Dec. 200 DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS 2015

2015

Jan.-Mar. 201 Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto
Apr.-May 202 Lars Müller BOOKS Analogue Reality
Jun.-Jul. 203 Tokyo TDC 2015 Exhibition
Aug.-Oct. 204 DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka
Nov.-Dec. 205 nippon no Nippon: helmut schmid

2016

Jan.-Mar. 206 Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition

Apr.-May 207 21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers
May-Jul. 208 Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design
Jul.-Aug. 209 Tokyo TDC 2016 Exhibition
Sep.-Oct. 210 Materiality-Immateriality Design & Innovation
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"
Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"

2017

Jan.-Mar. 211 Graphics and Music
May-Jul. 212 Masayoshi Nakajo IN & OUT
Jul.-Aug. 213 Tokyo TDC 2017 Exhibition
Sep.-Oct. 214 Kouga Hirano and Shobunsha
Nov. University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"
Dec.-Mar. 215 wim crouwel fascinated by the grid

2018

Apr.-Jun. 216 Graphic West 7: YELLOW PAGES
Jul.-Aug. 217 Tokyo TDC Exhibition
Aug.-Oct. 218 Keiichi Tanaami Dialogue
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution"

2019

Jan.-Mar. 219 Typographic Composition, Yoshihisa Shirai
Mar.-Jun. 220 Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda
Jun.-Aug. 221 Heisei Graphics
Aug.-Oct. 222 deValence – Systems as Playgrounds
Nov.-Dec. 223 Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019 "Quibble"

2020

Jan.-Mar. 224 Design ZOO – Life meets design

1995-2019

1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler
Retrospective Exhibition: Thirty Years
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:
1st Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:
2nd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:
3rd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:
4th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:
5th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:
6th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:
7th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design
Inaugural Exhibition:
Poster Graphics 1950-2000

2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:
8th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design:
The Era of Graphic Design

2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:
9th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design: The Age of Individuality

2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:
10th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American
Woodcuts:
12th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:
13th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:
The Conquest of Imperfection –
New Realities Created with
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:
14th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:
15th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:
16th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:
17th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:
18th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:
19th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:
20th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:
Works by Outstanding Designers in
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:
21st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:
22nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
(Suspended because of The Great
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of
Copperplate Prints:
24th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012
The Prize – Winning Works from
The International Poster Triennial
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:
25th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V
LIFE – Kazumasa Nagai
Poster Exhibition

2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:
26th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:
27th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:
28th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:
29th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano Mitsuo:
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of
Josef and Anni Albers:
30th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 74 A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives
- Jun.-Sep. 75 Kenji Kitagawa:
Devices in Black – The Distance of Memory
- Sep.-Dec. 76 Helen Frankenthaler's Experimental
Impressions:
31st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2019

- Mar.-Jun. 77 Heisei Graphics
- Jun.-Sep. 78 DNP Graphic Design Archives Collection VIII
Masayoshi Nakajo Posters
Freshly Picked from the Archives
- Sep.-Dec. 79 Printing through Cloth:
32nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー（略称／ggg）
所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル
Phone:03-3571-5206
Fax:03-3289-1389
開館時間 午前11時～午後7時
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日（大阪・堂島）
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転
2014年10月9日 京都・太秦に移転
名称 京都dddギャラリー
所在地 〒616-8533
京都府京都市右京区太秦上刑部町10
Phone:075-871-1480
Fax:075-871-1267
開館時間 午前11時～午後7時（土曜・日曜特別開館午後6時まで）
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

CCGA 現代グラフィックアートセンター

開設 1995年4月20日
名称 CCGA現代グラフィックアートセンター
所在地 〒962-0711
福島県須賀川市塩田宮田1
Phone:0248-79-4811
Fax:0248-79-4816
開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
休館 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、
祝日の翌日（土・日にあたる場合は開館）、
展示替え期間中、冬期（12月下旬～2月末）
入場料 一般＝300円、学生＝200円、
小学生以下と65歳以上および障がい者手帳をお持ちの方は無料。
サロン
利用料 200円

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団
<http://www.dnp.co.jp/foundation>

ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986
Name: ginza graphic gallery (ggg)
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 3571 5206
Fax: +81 3 3289 1389
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

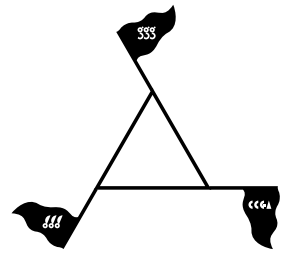
kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto
Name: kyoto ddd gallery
Location: 10, Kamikeibuchō, Uzumasa,
Ukyō-ku, Kyoto, 616-8533
Phone: +81 75 871 1480
Fax: +81 75 871 1267
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, irregularly open on Sundays)
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

Center for Contemporary Graphic Art

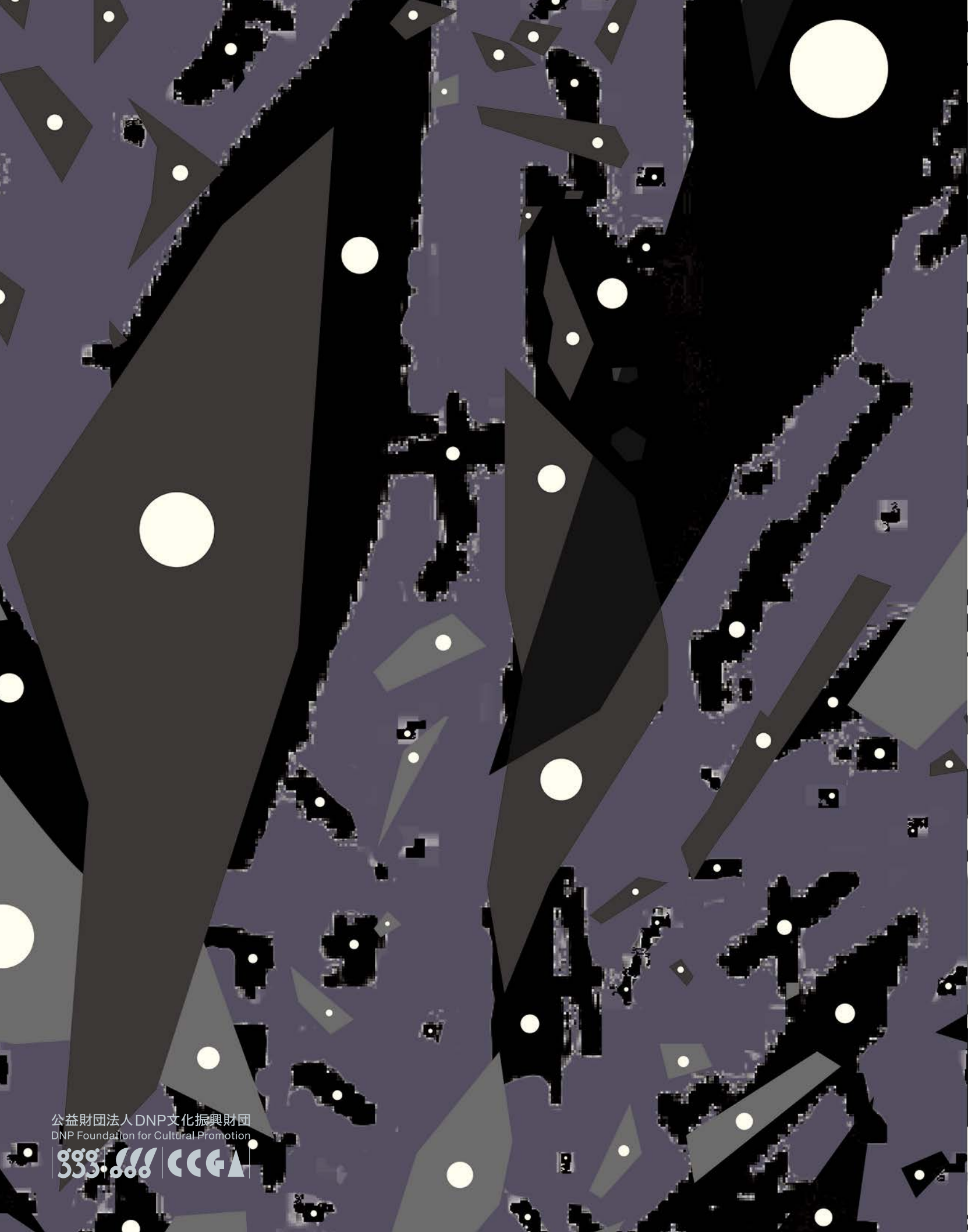
Establishment: April 20, 1995
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,
Fukushima 962-0711
Phone: +81 248 79 4811
Fax: +81 248 79 4816
Opening Hours: 10:00am to 5:00pm (Admission until 4:45pm)
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday),
between exhibitions and during winter (late December through February)
Admission: Adults= ¥300, Students= ¥200,
Free for young children (through elementary school), senior citizens (65 and over) and the disabled.
Salon Utilization Fee: ¥200

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion
<http://www.dnp.co.jp/foundation>



Graphic Art & Design Annual 2019 ggg ddd CCGA

発行	公益財団法人DNP文化振興財団 〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル Phone: 03-5568-8224
企画・編集	公益財団法人DNP文化振興財団
アートディレクション	松永 真
デザイン	松永 真次郎
デザインアシスト	清川 萌未、高川 知子
表紙デザイン	矢萩 喜從郎
撮影	藤塚 光政 (ggg会場写真) 堺 亮太、川並 京介 (gggギャラリートーク) 吉田 亮人、町田 益弘 (ddd会場写真、ギャラリートーク)
翻訳	室生寺 玲
印刷・製本	大日本印刷株式会社



公益財団法人DNP文化振興財団
DNP Foundation for Cultural Promotion

